

2014 平成26年

# 教室年報



岩手医科大学医学部外科学講座

Iwate Medical University, School of Medicine  
Department of Surgery: Annual Report 2014

巖刀会(外科学講座同門会)



りんごの花に囲まれた岩手山（盛岡市）

## 外科学講座の沿革

当外科学講座の歴史は古く、岩手医科大学の前身である岩手医学専門学校の創立1年後の昭和4年、副島鎮雄の教授就任まで遡ります。その後、昭和5年に三宅徳三郎、昭和13年には永松之幹が教授となり、昭和19年には瀬田孝一が教授に就任しました。昭和24年に医科大学に昇格し、昭和31年第二外科の開講に伴い外科学第一講座となった後も、瀬田は在任35年にわたり当教室の基礎を築き、現在まで続く大いなる発展をもたらしました。昭和54年の瀬田の退職後には、東北大学第2外科助教授の森昌造が教授に赴任し、疾患別のグループ体制を確立することで、研究活動の躍進がみられるようになりました。昭和61年に森が東北大学第2外科教授へ転任するにあたり、昭和62年6月に斎藤和好が外科・内科では初の母校出身の教授に昇任しました。本学の良き伝統と誠の医師としての真摯な態度を継承し、内視鏡手術の積極的な導入など外科学の更なる進歩に貢献しました。平成17年に斎藤の退職後、同年9月に慶應義塾大学外科学専任講師の若林剛が教授として就任しました。患者中心の最良の治療が選択・実践可能な「チーム医療」を充実させつつ、内視鏡外科治療の指導的施設としての発展、北東北での肝移植の実現に着手してきました。平成18年には小児外科と合併し、外科学講座と名称を変更しました。平成19年1月に第1例目の生体肝移植を成功させ、平成25年12月までに46例の肝移植を順調に実施しています。さらに、平成23年には脳死肝移植施設に認定され、平成25年に初の脳死肝移植を成功させております。教室の掲げる「患者中心の医療」を実践するため、教室員一同精進して診療しています。



## 外科学講座の 広報活動

当科では我々が行っている最新医療を一般の方、あるいは医学生や研修医の先生をはじめとするさまざまな医療関係者の方々にご理解を頂くために、ホームページの充実を図っております。先進医療の内容をトピックスとしてアピールするとともに、スタッフのプロフィールも公開しております。「主治医の顔と人となり」を少しでもお分かり頂くことで、良好な信頼関係を築く一助になることを期待しております。また、私どもが主催する市民公開講座や研究会等、各種イベントのご案内やイベント終了後のレポートも随時掲載しております。このホームページが、理想的な医療体制の実現に向けて、私どもと皆様をつなぐ架け橋となるよう願っております。

# 教室年報 (2014年)

岩手医科大学医学部外科学講座同門会

## CONTENTS

### 巻頭言

リーダーシップセミナー、その後…………… 外科学講座教授 若林 剛  
この1年を振り返って 2014 …………… 外科学講座准教授 水野 大  
教育主任の立場からみた教室の今年1年 …… 外科学講座准教授 佐々木 章  
医局長を終えて…………… 外科学講座講師 医局長 肥田 圭介

### 009 外科学講座スタッフ紹介・日常風景

### 012 グループ紹介

上部消化管グループ《食道》・上部消化管グループ《胃》・乳腺グループ・内視鏡外科グループ・肝胆膵グループ・下部消化管グループ・リサーチグループ《分子治療研究室》・小児外科グループ・高度救命救急センター・岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

### 025 平成25年診療状況

入院患者分類／手術件数／関連病院手術件数／外科専門医制度修練指定施設・関連施設／日本消化器外科学会専門医制度認定施設

### 027 卒後臨床研修プログラム

岩手医科大学医学部 外科学講座 卒後臨床研修プログラム……………卒後研修担当 水野 大

### 029 新教室員紹介

佐々木 教之／瀬川 武紀／大槻 花恵／天野 総

### 033 受賞

大淵 徹、佐々木 章、若林 剛 (外科学講座)  
黒田 英克、滝川 康裕 (内科学講座消化器・肝臓内科分野)

### 034 寄稿

佐々木 章／木村 祐輔／高原 武志  
留学先から……………小林 めぐみ／馬場 誠朗  
岩手医科大学での研修を終えて……………外館 幸敏

### 039 平成25年アルバム紹介

### 047 関連病院だより

岩手県立二戸病院・岩手県立軽米病院・岩手県立久慈病院・盛岡赤十字病院・内丸病院・盛岡市立病院・盛岡友愛病院・岩手県立釜石病院・岩手県立宮古病院・岩手県立大船渡病院・北上済生会病院・岩手県立千厩病院・岩手県立江刺病院・函館五稜郭病院・山本組合総合病院・八戸赤十字病院・かづの厚生病院

### 059 外科紹介医療機関

### 063 研究業績

### 083 編集後記

### 084 協賛広告

## リーダーシップセミナー、その後



岩手医科大学医学部外科学講座 教授

### 若林 剛

Go Wakabayashi, M.D., Ph.D., F.A.C.S  
Professor and Chairman

昨年のゴールデンウィーク休みを利用して、米国外科学会(ACS)主催のリーダーシップ啓発セミナーに参加して来た話は、2013年の教室年報巻頭言として詳細に報告致しました。私はセミナーに参加し、以下のことを学び、教室を預かるものとして再び新鮮な気持ちにさせられました。つまり、効果的なリーダーシップを発揮するためには、人を引きつけるビジョンを示し、信頼を得ること、創造的であること、そして楽天的であることが必要で、有能なリーダーはEQ (emotional intelligence quotient) が高く、コミュニケーション能力にすぐれ、コンセンサスをうまく形成することができ、チームワークを育み、他人の才能を引き出すことに秀でていると学びました。

一年が経つのはあっという間です。この一年間で、果たして私はリーダーシップについて学んだことを実践出来たのか?まず、個人的には酒量が明らかに減り、運動を行い健康に留意しています。この決断は今後の人生に何らかの意味を持つと思います。また、消化器外科学会理事に選出され、データベース委員会担当としてNCDデータを利活用した消化器外科手術成績の扱い方を学んでいます。わが国の消化器外科のレベルは

世界最高と確信しています。これらの手術成績は世界に向かって発信されるべきですし、ACSで行われているように外科治療の質向上に役立てられることになると思います。消化器外科学会理事会と各種委員会は、私が想像していた以上にしっかりと真面目に仕事をしております。特に専門医制度の変革に向けて、外科専門医制度と連動した2階部分のsubspecialityとして消化器外科専門医制度は存在意義をさらに増すと思われます。初期研修制度が開始され大学から若い医師がいなくなったのと同じことが、新専門医制度導入により起こると予想されます。いわゆる後期研修医は大学を離れ地域で研修を行うことになるはずで、引き続き消化器外科専門医カリキュラムは大学中心で行えるよう制度設計すべきではと考えております。いずれにしても自分達が引退した後の若い外科医のための専門医制度であり、このことに関して白熱した議論を繰り返している消化器外科学会理事会の面々には本当に頭が下がります。

さて、教室にとってこの一年で最も大きなニュースは木村祐輔講師の緩和医療学科特任教授昇任の話です。食道グループのチーフであった彼が本学緩和医療学科の教授に転出したことは、教室にとっても大きな意味があると思います。私が盛岡に赴任した直後に「外科学教室に緩和ケアチームを作ろう!」との思いから、木村祐輔先生にその大役をお願いしたことがこの話の発端です。私が教室を預かる立場となって、「再発したら患者に興味を失う外科医は育てたくない」と考えたからです。その後、彼はリーダーシップを発揮して外科学教室の緩和ケアチームを病院の緩和ケアチームにまで発展させ、県内の関連病院をつなぐテレカンファレンスを毎月開催し、これまでに55回の開催で延べ6400名を超える参加者と一緒に緩和ケアを考え、岩手県の緩和医療を全国レベルにまで引き上げたといっても過言ではないでしょう。5年後に開院予定の矢巾新病院には緩和ケア病床が30床あまり開設されると聞いておりますが、木村祐輔教授はそこでもまた新たなリーダーシップを発揮してくれることと大いに期待しております。

昨年の巻頭言に書いたdemocratic leadershipと言う新しい概念は、トップダウンではなく個々の自主性を

# kabayashi

重んじたチームの機能のさせ方です。教室もそれぞれの領域毎にチーフがいて、それぞれのリーダーシップを発揮してくれています。今年の秋、盛岡で開催される第27回日本内視鏡外科学会総会は事務局長の佐々木章准教授が中心となり教室員をあげて鋭意準備しておりますが、過去最多の演題数を集め盛岡での経済効果が沿岸まで波及し間接的な復興支援になることを期待しております。小児外科チーフの水野 大准教授も小児外科希望者を毎年集めており、将来的には岩手県ひいては北東北地方の小児外科医療を担う小児外科医を育成することになるでしょう。胃外科チーフの肥田圭介講師も今春から特任准教授に昇任し、新専門医制度に備えて外科医の卒前・卒後教育担当主任として大いにリーダーシップを発揮してくれることを期待しております。岩手医大のBSTで外科が一番充実していると言われるようになることを目標としております。また、関連病院には消化器外科専門医と小児外科専門医と乳腺専門医がしっかりと常勤するように外科医を増やしたいと思いません。乳腺外科チーフの柏葉匡寛講師も、乳房再建が保険収載されたことでプレストケア外来を新設し張り切っております。県内随一の症例数と診療の質を提供している乳腺外科チームですが、さらに全国有数のチームに育てて欲しいと思います。

私にとっては腹腔鏡下肝切除の国際コンセンサス会議が現在、最も力を注いでいることですが、これにも democratic leadershipが大いに必要であると考えます。全世界から40名におよぶ肝切除のエキスパートを盛岡に集め、腹腔鏡下肝切除の意義、手技、適応、展望などを議論したいと思います。これまでも大いにリーダーシップは必要でしたが、これからは項目毎のコンセンサスを得るために個性の強い専門家集団をまとめていかなければなりません。自分にとって大きなチャレンジですが、その状況もまた楽しみです。5年前は怖くて出来なかった手技が、なぜ今は不安無く出来るのか？

加齢には勝てませんが、手術の醍醐味を大いに満喫している自分に気づきます。コンセンサス会議の成功に全力を投入したいと思います。



# MASARU Miz



## この1年を振り返って 2014



岩手医科大学医学部外科学講座 准教授

水野 大

Masaru Mizuno, M.D., Ph.D.  
Associate Professor

2014年の話題といえば、2020年の夏季五輪・パラリンピックの開催都市に東京が選ばれたこと、「富士山」(山梨県、静岡県)を世界文化遺産に登録されたこと、第23回参院選での自民党圧勝による国会のねじれ解消などが挙げられますが、我々東北人にとって何よりも喜ばしく力付けられたのは東北楽天ゴールデンイーグルスがプロ野球日本一に輝いたことでしょう。被災地である仙台市を本拠地とする楽天の日本一には、被災した多くのファンが勇気づけられました。

一方、暗い話題としては「あなたもか」という感の否めない東京都知事の政治資金問題、消費税増税の決定、一流ホテルに端を発した食材偽装問題などがありました。

また、話題というものではありませんが「震災の記憶の風化」は最も危惧されるべきものです。東京五輪・パラリンピック開催決定に伴う資金、労働力の東京集中も危惧されますが、社会の「震災」への認識の変化も気になるところです。政府主催の東日本大震災追悼式典が「被災地」ではなく東京で行われ

たことや、ある雑誌での「被災地の今」特集が千葉から始まり北上する形で進み、本県は6県中5番目に取り上げられていたことなど、「被災」が被災地中心ではなく首都圏中心の目線からになっていると感じるのは私だけでしょうか。

さて、足下に目を向けますと、「外科離れ」が止まりません。他大学出身者の入局などもあり何とか途切れることなく入局者はいるものの、安定ラインと考えられる一学年4人を下回る年が続いております。入局者増には6年次の高次臨床実習(スーポリ)で外科を選択する者が増えることが必須と考え、5年次の臨床実習(ポリクリ)では、熱く「外科の魅力」を伝えておりますが、実際の高次臨床実習配属では「熱い診療科」より「自己学習時間に余裕のある診療科」を選択する学生が多いのが現状です。これは、「医師国家試験合格」を至上の目標とする以上やむを得ない感はありますが、「誠の医師を育てる」という本来の医学教育とは違うと感じざるを得ません。新年度からは「卒前教育」を重点課題とし、肥田特任准教授に担当していただくことになりました。我々学内のスタッフが協力するのはもちろんですが、同門の先生方にも何か良いお考えがありましたらアドバイスしていただきますようお願い申し上げます。

最後に、本年10月にはいよいよ若林 剛教授を会長とする第27回日本内視鏡外科学会総会および第2回腹腔鏡下肝切除術国際コンセンサス会議が盛岡で開催されます。この二つの大きなイベントを成功させるべく教室員は一丸となって準備を進めております。同門の先生方におかれましてもご助力を賜りますようお願い申し上げます。

## 教育主任の立場からみた 教室の今年1年



岩手医科大学医学部外科学講座 准教授

**佐々木 章**

Akira Sasaki, M.D., Ph.D.  
Associate Professor

教育主任の立場からみた教室の今年1年を振り返り、大学院指導と教室員の研究業績評価について報告いたします。3年前から医学研究科博士課程の履修プロセス支援・管理体制が大幅に変更となりました。そして、平成24年度からは、論文投稿の証明書を付けて投稿審査中論文受理願いを3月1日までに提出すると1年間の学位審査の延長が認められ、学位記授与が翌年3月に延期できるというシステムが始まりました。この制度を利用して、教室の大学院4年の9名中8名(89%)は1年延長となっています。新年の関連病院懇話会でも大学院生指導について述べましたが、英文論文指導者は、大学院4年で医学博士課程の学位申請資格審査を申請できるように、英文論文の投稿時期を守らせる義務があります。この目標を達成するためには、「英文論文投稿の経験(指導者・大学院生)」、「データベースの構築」、「研究の立案」、「研究関連論文の多読」、「論文投稿先の選択」などが重要と考えます。英文論文の投稿は、当院の研究評価にも影響を及ぼします。岩手医科大学の研究評価部会では研究業績を、1) JCR掲載雑誌および岩手医誌に

掲載された論文数(評価:0-2点)、2) 評価論文の impact factor 値合計(評価:0-5 点)、3) 筆頭演者学会発表数(評価:0-2点)で評価し、各講座に対する研究費配分を3ランク(A, B, C)に分けています。教室に対する平成24年度研究評価はランクB(18位)であり、今後の課題ともいえます。

最後に今後の展望として、教室では、全手術件数に対する内視鏡外科手術の占める割合は年々増加し、近い将来には約80%に到達すると思います。研修医・専修医は開腹手術を経験しないで、内視鏡外科手術から手術を開始する時代となることが予測されますので、教育主任の立場からは、卒前教育としてトレーニングを含めた内視鏡外科教育学が重要と思います。また、卒後教育では、research mindを持った獨創性、evidenceを世界に発信できる国際性、教室員それぞれの意向に沿った教育と研修を考える必要があります。しかし、教室員も自我に目覚め、臨床・教育・研究、そして遊びにも全力を尽くす姿勢を持つことを願いたいと思います。

# Sasaki





## 医局長を終えて



岩手医科大学医学部外科学講座 医局長

**肥田 圭介**

Keisuke Koeda, M.D., Ph.D.  
Assistant Professor

医局員、同門の先生方の協力をいただき無事2期4年の医局長任務を終了することになりました。これまで御指導、御協力いただいた先輩方、文句や苦情もあったと思いますが協力していただいた後輩の皆様に厚く感謝申し上げます。

医局長を終えるにあたり、岩手医科大学外科の医局とは?と考えてみた。研修医制度が始まり、巷の若手医師に向けた雑誌などを見るにつけ医局あるいは学位は必要ない、他人より多くの臨床経験を積み専門医資格を習得することが優先と書かれていることに気づく(気のせい?)。確かに自分で研修先を決め、病院を選択し業績を積み上げ次々とキャリアアップを図っている医師が存在することも事実である。しかしその一方で医局という組織でバックアップしてこそ一歩ずつ階段を上がり目標に到達することができる医師がいるのも確かである。どちらかというところの方が圧倒的に多いのではないかとも思う。自分のキャリアを振り返ってみても学位、認定医、専門医、指導医と医局のルールに乗り、先輩の先生方の指導の下、自然と目標を達成できて来たように思う。

一方、医局のルールに乗せられた(?)若手の先生は果たして幸せなのだろうか。こちらが期待する学位や資格、社会人としての常識の取得などより外科医として手術を覚えたい、臨床能力をつけたいという思いが実は勝っているのではないだろうか。確かに自分もそうであった。学位をとるよりも関連病院に行き執刀数を増やす事に興味や情熱を注いでいたような気がする。そんな中、昨年直接指導していた若手医師の一人が医局を離れていった。理由も言わず去って行ったので彼の真意は未だによく解らない。自分の至らなさに失望し、指導について深く考えさせられる一件であった。しかし大学院等で研究し学位を取る、専門医を既定の年限で取る、これらの指導は外科医になり四半世紀が過ぎた今なくても役に立っていることも事実であり、ぶれてはいけないと改めて感じている。利点、欠点は勿論色々あるが、医療過疎地の関連病院を抱える岩手医科大学としてはまだまだ医局の果たす役割があると確信している。気苦労も多く大変な役職であるが、ある程度この仕事を共有することも必要と思う。次期医局長の敏腕に大いに期待して、今後はこっそりと応援していきたいと思います。

# KE Koeda





助教  
塩井 義裕  
〔平成13年卒〕

名古屋医療センターがん  
プロфилактиカル研修生  
加藤 公一

助教  
長谷川 康  
〔平成14年卒〕

助教  
秋山 有史  
〔平成11年卒〕

助教  
石田 和茂  
〔平成17年卒〕

助教  
藤原 久貴  
〔平成10年卒〕

助教(任)  
藤井 仁志  
〔平成20年卒〕

助教(任)  
吉田 雅一  
〔平成20年卒〕

助教(任)  
西成 悠  
〔平成19年卒〕

助教  
武田 大樹  
〔平成20年卒〕

助教  
板橋 英教  
〔平成15年卒〕

非常勤講師  
杉立 彰夫

特任助教  
吉田 宗平  
〔平成23年卒〕

秘書  
佐藤 准子

秘書  
一戸 美香

講師  
岩谷 岳  
〔平成7年卒〕

講師  
木村 祐輔  
〔平成6年卒〕

講師  
新田 浩幸  
〔平成5年卒〕

講師  
大塚 幸喜  
〔平成5年卒〕

講師  
柏葉 匡寛  
〔平成3年卒〕

准教授  
佐々木 章  
〔昭和63年卒〕



- 片桐 弘勝 助教 [平成16年卒]
- 野田 宏伸 助教 [平成16年卒]
- 千葉 丈広 助教 [平成15年卒]
- 小松 英明 助教 [平成16年卒]
- 梅邑 晃 助教(任) [平成17年卒]
- 鈴木 千里 秘書
- 箱崎 将規 助教 [平成15年卒]
- 大森 幸美 研究捕手
- 伊藤 安理加 秘書
- 鴻巣 正史 助教 [平成13年卒]
- 佐藤 慧 大学院生 [平成21年卒]
- 安藤 太郎 大学院生 [平成24年卒]
- 木村 聡元 助教 [平成14年卒]
- 若林 剛 外科学講座 教授 [昭和57年卒]
- 水野 大 准教授 [昭和62年卒]
- 肥田 圭介 講師 [平成元年卒]
- 西塚 哲 講師 [平成6年卒]
- 小林 めぐみ 助教(任) [平成19年卒]
- 伊藤 千絵 大学院生 [平成18年卒]
- 館藤 美智子 秘書
- 石田 馨 助教(任) [平成18年卒]
- 松尾 鉄平 助教 [平成17年卒]
- 高原 武志 助教 [平成12年卒]

病棟回診風景



西成君、わかりやすくプレゼンして！



箱崎先生、わかりやすいプレゼンだね。でも術衣は良くないね！



武田先生、この患者さんの治療方針は？



えっ！長谷川先生、それでいいの・・・。



そういうことね・・・武田先生、頼むよ。



西4病棟は常に満床です。チームワークでがんばってます。

## グループ紹介

上部消化管グループ《食道》

上部消化管グループ《胃》

乳腺グループ

内視鏡外科グループ

肝胆膵グループ

下部消化管グループ

リサーチグループ《分子治療研究室》

小児外科グループ

高度救命救急センター

岩手医科大学附属花巻温泉病院外科



医局秘書

### 上部消化管グループ《食道》

STAFF：木村祐輔・岩谷 岳・秋山有史・鴻巣正史

専門外来

火曜  
8時30分-17時



食道癌の治療を担当しています。毎週火曜日の「食道専門外来」では、主に治療後のフォローアップや、ご紹介いただいた患者様の診察を行います。外来診療は通常のフォローアップとともに、外来化学療法室、治療放射線科と連携し、外来放射線/化学療法を積極的に導入しています。入院においては、手術治療を中心に早期癌から高度進行癌まで、当科が中心となり消化器・肝臓内科や放射線科と連携し治療にあたっており、特に手術不能の高度進行癌に対しては化学・放射線療法を組み合わせた治療を積極的に行うことにより治療成績の向上を目指しております。また、われわれは日本臨床腫瘍グループ（JCOG）に所属し、多施設共同臨床研究を通じて本邦の標準治療の開発に携わっております。

食道癌の治療につきまして、いつでもご相談をお受けいたしております。是非お気軽にご連絡下さい。

連絡先 岩谷 岳 E-mail: tiwaya@iwate-med.ac.jp

#### 平成25年のニュース

- 12月 ▶ 鴻巣正史助教が消化器外科専門医試験に合格しました。
- 1月 ▶ 木村祐輔講師が緩和医療学科特任教授に昇進されました。

### 平成25年 診療・研究状況報告

- 入院数：64例
- 手術数：27例（胸腔鏡下食道切除術：15例）
- 食道癌手術年次推移 全切除数（うち胸腔鏡下手術）  
2007年 28(7)例、2008年 28(17)例、2009年 32(20)例、  
2010年 26(12)例、2011年 25(11)例、2012年 29(23)件、  
2013年 27(15)例
- 平成25年研究報告

#### 【教室内】

- ・「胸部食道癌術後感染性合併症と血糖値に関する研究」論文投稿中
- ・「食道癌切除術後、アミノ酸付加末梢静脈栄養補助療法の検討」論文執筆中
- ・「積極的アミノ酸投与による食道癌根治術後栄養管理の検討」論文執筆中
- ・「進行食道癌に対するDocetaxel/Cisplatin/5-Fu療法の検討」論文執筆中
- ・「食道癌術前化学療法と術後感染症との関連性の検討」データ集積中
- ・「進行食道癌における食道ステント挿入術の検討」予後追跡中
- ・「食道癌および胃癌間質におけるゲノムワイドメチル化解析」解析中
- ・「次世代シーケンサーを用いた食道扁平上皮癌における網羅的遺伝子変異解析」論文作成中（九州大学別府病院外科と共同研究）
- ・「17番染色体長腕上の食道扁平上皮癌原因遺伝子の同定」文部科学省科学研究費 基盤研究C（研究代表者

岩谷）論文作成中

- ・癌細胞・癌関連線維芽細胞におけるヒストンmRNAmicroRNA代謝経路を標的とした癌治療法開発に向けた基礎研究 文部科学省科学研究費 基盤研究C（研究代表者 岩谷）
- ・新規がん抑制遺伝子TMPRSS11の解析 文部科学省科学研究費 基盤研究C（研究代表者 秋山）
- ・食道癌肉腫の分子生物学的解析による食道癌・間葉系機構の解明
- ・「消化器癌の予後に関わるlong intergenic noncoding RNA (LincRNA) の解析」解析中

#### 【全国規模】

- ・JCOG0502「臨床病期 I（Clinical-T1N0M0）食道癌に対する食道切除術と化学放射線療法同時併用療法（CDDP+5-FU）のランダム化比較試験」症例登録中。
- ・JCOG0909「臨床病期 II/III（T4を除く）食道癌に対する根治的放射線療法 +/- 救済治療の第II相試験」症例登録中。
- ・JCOG0807「切除不能または再発食道癌に対するDocetaxel, Cisplatin, 5-FU 併用療法の臨床第I/II相試験」症例登録中。

#### ● 今後の研究課題

- ・根治的放射線化学療法後のSalvage surgeryの積極的な実施。
- ・腹臥位胸腔鏡下食道切除術の手術件数を増加させる。
- ・高度進行食道癌に対する新規治療法の開発

## 上部消化管グループ《胃》

STAFF：肥田圭介・藤原久貴・千葉丈広

専門外来

木曜  
8時30分～16時



昨年の胃グループの診療はこれまでの肥田、藤原の2名に加え4月から癌研有明病院での2年間の研修を終えた千葉の計3名の固定スタッフにて診療を行っております。千葉先生から癌研で学んだ新しい知識、手技を紹介、指導？してもらいながら、互いの良いところを探り、より良い診療を行うように日々努力しています。診療内容としては従来から力を入れて取り組んでいる①腹腔鏡下手術の適応拡大（進行がんへの応用、完全鏡視下手術の導入）②化学療法による高度進行胃がんに対する集学的治療に加え、ダビンチサージカルシステムを用いたロボット支援胃切除術の導入、高度進行再発胃癌に対する多施設共同研究や治験への積極的症例登録を推進しております。

また8月には当科担当でJCOG胃グループ夏の班会議を安比高原にて開催いたしました。ご協力をいただきました同門の諸先生に改めて深謝申し上げます。お陰様で、胃グループも少しずつではありますが他のグループに負けないよう全国での認知度を得ることができてまいりました。今後とも引き続きご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### 平成25年のニュース

- 2月 ▶ 8th日中韓腹腔鏡下胃切除セミナー（上海）に参加（肥田）
- 4月 ▶ 千葉丈広先生2年間の癌研有明病院での研修を終了帰局
- 6月 ▶ 国際胃癌学会（ベローナ）に参加、発表（肥田、藤原）
- 8月 ▶ JCOG胃がんグループ夏合宿（安比高原）開催
- 12月 ▶ 岩手県初のロボット支援下幽門側胃切除術施行

## 平成25年 診療・研究状況報告

### ●手術数：138例

《内訳》

胃癌 開腹切除 45例  
腹腔鏡下切除 56例（ロボット支援下切除1例）  
その他（非切除パイパス、GIST等） 37例

### ●平成25年研究報告

- ・JCOG 0110「上部進行胃癌に対する胃全摘術における脾合併切除の意義に関するランダム化比較試験」症例登録終了、解析中。
- ・JCOG 0501「根治切除可能な大型3型・4型胃癌に対する術前TS-1+CDDP併用療法による第Ⅲ相試験」症例登録中。
- ・JCOG 0705「治癒切除不能進行胃癌に対する胃切除術の意義に関するランダム化比較第Ⅲ相試験」症例登録中。
- ・JCOG0912「臨床病期Ⅰ期胃がんに対する腹腔鏡下幽門側胃切除術の開腹幽門側胃切除術に対する非劣性を検証するランダム化比較試験」症例登録中。
- ・JCOG1001「深達度SS/SEの切除可能胃癌に対する網膜切除の意義に関するランダム化比較第三相試験」症例登録中。
- ・JCOG1002「高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する術前Docetaxel+CDDP+S-1の第Ⅱ相試験」症例登録中。
- ・JCOG1013「切除不能進行・再発胃癌を対象としたS-1/シスプラチン併用（CS）療法とドセタキセル/シスプラチン/S-1併用療法（DCS）療法のランダム化比

較試験」症例登録中。

- ・JCOG1104「病理学的StageⅡ胃癌に対するS-1術後補助化学療法の期間短縮の意義を検討するランダム化比較試験」症例登録中。
- ・JFMC42-1002「胃全摘術施行後の消化管機能異常に対する大建中湯の臨床効果（プラセボを対照とした多施設二重盲検群間比較試験）症例登録、解析終了、DDW2014にて肥田発表予定。
- ・JFMC43-1003「切除不能進行・再発胃癌症例に対するTS-1の連日投与方法および隔日投与方法のランダム化第Ⅱ相試験」症例登録終了、解析中。
- ・JLSSG0901「進行胃癌に対する腹腔鏡下手術と開腹手術の安全性と根治性に関するランダム化Ⅱ/Ⅲ相比較試験」Ⅱ相終了、Ⅲ相症例登録中。
- ・STAR ReGISTry「ハイリスク消化管間質腫瘍(GIST)に対する完全切除後の治療に関する研究」症例登録中。
- ・大型胃GISTに対する術前イマチニブ療法の第Ⅱ相試験 症例登録中。

### ●今後の研究課題

- ・併存疾患を有する胃癌症例に対する化学療法の確率
- ・腹腔鏡下胃癌手術の推進、技術認定医育成など
- ・癌性腹水に対する抗癌剤感受性試験を指標とした化学療法
- ・胃切除再建法別の糖代謝に対する影響に関する検討
- ・胃癌症例における骨代謝の検討

## 乳腺グループ

STAFF：柏葉匡寛・小松英明・石田和茂・川岸涼子  
松井雄介・大槻花恵

専門外来

火・水曜日  
8時30分-17時  
(新患は火曜・水曜  
常時受け付けます)



第11回乳癌学会東北地方会@仙台 函館五稜郭病院

岩手県における乳癌診療の中核をなすべく、整容性の高い温存術、センチネルリンパ節生検、同時・2期再建といった高い精度の外科手術と、高いQOLを維持した周術期薬物療法と再発治療からなる標準薬物療法の実践を基本として地域への貢献に努めています。その間も乳腺チーム（専門医・認定医・研修医師、薬剤師、乳がん看護認定看護師含む看護師）での診療を基本として、看護師、薬剤師によるきめ細やかな患者サポートにより高度化された乳癌治療を分かり易く患者さんにお伝えし、満足度も高い治療環境の提供をモットーとしています。さらに次世代のエビデンスの創出に向け医師主導試験、開発治験では東北最大数を実践、東北、岩手でもいち早く最新治療を受けられること、参加の機会を逸することの無いよう心掛けています。また県内外からのセカンドオピニオン、薬物療法の相談、再発治療からの紹介も承っています。これら診断、手術、薬物療法、研究全般に真摯に向き合うことを通じて次世代の乳癌外科医の育成を推進しています。

### 平成25年のニュース

- 2月 ▶ 岩手乳癌疾患研究会開催  
▶ 小松先生 ご長女誕生
- 3月 ▶ 第10回日本乳癌学会東北地方会@仙台：若林教授を当番世話人として開催  
▶ JOCG乳がんグループに承認される
- 4月 ▶ オンコプラスチックサージャリー学会指定講習会受講、保険申請登録完了
- 6月 ▶ 第21回乳癌学会総会にて全員が発表（柏葉、小松、石田、川岸、松井）
- 8月 ▶ ISW 2013@ヘルシンキにて小松先生発表
- 9月 ▶ Breast Cancer Academic Exchange Forum for Asia 2013@台北にて招待講演（柏葉）  
▶ ESMO Annual MTG@アムステルダム招待参加（柏葉）
- 10月 ▶ プレストケアセミナー講師（柏葉）  
▶ 第5回岩手ピンクリボンウォーク  
▶ 第51回日本癌治療学会総会にて発表（柏葉、小松、石田、川岸）
- 11月 ▶ Advanced Breast Cancer-2 @リスボン参加（柏葉）
- 12月 ▶ San Antonio Breast Cancer Symposium参加（柏葉）

## 平成25年 診療・研究状況報告

### ●手術数：175例

《内訳》

疾患	術式	症例数
乳癌	乳房部分切除	116例（温存率66%）
	胸筋温存乳房切除 乳腺全摘術	59例
計		175例

《年次手術数推移》

	2011年	2012年	2013年
原発乳癌	135件	166件	175件

### ●平成25年研究報告

《臨床研究》

- ・ Triple negative 乳癌の免疫染色による臨床的サブタイプの検討
- ・ 再発乳がんにおける適切な併用療法の探索・同定
- ・ 乳癌原発および生検組織でのKi67-LIの変化と臨床的有用性の検討
- ・ 術前化学療法後センチネルリンパ節生検の安全性の検討
- ・ センチネルリンパ節生検時転移陽性症例における郭清省略可能症例の予測因子の検討
- ・ マウス脳転移好発細胞株からの転移関連遺伝子の同定
- ・ 乳癌の転移と薬剤感受性におけるEMTの関与の検討

- ・ Triple negative 乳癌におけるClaudin発現と臨床病理学的因子の相関の検討

#### 《医師主導研究》

- ・ JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group) -04「術前化学療法、原発巣手術施行後、病理学的に腫瘍が残存している乳がん患者を対象にした術後補助療法におけるCapecitabine単独療法の検討」第Ⅲ相比較試験
- ・ 手術可能なHER2陽性乳がんに対するTrastuzumab+ Cyclophosphamide+ Docetaxelを含む術前化学療法のランダム化第Ⅱ相比較試験 (JBCRG-10)
- ・ OOTR-N003 (Organisation for Oncology and Translational Research) 「手術可能な女性乳がんに対する術前化学療法としての5-フルオロウラシル + エピルビシン + シクロホスファミド (FEC) 療法に連続するドセタキセル (T) 療法とドセタキセル + カベシタビン (TX) 療法のランダム化比較試験」
- ・ 財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳がん臨床研究支援事業「転移・再発乳がんに対するアンストラサイクリン系薬剤とティーエスワンのランダム化比較試験 (SELECT BC-CONFIRM)」
- ・ 財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳がん臨床研究支援事業「レトロゾールによる術前内分泌療法が奏効した閉経後乳がん患者に対する術後化学内分泌療法と内分泌単独療法のランダム化比較試験 (NSAS-BC06)」
- ・ 財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳がん臨床研究支援事業「HER2陽性の高齢者原発性乳がんに対する術後補助療法における化学療法とトラスツズマブ併用に関するランダム化比較試験 (NSAS-BC07)」
- ・ JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group) -C05 「HER2陰性の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたペバシズマブとパクリタキセルの併用療法の有用性を検討する観察研究」
- ・ 医師主導試験「進行・再発乳がん患者のがん疼痛治療に対する塩酸オキシコドンの有効性・安全性に関する検討」

#### 《開発治験》

- ・ 前治療なしのHER2陽性転移性乳癌患者におけるPertuzumab + Trastuzumab + DocetaxelとPlacebo + Trastuzumab + Docetaxelの有効性及び安全性を評価する国際第Ⅲ相無作為化二重盲検プラセボ対照比較試験 (CLEOPATRA試験)
- ・ ErbB-2陽性局所再発性又は転移性乳癌患者を対象としたNeratinib (HKI-272) とパクリタキセルの併用投与及びトラスツズマブとパクリタキセルの併用投与を第一選択療法として比較する国際第Ⅲ相無作為化非盲検2群対照試験
- ・ 「転移・再発乳癌患者を対象としたRO4876646 (Avastin) とパクリタキセルの併用第Ⅱ相試験」
- ・ 転移性乳癌患者を対象としたABI-007 (アブラキサン) 毎週投与とドセタキセル3週ごと投与方法との比較第Ⅱ相試験
- ・ 「RO5304020 (T-DM1) によるHER2陽性の局所進行・再発又は転移性乳癌患者を対象とした第Ⅱ相臨床試験」
- ・ 「HER2陽性の進行性／再発性の局所進行乳癌又は転

移性乳癌 (MBC) の一次治療としてのT-DM1とペルツズマブの併用又はT-DM1とペルツズマブのプラセボ (ペルツズマブに対し盲検) の併用の有効性及び安全性をトラスツズマブとタキサン系薬剤の併用と比較する国際多施設共同第Ⅲ相ランダム化3群比較試験 (MARIANNE試験)

- ・ 「手術可能なHER2陽性原発性乳癌における術後療法としての化学療法+トラスツズマブ+プラセボと化学療法+トラスツズマブ+ペルツズマブのランダム化、多施設共同、二重盲検、プラセボ対照での比較試験第Ⅲ相、ランダム化、多施設共同、二重盲検、プラセボ対照試験 (APHINITY試験、BIG4-11/BO25126/TOC4939g)」
- ・ 「ホルモン受容体陽性HER2陰性進行再発閉経後乳癌に対するレトロゾール+エベロリムス併用オープンレベル単アーム第Ⅱ相多施設共同試験 (Bolero-4試験)」
- ・ 進行癌に対する全身抗癌療法歴のないER陽性HER2陰性の閉経後進行乳癌女性患者を対象とし、PD-0332991 (経口CDK 4/6 阻害剤) +レトロゾール併用とプラセボ+レトロゾール併用を比較する、無作為化、多施設共同、二重盲検、第3相試験 (Protocol No.: A5481008)

#### ●今後の研究課題

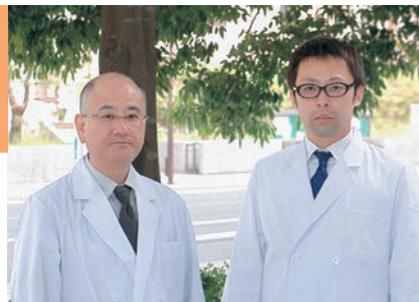
- ・ Triple-negative (ER/PgR/HER2陰性) 乳癌のサブタイプニングの臨床的意味の検証→TMAによるCluster化は終了、術前化学療法の効果と相関があるか検証へ (柏葉)
- ・ 再発乳がんにおける適切な併用療法の探索・同定→Capecitabine/CPT-11併用療法PhaseI終了、Oncology in Press、Eribulin/Gemcitabine PhaseI施行中
- ・ 乳癌原発および生検組織でのKi67-LIの変化と臨床的有用性の検討→乳癌学会、癌治療学会にて報告済み (小松論文化中)
- ・ 術前化学療法後センチネルリンパ節生検の安全性の検討→外科学会で報告済み (小松論文化中)
- ・ センチネルリンパ節生検時転移陽性症例における郭清省略可能症例の予測因子の検討→外科学会で報告済み (大概・小松論文化中)
- ・ マウス脳転移好発細胞株からの転移関連遺伝子の同定→乳癌学会、外科学会で報告済み (石田論文化中)
- ・ 乳癌の転移と薬剤感受性におけるEMTの関与の検討→学位論文として投稿中 (川岸論文化済み)
- ・ Triple negative 乳癌におけるClaudin発現と臨床病理学的因子の相関の検討→学位論文として投稿中 (松井論文化済み)
- ・ 看護師による術後化学療法決定の支援、治療中の生活支援研究の指導・支援→弾性ストッキングによる下肢末梢神経障害の予防を乳癌学会にて報告済み (熊谷看護師論文化中)
- ・ 薬剤師による術後化学療法における嘔気・嘔吐、末梢神経障害の支持療法開発の指導・支援 (佐藤薬剤師論文化中)
- ・ 癌化学療法専門薬剤師、乳がん看護認定看護師の育成補助→新病院へのメンバー教育強化として三浦・熊谷看護師継続課題
- ・ チーム医療の有用性の科学的評価→医師、薬剤師、看護師のレベル別到達目標のラダー化による可視化の試み

## 内視鏡外科グループ

STAFF：佐々木 章・大淵 徹・馬場誠朗・梅邑 晃

専門外来

水曜  
8時30分-12時



臨床ではsingle port surgery、reduced port surgeryの適応拡大、研究では高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術に関する研究が中心となりました。手術件数は2011年とほぼ同じですが、肥満合併2型糖尿病に対するmetabolic surgeryが増加しています。

### 平成25年のニュース

- 6月 ▶ 圭陵会共同研究助成受賞（大淵 徹）
- 8月 ▶ Reduced Port Surgery Forum in Moriokaが盛会に終了（佐々木章）
- 12月 ▶ 大学院4年で医学博士学位論文終了（梅邑 晃）

## 平成25年 診療・研究状況報告

●手術数：内視鏡外科手術 71件（手術日の月曜日は祝日が多く、肝移植で手術枠が制限されるために、定期出張である盛岡市立病院で14例を行いました）。

《内訳》

疾患	術式	症例数
胆嚢良性疾患	腹腔鏡下胆嚢摘出術	26
甲状腺良性疾患	内視鏡下甲状腺垂全摘術	1
	内視鏡下甲状腺葉切除術	3
副腎疾患	単孔式腹腔鏡下副腎摘出術	2
	2孔式腹腔鏡下副腎摘出術	7
	多孔式腹腔鏡下副腎摘出術	1
高度肥満症	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	12
脾臓疾患	2孔式腹腔鏡下副腎摘出術	2
胃粘膜下腫瘍	単孔式腹腔鏡下胃局所切除術	2
	LECS	3
食道アカラシア	単孔式腹腔鏡下Heller-Dor法	1
	2孔式腹腔鏡下Heller-Dor法	3
十二指腸腺腫	LECS	2
隣腫瘍	腹腔鏡下隣部分切除術	1
腹腔内膿瘍	腹腔鏡下ドレナージ	1
腹壁癒痕ヘルニア	腹腔鏡下ヘルニア修復術	1
腸閉塞	開腹下腸切除術	2
鼠径ヘルニア	開創鼠径ヘルニア修復術	1
計		71

《年次手術数推移》（主要疾患）

疾患	2010年	2011年	2012年	2013年
胆嚢良性疾患	41	36	25	26
甲状腺良性疾患	6	8	12	4
脾臓疾患	7	0	5	2
副腎疾患	3	6	9	10
高度肥満症	2	5	6	12
食道良性疾患	4	3	0	4

### ●平成25年研究報告

《教室内》

- ・肥満症に対する低侵襲外科治療効果と脂肪細胞由来ホルモンの動態：終了  
（平成22年度科研費 基盤研究C）
- ・肥満手術後の脂肪細胞由来ホルモンの動態と肥満関連遺伝子の解析：終了  
（平成22年度圭陵会学術振興会 共同研究助成）
- ・腹腔鏡下減量手術後の非アルコール性肝疾患改善の定量的評価：継続  
（平成24年度科研費 若手研究B）
- ・ビデオ会議システムを利用した遠隔手術指導：継続  
（平成24年度地域医療研究事業）
- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後のGLP-1動態と非アルコール性脂肪性肝疾患に対する効果：継続  
（平成24年度圭陵会学術振興会 共同研究助成）

《全国規模》

- ・がん専門医等育成事業（厚生労働省委託事業）  
www.cael.jpをごらん下さい。

# 肝胆膵グループ

STAFF：若林 剛・新田浩幸・高原武志・長谷川 康  
板橋英教・片桐弘勝

専門外来  
木曜  
8時30分-12時30分  
金曜  
8時30分-12時30分  
14時-16時30分



肝胆膵系悪性・良性疾患に対する拡大手術、内視鏡（腹腔鏡・胸腔鏡）手術、化学療法、肝移植など幅広い治療選択肢をもって、患者様に最も適した治療は何かを考え診療にあたっております。

特に、肝疾患に対する腹腔鏡下手術は本邦で最も症例数の多い施設の一つであり、肝切除症例の約80%は腹腔鏡下手術で行っております。先進医療Bとして承認されている腹腔鏡補助下肝切除術(区域切除、葉切除)に関しても継続して行っており、良好な成績を得ております。

肝移植医療は2007年より病院全体の協力のもと積極的に行っており、生体・脳死合わせて50例を超えました。治療成績は良好であり、生体肝移植ドナー手術を腹腔鏡(補助)下で行っていることから患者の満足度も高いものとなっております。2011年9月に脳死肝移植施設として認定され、現在まで3例行いました。

胆道癌や膵癌に対しては術前および術後補助化学療法など、手術成績を向上させるべく取り組んでおります。

## 平成25年 診療・研究状況報告

- 入院数：336例
- 手術数：201例
- 平成25年の手術症例

### 《疾患別》

▶悪性：肝細胞癌：36例／転移性肝癌：43例／肝内胆管癌：6例／胆管癌：19例（肝門部8例、肝外11例）／胆嚢癌：9例／乳頭部癌：3例／膵癌（IPMC含む）：31例▶良性：生体肝移植ドナー、肝嚢胞、IPMNなど：41例▶その他：後腹膜腫瘍など：10例

### 《術式別》

脳死肝移植：1例／生体肝移植：6例／肝切除：110例／PpPD：40例／膵体尾部切除：13例／膵全摘：3例／胆管切除：5例／胆石、胆嚢良性疾患手術：8例／後腹膜腫瘍摘出：1例／バイパス（胆管、消化管）：1例／非切除：5例／その他 8例

### 《年次推移》

	2010	2011	2012	2013
肝細胞癌	28	27	34	36
肝内胆管癌	1	2	5	6
転移性肝癌	50	43	47	43
胆管癌	21	30	36	19
胆嚢癌	10	7	4	9
乳頭部癌	2	1	6	3
膵癌	15	17	33	31
脳死肝移植				1
生体肝移植	9	7	7	6

### ●平成25年研究報告

#### 《教室内》

- ・「腹腔鏡下肝切除における肝動脈遮断の有用性およびCO2ガス塞栓の危険性に関する実験的検討」論文がaccept。
- ・「3D-CTによる腹腔鏡補助下ドナー肝切除術の術難易度予測」症例集積中。
- ・「肝切除患者における肝栄養療法の有用性に関する臨床研究」症例集積中。
- ・「肝切除手術における画像支援ナビゲーションの有用性に関する検討」症例集積中。

#### 《全国規模》

- ・「ラジオ波焼灼システムを用いた腹腔鏡補助下肝切除術の多施設共同試験」
- ・「初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有用性に関する多施設共同ランダム化並行群間比較試験」
- ・「切除可能膵癌の術前化学療法の有効性・安全性に関する臨床試験」
- ・「KRAS野生型切除可能大腸癌肝転移に対する術後補助化学療法mFOLFOX6と周術期化学療法mFOLFOX6+セツキシマブの第Ⅲ相ランダム化比較試験」

### ●今後の研究課題

- ・完全腹腔鏡下肝切除術の手術手技の定型化
- ・腹腔鏡下肝切除における手術難易度予測スコアに関する検討
- ・生体肝移植レシピエント手術の全肝摘出における新たな手技の開発

## 下部消化管グループ

STAFF：大塚幸喜・木村聡元・箱崎将規・松尾鉄平  
千葉励子・高橋咲子 (WOCN：ストーマ外来)

専門外来

月曜  
8時30分-15時  
\*外来化学療法のみ  
金曜AM



1997年から大腸癌に対する腹腔鏡手術をはじめ、2013年12月までに1331例となりました。2012年までは全大腸癌の約8割が腹腔鏡手術でしたが、2013年には約9割となりました。これまで直腸癌の治療的側方リンパ節郭清は開腹手術で行っていましたが、2013年から腹腔鏡の適応としたことが大きな理由と考えます。側方郭清を腹腔鏡で施行してみた感想は言うまでのなく、拡大視効果と精緻な手技が可能であるため、自分自身の開腹手技より明らかに優れていると実感しました。もっと早くからやるべきだったと正直後悔しております。

切除不能・再発大腸癌に対しては、全国標準外来化学療法を患者様の立場になってわかりやすく説明し行っており、最期にはご家族にも納得していただける緩和を目指しております。

また、潰瘍性大腸炎やCrohn病などの炎症性腸疾患症例に対しても患者様のQOLを重視した腹腔鏡下手術を積極的に行っております。

ストーマ外来は当院の千葉励子、高橋咲子WOCナース2名でストーマ教育を行っており、精神面からもフォローさせていただいております。

教育面に関しても、若手外科医に対しての腹腔鏡手術の指導も積極的に行っており、2013年（2014年発表）には2名の内視鏡外科技術認定医合格者（箱崎将規先生、遠藤久仁先生）を輩出しました。また全国からも多数の手術見学者を招いて指導を行っております。

### 平成25年のニュース

- 3月 ▶ 第29回岩手ストーマ研究会開催。日本看護協会看護研修学校 認定看護師教育課程 皮膚・排泄ケア科主任教員の中川ひろみ先生を講師に招聘し盛会に終了。
- 4月 ▶ 板橋哲也先生が函館五稜郭へ、そして箱崎先生が新スタッフとして帰局。  
▶ 山本組合病院の加藤久仁之先生が内視鏡外科学会技術認定医となる。
- 5月 ▶ 南東北病院から外館幸敏先生が一年の研修で加入。  
▶ 北東北LAC情報交換会で大分大学医学部消化器・小児外科の猪股雅史先生と倉敷成人病センターの金尾祐之先生を講師に招聘し盛会に終了。

### 平成25年 診療・研究状況報告

●手術数（全麻）：232例

\*そのうち大腸癌手術（切除）は190例

《内訳》

疾患	術式	症例数
結腸癌(RS含む)(111例)	開腹	7例
	腹腔鏡	104例
直腸癌(RaRbP)(79例)	開腹前方切除	1例
	腹腔鏡下前方切除	49例
	腹腔鏡下ISR	2例
	開腹マイルス手術	3例
	腹腔鏡下マイルス手術	13例

	開腹ハルトマン手術	0例
	腹腔鏡下ハルトマン手術	8例
	経肛門の腫瘍切除	3例
非切除大腸癌(再発含む)	人工肛門・閉鎖	13例
FAP	腹腔鏡下大腸全摘	1例
Crohn病	腹腔鏡下手術	7例
潰瘍性大腸炎	腹腔鏡下大腸全摘	6例
大腸癌再発	腫瘍切除・リンパ節摘出	2例
イレウス	開腹イレウス解除	2例
他(憩室炎・腹膜炎など)		3例
*他科応援手術	(婦人科・泌尿器科)	8例

《大腸癌の年次手術数推移》

	2011年	2012年	2013年
結腸癌全手術数	95	133	111
直腸癌全手術数	61	71	79
計	156	204	190
腹腔鏡下大腸癌手術	120	166	168

●平成25年研究報告

《教室内》

- ・「組織学的ステージⅢa、Ⅲb大腸癌症例に対する術後補助療法としてのUFT/LV療法とUFT/LV+PSK療法の無作為化第Ⅲ相比較臨床試験」ICOG-CC01；岩手医科大学関連施設との共同臨床試験：症例登録終了し追跡中（2014年3月時点）。
- ・「腹腔鏡下大腸癌手術における臍縦切開に関する検討」：150例集積中（2014年3月時点）
- ・「腹腔鏡下大腸癌周術期における腸管処置に関する検討」：60例集積中（2014年3月時点）
- ・「Daikenchuto stimulates colonic motility after laparoscopic-assisted colectomy」：Hepato-Gastroenterologyにaccept（2013年12月）八重樫瑞典
- ・「腹腔鏡補助下大腸癌手術におけるintravenous patient-controlled analgesia (IV-PCA) の有用性」：岩手医学雑誌65(2), 87-96, 2013-06-01に掲載 藤井仁  
《全国多施設共同研究》
- ▶JCOG
  - ・1107試験「治癒切除不能進行大腸癌の原発巣切除における腹腔鏡下手術の有用性に関するランダム化比較第Ⅲ相試験（ENCORE Trial）」：症例集積中
- ▶腹腔鏡下大腸切除研究会
  - ・「肛門近傍の下部直腸癌に対する腹腔鏡下手術の前向き第Ⅱ相試験-ULTIMATE TRIAL-」症例集積中
- 今後の研究課題
  - ▶臨床面
    - ・内視鏡外科学会技術認定医の育成（2014年大腸分野合格者：岩手医科大学外科 箱崎将規、福島県立医大肝胆膵・移植外科 遠藤久仁）
    - ・腹腔鏡下大腸手術の県内外への啓蒙と技術指導
  - ▶研究面
    - ・ICOG CCの解析、論文化
    - ・学会発表の論文化

## リサーチグループ《分子治療研究室》

STAFF：西塚 哲・岩谷 岳・久米浩平・遠藤史隆・石田 馨  
佐藤 慧・伊藤千絵・杉立彰夫・大森幸美・中島裕聡

専門外来

外来なしの  
24時間営業



図1 岩手医大内丸キャンパス1号館屋上にて



図2 ケイ・デラックス

明治時代にその礎が築かれた、まさに岩手医大の出発点となった由緒ある岩手医大内丸キャンパス1号館4階にわが研究室が移転してもうすぐ2年になります。先日の岩手日報紙には、附属病院が矢巾キャンパスに移転したのちも保存される歴史的建造物として紹介されておりました。若干気がかりなのは、保存は3階までらしいのですが研究室は建築当初は存在しなかった（建て増しした）4階にあるということです。ということは、今の研究室は岩手医大の歴史として残らないのか？という疑問が湧いてきます。こうなったら「やっぱり4階まで保存すべきだ！」という声が町中から上がるように（上がらないか）頑張るしかありません（図1）。そんな重圧の中、現在進行中のプロジェクトは「癌はどうして再発するのか」、「傷はどうして治るのか」、「見えない癌は見つけられないのか」の外科学の根本的な疑問に答えるべく立案されています。内丸キャンパスでは難しい動物実験および高額機器を用いた実験は、車で20分の矢巾キャンパスにて行っていますが、7年後のキャンパス移転完了まで続きます（多分）。毎週月曜夜8時からの進捗状況ミーティング、新たなアイデアを求めて金曜は朝6：30からの抄読会も行っています。

### 平成25年のニュース

- 4月 ▶ 佐藤慧がメンバーに（仙台オープン病院から）。  
▶ 西塚、久米、遠藤、アメリカ癌学会で発表（ワシントンDC）。  
▶ 久米、日本国際賞授賞式に出席。
- 6月 ▶ 4年生ラボ配属トレーニング開始の予定だったが希望者ゼロ！
- 7月 ▶ ラボ引越1周年記念大掃除（西4階医局並びから旧動物実験室へ）。
- 8月 ▶ バーベキュー大会が週末を狙った雨により断念。  
▶ 西塚、久米、International Symposium for Systems Biology2013に出席（コペンハーゲン）。
- 9月 ▶ 安比リレーマラソンに出場（西塚、久米、石田馨ほか）。  
▶ 久米、「科研費の書き方」講師。
- 10月 ▶ 大森幸美がメンバーに（岩手県畜産研究所から）。
- 11月 ▶ 宮古サーモンハーフマラソンに出場。ハンマー投げ室伏選手と親交を深める（久米、佐藤慧ほか）。  
▶ RPPA 2013 Global Workshop開催（逆相タンパクアレイの国際ワークショップ、西塚が国立がんセンター山田哲司先生と共同チェアを拝命）。世界中から85名の参加者あり。久米、石田馨が参加。
- 12月 ▶ 外科大忘年会にてリサーチグループ、「記録より記憶」に残るパフォーマンスを披露（したつもり）～佐藤慧が主演「女優賞」を受賞（ケイ・デラックス、図2）。

## 平成25年 診療・研究状況報告

### ● 診療報告

抗がん剤感受性試験：3例 医学部4年生受入数：0名

### ● 平成25年研究報告

#### 《教室内》

- ・「薬剤耐性細胞のstochasticな出現ルールに関する研究」：久米浩平
- ・「新規タンパクアレイを用いた薬剤耐性細胞の分子生物学的プロファイル」：久米浩平

#### 《共同研究》

- ・「癌性腹膜炎腹水中からの候補バイオマーカーの単離」医薬基盤研究所との共同研究：西塚 哲
- ・「抗がん剤反応性タンパク高次データの統合解析」東北大学、九州工業大学、米国国立衛生研究所との共同

### 研究：西塚 哲

- ・「傷害肝再生に関わる骨髄間葉系多能性幹細胞に関する研究」東北大学との共同研究：片桐弘勝
- ・「5胃癌術後補助化学療法の新種同所移植モデル確立と分子標的の同定」民間企業との共同研究：石田馨
- ・「胃癌根治術後補助化学療法効果予測バイオマーカーに関する後ろ向き臨床研究（NJバイオマーカー研究）」岩手医科大学関連施設、および市立札幌病院、山形県立中央病院との共同研究。症例集積中（2014年3月に集積完了）：西塚 哲
- ・「末梢血DNAを用いたがん診断に関する研究」岩手医大消化器肝臓内科との共同研究：佐藤 慧

## 小児外科グループ

STAFF：水野 大・有末篤弘・小林めぐみ・佐々木秀策  
吉田宗平

専門外来

火曜・金曜  
10時-12時



一般小児外科外来：前年同様、原則、火曜日と金曜日の10時から12時を一般小児外科外来診察時間としておりますが、他の曜日・時間も手術、検査をはじめとする他業務との兼ね合いをみながら可能な限り対応させていただいております。

小児ストーマ・スキンケア外来：第4火曜日14時から16時。WOCナースと協力しながら、人工肛門を有する患者様や、直腸肛門奇形術後、神経因性排便障害等の患者様にスキンケア、排便コントロール等の指導をしております。

また、原則として30分刻みの枠に各5人の予約設定とし、患者様の待ち時間短縮を図っております。

### 平成25年のニュース

- 4月 ▶ 佐々木秀策、大船渡病院での卒後初期臨床研修、久慈病院での1年間の外科研修を終え教室へ帰室。
- 7月 ▶ 佐々木秀策、小児外科研修開始。
- 9月 ▶ 佐々木秀策、第166回東北外科集談会（第81回日本小児外科学会東北地方会）において会長賞受賞。  
▶ 有末篤弘、結婚。
- 10月 ▶ 小林めぐみ、自治医科大学小児泌尿器科での院外研修開始。
- 11月 ▶ 佐々木秀策、結婚。
- 12月 ▶ 有末篤弘、日本外科学会専門医取得。

## 平成25年 診療・研究状況報告

● 入院数：232例

● 手術数：231例

《内訳（重複あり）》

▶ 新生児（食道閉鎖、腹壁破裂、臍腸管遺残、壊死性腸炎、腸閉鎖、など）9例 ▶ 悪性腫瘍（悪性リンパ腫、肝芽腫、奇形腫など）8例（含む生検） ▶ 上部消化管（胃食道逆流症、肥厚性幽門狭窄症など）17例 ▶ 下部消化管（イレウス、直腸肛門奇形など）24例 ▶ 肝胆膵脾（肝肉腫、胆道拡張症、胆道閉鎖症など）10例 ▶ 急性虫垂炎10例 ▶ 単径ヘルニア類縁疾患（停留精巣含む）69例 ▶ 泌尿器系（水腎症、膀胱尿管逆流症、腎不全など）22例 ▶ 呼吸器系（CCAM、気胸、気管切開など）7例

● 過去3年間の手術数

平成23年：219件／平成24年：228件／平成25年：231件

● 平成25年研究報告

《教室内》

・胃瘻を利用した新たな低侵襲胃噴門形成術の開発 動物実験継続中

・大動物を用いた小児腹腔鏡下手術教育

《全国規模》

・JNBSG 日本神経芽腫芽腫研究グループ 高リスク神経芽腫臨床試験

・JPLT3 日本小児肝癌スタディグループ

・JWiTS2 日本ウィルムス腫瘍スタディグループ

## 高度救命救急センター

STAFF：小鹿雅博・石田 馨・佐藤寿穂

専門外来

24時間体制



高度救命救急センターは院内各講座からスタッフが派遣されている複合科であり、各科医師との連携が重要です。外科学講座はじめ同門の先生方の多大なご協力に深く御礼申し上げます。我々は外科チームですが、あらゆる救急疾患、重症疾患、急性血液浄化等の窓口とも考えております。適切な専門医と連絡を取りますので、24時間いつでもどのような病態でもご相談ください。岩手医科大学代表電話（019-651-5111）から救急センター事務経由で呼び出すように命じてください。

### 平成25年 診療・研究状況報告

#### ●手術数：80例

##### 内因性疾患（手術数）

- 食道破裂 1例
- 胃十二指腸潰瘍穿孔 8例
- イレウス 8例
- 虫垂炎 15例
- 大腸穿孔 13例
- 急性虚血性腸疾患 5例
- 嵌頓ヘルニア 1例
- その他 7例

##### 外傷（手術数）

- 胸部外傷 1例
- 横隔膜ヘルニア 1例
- 腸間膜・腸管損傷（事後・自傷） 6例
- 頸部外傷 1例
- その他 2例

##### 局所麻酔

- 気切・PEGなど 11例

#### ●平成25年研究報告

##### 《教室内》

- ・術後敗血症に対する人工臓臓を用いた血糖管理(継続)
- ・エンドトキシン遊離作用抗菌薬のサイトカイン産生能検討
- ・ALI/ARDSによる新規メディエーター検討
- ・LPS刺激によるendotoxin中和能の検討
- ・外傷治療と生体侵襲

#### ●今後の研究課題

- ・人工臓臓を用いた血糖管理と再検証
- ・消化管穿孔に対する集学的治療  
(Surviving Sepsis Campaign guidelines for management of severe sepsis and septic shockの再検証)
- ・侵襲、敗血症に対する生体反応の究明。とくにサイトカインと各種細胞膜上レセプター発現の変動と臓器障害について。  
(S100A12, HMGB1, sRAGE, AGE, MCP1の特異的変動)
- ・プロカルシトニン、βDグルカン、エンドトキシンの感染症3種マーカー同時測定の意義

# 岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

STAFF：細井信之・高橋正浩

## 診療体制

月曜日・木曜日 外来T (月) 午後手術  
 火曜日・金曜日 外来H (火) 午後手術  
 水曜日 外来&西根病院出張 隔週毎  
 木曜日 県立宮古病院出張 (H)  
 金曜日 鹿角組合病院出張 (T)

## 平成25年 診療・研究状況報告

### ●手術数：66例

全麻腹腔鏡下手術率 74%

鼠径ヘルニア腹腔鏡下手術率 77%

《内訳》

疾患	術式	症例数
胃癌	開腹胃切除術	4例 (5)
	腹腔鏡下胃切除術	5例 (4)
結腸癌	開腹切除術	0例 (2)
	腹腔鏡下手術	10例 (9)
直腸癌	開腹切除術	2例 (4)
	腹腔鏡下手術	1例 (3)
乳癌	胸筋温存乳房切除	1例 (0)
	乳房部分切除	1例 (0)
腹壁癒痕ヘルニア	腹腔鏡下手術	3例 (3)
鼠径ヘルニア	鼠径法 (Kugel, D-Kugel)	5例 (23)
	腹腔鏡下手術 (TAPP)	17例 (7)
胆石・胆嚢炎	開腹胆嚢摘出術	0例 (1)
	腹腔鏡下胆嚢摘出術	6例 (13)
虫垂炎	腹腔鏡下手術	2例 (3)
イレウス	開腹術	2例 (1)
	腹腔鏡下手術	1例 (3)
	胃瘻	2例 (2)
	CVポート留置	2例 (11)
	その他 局麻手術	2例 (13)

( ) 内は2012年度症例数

### ●TAPP法のメリットに関する考察

- ・術中診断が容易で対側の観察が可能 (診断の正確性・迅速性)
- ・特殊型、混合型にも対応可能
- ・患者さんの体格・体型に左右されにくい
- ・手術が定型化しやすい
- ・術後の創痛や違和感が少なく早期の社会復帰が可能
- ・嵌頓例においても対外からの効果的な圧迫が可能であり嵌頓臓器のviability, 腹腔内汚染の有無等の把握ができる
- ・再発例での部位・形態を観察しやすい

### ●今後の課題

- ・再発症例で腹膜前腔操作が加えられている場合の困難性 (鼠径法との併用を視野に入れた手術のデザインが必要であろうか)
- ・腹腔内汚染を認めた場合の対応 (meshの使用適応の判断など)

現在当科ではTAPP法を第一選択とし ヘルニア分類IV型 (混合型)、再再発例 (他院実施)、嵌頓例 (大網) を経験したが いずれも完遂可能で経過も良好であった

## ◆ 入院患者分類

疾患	例数	
顔面・頸部	1	
甲状腺・上皮小体	良性	2
	悪性	1
乳腺	良性	4
	悪性	210
食道	良性	10
	悪性	172
胃・十二指腸	良性	13
	悪性	249
大腸・肛門	良性	18
	悪性	252
肝・胆・膵・脾	良性	105
	悪性	246
イレウス	23	
虫垂炎	15	
ヘルニア・腹壁・腹膜	9	
副腎	4	
病的肥満	45	
その他	47	
入院者合計	1,426	

## ◆ 関連病院手術件数

病院	全手術例数	全身麻酔件数	緊急手術数	腹腔鏡下手術数	甲状腺癌	乳癌	食道癌	胃癌	胆膵癌	肝癌	大腸癌
函館五稜郭病院	1,306	1,086	191	585	13	148	13	102	16	23	191
盛岡赤十字病院	710	629	153	254	2	35	4	32	10	5	66
盛岡友愛病院	605	551	46	31	2	155	0	6	0	0	23
盛岡市立病院	543	472	39	257	0	10	0	17	13	10	85
県立金石病院	492	338	77	106	1	31	0	30	6	3	53
八戸赤十字病院	483	410	64	139	2	46	0	47	9	5	82
県立久慈病院	480	343	83	123	4	32	0	30	17	2	71
山本組合病院	401	355	68	235	3	20	0	39	7	10	54
県立二戸病院	384	275	69	78	2	7	4	15	7	4	57
県立宮古病院	362	329	72	56	1	16	0	15	6	1	77
かつの厚生病院	258	164	25	52	1	11	0	29	8	0	51
北上済生会病院	217	89	14	29	1	9	0	3	0	0	9
内丸病院	209	108	0	32	38	0	0	0	0	0	0
県立千厩病院	187	121	30	44	1	3	0	10	3	0	25
県立江刺病院	104	58	8	15	0	4	0	10	0	0	15
花巻温泉病院	73	64	1	41	0	2	0	11	0	0	19

## ◆ 手術件数

	件数
全麻数	1,041
局麻数	85
その他	8
全手術数	1,134

## ◆ 外科専門医制度修練指定施設・関連施設

指定関連区分	施設名		指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2014. 12	指定	岩手県立千厩病院	～ 2014. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2014. 12	指定	盛岡友愛病院	～ 2014. 12
指定	八戸赤十字病院	～ 2014. 12	指定	山本組合総合病院	～ 2014. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2014. 12	関連	北上済生会病院	～ 2014. 12
指定	岩手県立大船渡病院	～ 2014. 12	関連	岩手県立軽米病院	～ 2014. 12
指定	岩手県立宮古病院	～ 2014. 12	関連	かづの厚生病院	～ 2014. 12
指定	岩手県立二戸病院	～ 2014. 12	関連	県立江刺病院	～ 2014. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2014. 12	関連	国保西根病院	～ 2014. 12
指定	岩手県立釜石病院	～ 2014. 12	関連	内丸病院	～ 2014. 12

## ◆ 日本消化器外科学会専門医制度認定施設

指定関連区分	施設名		指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2014. 12	指定	岩手県立釜石病院	～ 2014. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2014. 12	指定	岩手県立宮古病院	～ 2014. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2014. 12	指定	岩手県立二戸病院	～ 2014. 12
指定	岩手県立大船渡病院	～ 2014. 12	指定	盛岡市立病院	～ 2014. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2014. 12	指定	山本組合総合病院	～ 2014. 12

### 岩手医科大学医学部 外科学講座 卒後臨床研修プログラム

卒後研修担当 水野 大

当教室では、4年前に「卒業時に進路を固めている学生には遠回りとも言える卒後初期臨床研修」への対応策として「卒業前に外科医を目指す決意が固まっている学生」をターゲットとした、卒後初期臨床研修全体の規定をクリアしつつ研修期間中に「外科専門医取得に必要な関連領域の症例を学内外科系講座で横断的に効率よく経験するためのプログラム」と、「学外関連施設研修を中心としたひたすら多くの手術を経験するためのプログラム」を作成しました。これにより卒後初期臨床研修制度導入前の外科研修にかなり近づき、我々の世代が外科入局時にそうであったような「自分は絶対外科医になる！」という高いモチベーションを持った若者が多数現れることを期待しましたが、残念ながら全くの空振りが続いています。そもそも、本学での卒後初期臨床を希望する卒業生は減少の一途で、2013年度はわずか3人となってしまいました。2014年度は6人に増えたものの、研修開始時点でのローテート予定表で外科を選んでいるのは3名のみで、うち2名は1ヶ月のみと外科離れ(敬遠?)は相変わらずです。今後、「ゆとり教育世代」の卒業生が増えていく中、明らかに「楽な診療科」を選択する傾向がみえており、本学卒業生に対す

るリクルート活動を如何に進めていくかが重要な課題です。

一方、後期研修については、卒後初期臨床研修終了者を対象とした、各人の入局前のキャリア、将来に描くキャリアパスに合わせた多数の(オーダーメイド型)後期研修プログラムを用意しました。4年前にはさらにその上の日本外科学会専門医をすでに取得した医師を対象とした、次のステップを目指す専門教育プログラムをスタートしたところ、本学あるいは本県出身者のみならず、本県とは縁のない他大学出身者が岩手県内の病院で初期臨床研修を終了した後に当科へ入局し後期研修を行うというパターンが増えてきております。これはひとえに関連病院の先生方によるご指導、ご助言の賜です。今後も引き続き各施設の初期臨床研修医、見学医学生に対し、「岩手医科大学外科学講座の魅力」を紹介していただきたくお願い申し上げます。また、近年は卒業後の指定医療機関勤務義務が課されたいわゆる「地域枠」出身の卒業生が増えており、関連施設で働く機会が更に増えることが予想されますので、これまで以上に若手外科医の教育をよろしくお願い申し上げます。

### 専門領域決定済みコースの1例

卒後1年目	・ 卒後初期臨床研修（学内または学外）	←学内なら11か月間の外科修練が可能!!
2年目	・ 外科学会入会、修練開始手続き ・ 専門学会入会	
3年目	・ 大学 24か月（専門領域及び関係するグループ優先に18か月、呼吸器外科、心臓外科、麻酔科を各2か月、この間に内視鏡トレーニングを行う） ・ 学外関連病院 12か月（専門医に關係する症例が多い施設）	
4年目		
5年目		

5年目終了後 外科専門医試験

卒後6年目	・ 大学 12～24か月（専門領域及び関係するグループ）
7年目	・ 学外関連病院 12～24か月（専門領域に關係する症例が多い施設）

7年目終了後 各専門領域専門医試験 消化器外科では専門臓器（グループ）決定

### 専門領域未定コースの1例

卒後1年目	・ 卒後初期臨床研修（学内または学外）	←学内なら11か月間の外科修練が可能!!
2年目	・ 外科学会入会、修練開始手続き	
3年目	・ 大学 24か月（上部、下部、肝胆膵・内視鏡、乳腺、小児、救急を各3か月、呼吸器外科、心臓外科、麻酔科を各2か月、この間に内視鏡トレーニングも行う） ・ 学外関連病院 12か月（一般外科）	
4年目		
5年目		

5年目終了後 外科専門医試験 専門領域決定（専門学会入会）

卒後6年目	・ 大学 12か月（専門領域及び関係するグループ優先）
7年目	
8年目	・ 大学 12～24か月（専門領域及び関係するグループ優先） ・ 学外関連病院 12～24か月（専門領域に關係する症例が多い施設）
9年目	
10年目	・ 大学 12か月（専門領域）

10年目終了後 各専門領域専門医試験 消化器外科では専門臓器（グループ）決定

外科学講座

### 佐々木 教之



出身大学：自治医科大学

大学卒業年：2012年

出身地：岩手県 盛岡市

趣味：ドライブ、読書

座右の銘：忘己利他

岩手医科大学外科に入った理由：

当医局を選んだ理由は数多くありますが、やはり若林教授をはじめとする医局の先生方の知識や技術、情熱にあると思います。それらは医局に入らなければ得ることのできないものであると思い、今回の入局を決意しました。

現況とこれからの意気込み：

私は平成24年度より県立宮古病院で初期臨床研修を行い、平成26年度より県立釜石病院に勤務させていただくこととなりました。ともに自治医大卒業生が多く勤務されており、外科は岩手医大外科の関連病院であることから、外科医としての第一歩を踏み出すのに最適な環境であると思います。今後は各診療ガイドライン、EBMに基づき、先進医療にも目を向けながら患者様中心の医療を行えるよう努力していきます。大学院進学や大学病院での勤務も経験したいと考えています。今後ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

## 瀬川 武紀



出身大学：秋田大学

大学卒業年：2013年

出身地：岩手県

趣味：ドライブ

座右の銘：温故知新

岩手医科大学外科に入った理由：

自分は学生のころから外科医として地域の方々の健康に貢献できるような医師になりたいと考えておりました。大学で医学を学ぶうちに、幅広い外科分野の中でも症例数が多く、内視鏡下手術や術前術後の放射線化学療法の併用などにより日進月歩で進化する消化器外科分野に興味を抱き、自分もその分野で活躍できるような医師になりたいと志すようになりました。岩手医科大学外科への入局を希望させていただいた理由といたしましては、まず自分が生まれ育った岩手の地で医療を通じて住民の生活に寄り添いたいと考えることが挙げられます。また外科学講座に置かれましては、長い歴史と多くの経験に基づいた治療を提供するだけにとどまらず、肝胆膵をはじめ多くの領域での内視鏡手術の導入など先端医療の拠点と言える目覚ましい実績を取られておられる点も非常に魅力的だと感じました。そして、6年生の冬に外科学講座を実際に見学させていただいた際には、若林先生率いる数多くの魅力的なスタッフの先生方、先端設備のそろう環境を目の当たりにし、ぜひ自分も岩手医大で外科を学び、研究を行いたいと強く感じ入局させていただいた次第です。

現況とこれからの意気込み：

現在、私は岩手県立久慈病院で日々充実した研修生活を送らせていただいております。

4月に研修生活がスタートしてから、もう早いもので1年が過ぎようとしています。

この1年を改めて振り返って考えると、本当にたくさんの貴重な経験をさせていただいたな、と感慨深く思います。同時に、何をすることも右も左もわからず、常につまずいてばかりで周りの方にご迷惑をおかけしてしまいましたが、常にそんな自分を温かく見守ってくださった諸先生方、メディカルスタッフの皆様感謝の気持ちでいっぱいです。

研修医生活が始まってからは一つ一つのことが自分にとっては新鮮で、様々な手技を実際に自分の手でできる喜びもありました。また、救急をはじめとした外来での診察も、やってみると問診も身体診察もままならず不安続きの毎日でした。しかし、そんな日々の業務の中で様々な症例を経験し、少しずつではございますが臨床医としての成長を実感させていただいております。

来年度は外科を中心に研修させていただき、外科医として少しでも症例経験を積めるよう頑張りたいと考えております。久慈病院には下沖先生をはじめ多くの外科スタッフの先生が揃っていらっしゃる、臨床外科を学ぶ上で大変充実した環境が整っています。残り1年の久慈での生活を大切に、早く県民の皆様健康と生活のお役に立てるよう日々精進していく所存です。

外科学講座

### 大槻 花恵



出身大学：岩手医科大学

大学卒業年：2013年

出身地：福島県 福島市

趣味：スノーボード、ハウスキーピング

座右の銘：温厚質実

岩手医科大学外科に入った理由：

私が外科医を志すと決めたことが、家族や友人を驚かせたように、私自身、大学4年生までは、悪性疾患の治療に携わりたいという思いはあったものの、ただただ漠然と内科に進むのだろうと考えていました。しかし、5年生になりポリクリを回るうちに、手術で劇的に病状を改善するダイナミックさ、術者の知識や技術次第で患者さんの負担が変わってくる繊細さに、魅かれるようになりました。スーパーポリクリでは外科を選択させていただき、その興味は確信へと変わりました。なにより、手術室にいる時間が楽しい！今思えば、歯科医である父が持ち帰った持針器で遊んでいた幼少期が思い出され、そのころからすでに外科手技に対する興味は芽生えていたのかもしれませんが（実は英才教育を受けていた？その割に手が動かず自戒の日々ですが…）。座学で学び得た腫瘍学への興味、臨床実習で知り得た手術の魅力、その両者に精通する外科、中でも内科的治療にも多く携われる乳腺外科を選択したことは、私にとって自然な流れでした。そして親身にご指導下さり、外科の魅力を教えて下さった母校の先生方の下で研鑽を積んでいきたいと思いました。

現況とこれからの意気込み：

現在研修している函館五稜郭病院では、道内他大学出身の同期達に刺激を受けながら、切磋琢磨の日々を送っています。10～3月の半年間の外科研修で腹腔鏡下胆嚢摘出術7例、虫垂切除術2例、乳房部分切除術4例を執刀させていただき、改めて自分の好きなことに専従できる喜びを実感しています。お忙しい中、このように多くのチャンスを下さり、一研修医のためにじっくりと時間を割いてご指導下さる先生方には大変感謝しております。外科医以前に医師としてスタートを切ったばかり、患者さんにとって良い医師となるよう、先生方のプロ意識の高さを見習いながら、一歩ずつステップアップしていきたいと思っています。若輩者ではありますがこれからもご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

（写真は今年2月に若林教授に手術指導いただいたときのものです）





出身大学：岩手医科大学

大学卒業年：2013年

出身地：東京都

趣味：剣道、街歩き

座右の銘：一所懸命

岩手医科大学外科に入った理由：

学生時代にポリクリなどでお世話になったときに、外科の先生方の患者さんに対する昼夜を問わない一所懸命な姿に憧れを抱き、私自身も先生方のような患者さん対し一所懸命な医師になりたいと思うようになりました。また、手術の時の先生方の真剣な目から何とんでもこの患者さんを助けるぞという熱い意気込みを感じました。そして、自分も先生方のような情熱と優しさと一所懸命さをあわせ持った医師になりたい、そして先生方のような高い技術力を持った外科医になりたいと思い岩手医大外科学講座への入局を決めました。私が外科の先生方に憧れる点はもう一つあります。それは、手術手技はもちろんですが、患者さんの全身をみられるという総合力です。私は高い技術力と類まれなる総合力を持っている外科の先生方ように、どんな時でも頼りになる医師になりたいと思い外科学講座に入局いたしました。

現況とこれからの意気込み：

現在は各科をローテートしながら、外科医として必要な知識と手技を一つでも多く吸収できるように日々励んでおります。また、全国の研修会や学会にできるだけ参加し、自身の見聞をできるだけ広く持てるように心がけております。研修病院の同期や外科入局の同期、全国の同じ研修医との交流の中で、切磋琢磨しながら一步でも自分が憧れる外科医に近づけるように頑張っていきたいと思っております。失敗することも多いですが、それでも暖かく見守ってくださる外科の先生方のお気持ちに早くお応えできるように、これからも精進していきたいと思っています。

社会人としても、医師としてもまだまだ若輩者で、諸先生方にはご迷惑をおかけすることが多いかと思いますが、一所懸命励んでまいりますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



## 圭陵会学術振興会共同研究助成

## 「腹腔鏡下スリーブ状胃切除後のGLP-1動態と非アルコール性脂肪性肝疾患に対する効果」

大淵 徹、佐々木 章、若林 剛（外科学講座）

黒田 英克、滝川 康裕（内科学講座消化器・肝臓内科分野）

肥満を基盤に発症する非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) はわが国で最も頻度の高い肝疾患となり、その中で非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) は国内に400万人の患者がいると推測されている。NAFLDの10-30%が肝硬変に進行し、肝臓の発症を増加させることから、病態解明や治療法の確立が急務である。NASHの有病率は、BMI 30kg/m<sup>2</sup>以上で25%、40kg/m<sup>2</sup>以上で70%と報告され、肥満度とNASHの頻度は相関している。単純性脂肪肝からNASHへと病態が進行する機序としてメタボリックシンドロームによってもたらされた肝細胞の脂肪化を基盤に、炎症・線維化反応が惹起される病因が報告されており、この要因として酸化ストレスは重要である。酸化ストレスは、細胞内脂肪蓄積プロセスにも影響を与えることも報告されている。また、2型糖尿病における各種終末糖化産物とNASHとの関連が報告されている。

本研究の目的は、「高度肥満症 (BMI $\geq$ 35+肥満随伴疾患) に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術 (LSG) は術後にグルカゴン様ペプチド-1 (GLP-1) を上昇させ、糖・肝代謝を改善させる」という仮説を検証することである。LSG後のNAFLDの改善を、腹部CTによる肝容積、超音波音響放射圧による肝実質硬度、肝生検による病理組織学的検査から定量的に評価し、GLP-1の膵外作用が肝代謝に及ぼす効果を解析する。また、LSGは身体の代謝を改善させ、酸化ストレスと糖化ストレスを軽減できることを予測し、NASHに対するLSGの効果と肝組織像を解析する。酸化ストレスと糖化ストレスを軽減できる可能性のある腹腔鏡下スリーブ状胃切除のNASHに及ぼす効果の検討は、国内外で報告がなく、治療法確立の点から新知見を提供できる重要な研究と考える。

## ビデオ会議システムを利用した遠隔手術指導

佐々木 章

教室では、岩手県が整備した「いわて医療情報ネットワーク」とインターネットを利用して岩手医科大学と岩手県立病院間(二戸病院、久慈病院、宮古病院、釜石病院、大船渡病院、千厩病院、秋田県かづの厚生病院、秋田県山本組合総合病院、北上済生会病院、花巻温泉病院、盛岡市立病院とで、いわて遠隔外科医療カンファランス(年6回)を実施しています。また、このシステムを応用して、福岡内視鏡手術フォーラム(福岡)への参加、アジア太平洋先進学術ネットワーク会議(韓国、インド、中国、インドネシア、マレーシアなど)へのライブ手術中継も行ってまいりました。

平成24年度地域医療研究事業では、「ビデオ会議システムを利用した遠隔手術指導」が採択されました。ビデオ会議システムを利用して遠隔手術指導を行い、岩手県立病院での内視鏡外科手術(中～高難度手術)を安全に実施させることを目的としたものです。研究成果「ビデオ会議システムを利用し

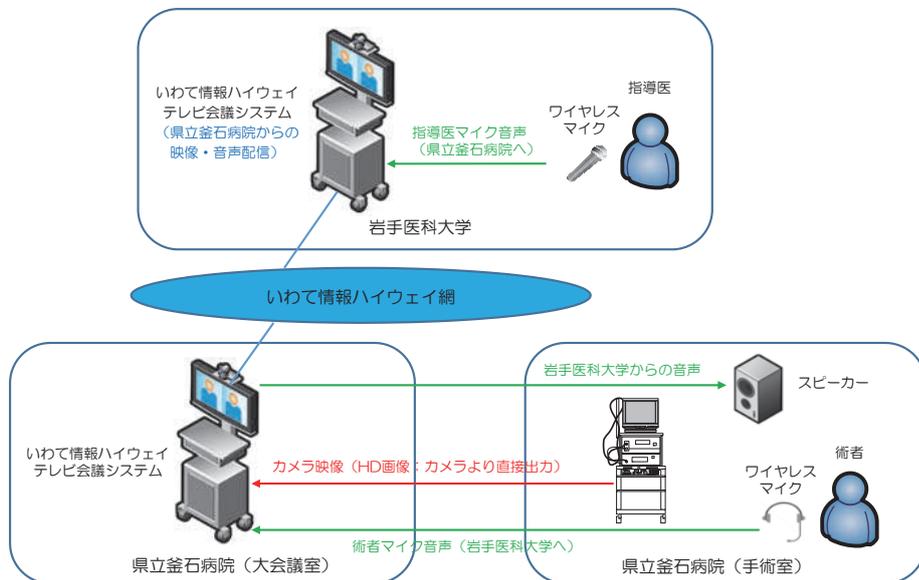
た遠隔医療会議と手術指導」は、第75回日本臨床外科学会総会(平成25年11月21日～11月23日、名古屋)の特別企画で発表しました。岩手県立釜石病院への遠隔手術指導のシステムが平成25年12月に整備でき、平成26年1月より実施しています。本事業では、効果的な内視鏡外科の教育ができており、今後の普及が期待されます。



図1 遠隔手術指導の風景

いわて情報ハイウェイを利用し、岩手県立釜石病院で実施している腹腔鏡下胆嚢摘出術の画像を岩手医科大学外科のカンファレンスルームのモニターで受信、手術指導(佐々木章)を音声で行っている。

### 岩手医科大学—県立釜石病院 テレビカンファランス概要図



- 既設のいわて情報ハイウェイを使ったテレビ会議システムを利用し、手術室のカメラ映像を岩手医科大学に配信します。
- 釜石病院では新たに手術室～大会議室間の配線を行い、大会議室のテレビ会議システムを経由して手術室からのカメラ映像・術者の音声を送ります。
- 現段階では手術室の映像はカメラの映像のみで外回りの映像は送信できません。
- 現段階では岩手医科大学の映像は釜石病院の大会議室では表示できますが、手術室では表示できません。
- 音声については双方向(岩手医科大学⇄釜石病院手術室)のやりとり(会話)が可能です。

図2 岩手県立釜石病院手術室-岩手医科大学外科間の手術指導におけるテレビカンファランスの概要

## 緩和医療学科 特任教授就任のご挨拶

木村 祐輔

平成26年1月1日付をもちまして、岩手医科大学医学部に新設された緩和医療学科の特任教授を拝命いたしました。これもひとえに巖刀会の先生方をはじめ、多くの方々の格別なる御支援と御指導のお陰と心から感謝申し上げます。

私は、平成6年に“全身を広く診る事ができる医師”を目指して、斎藤和好先生が主宰されていた第一外科に入局いたしました。入局後は、石田 薫先生率いる食道グループに所属し、外科手技のみならず、侵襲・呼吸・循環・栄養・感染対策、更には、がん告知後の対応や治療方針の意思決定、再発後や終末期の対応など、患者さんの人生すべてに正面から対応する技術、知識、姿勢を学びました。また、同門の先生方から頂戴した厳しくも暖かいご指導と併せて、自ら理想とした医師像に近づきつつある事を実感しながら、これまで進んで参りました。

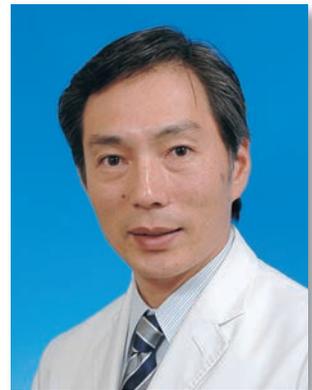
平成17年に若林 剛先生が外科学講座教授に就任され、岩手医科大学の外科に新たな息吹がもたらされ、多くの革新的な取り組みが始まりました。その一つに外科病棟における専門的緩和ケアの導入があり、そのリーダーとして私が指名されました。当時、食道外科チーフとしての役割に加え、外科における緩和ケアを牽引するという、新たな役割に戸惑う毎日ではありましたが、医局の先生方や多くの病棟スタッフに支えられ活動を続ける事ができました。この後、活動を評価いただき、がん対策基本法に基づくがん診療連携拠点病院の指定を受ける際に、岩手医科大学緩和ケアチームのリーダーとして任命されることとなりました。平成19年の緩和ケアチーム設立当初から、多くの部署にご協力を頂き活動を開始しましたが、これまでの7年間に更に様々な専門スタッフが集い、総勢20名を超える結束力の強いチームへと成長しまし

た。これまでに、チームとして、疼痛をはじめとする症状緩和や、患者さんやご家族の様々な不安への対応、希望する療養場所への地域連携など、およそ1,200名を超える患者さんの支援に携わりました。また、院外の活動として、巖刀会の先生方を始め、岩手県内の様々な地域の医療者のご協力を得ながら「岩手緩和ケアテレビカンファレンス」を主催し、県内における緩和ケアに対する意識の共有を計って参りました。この会はこれまでに53回の開催と延べ6,200人を超える方々に参加いただいております。国内でも大変注目される活動となっております。この会を基盤として、岩手県は緩和ケアに関する『顔の見える連携』が最も進んだ地域となったと感じております。皆様にご協力いただいたこれらの院内外における様々な活動の結果こそが、今回の緩和医療学科の新設、ならびに私の特任教授就任へと帰結したと考えております。岩手の緩和ケアの発展のためにご指導、ご支援頂いたすべての方々に、重ねて深く御礼を申し上げます。

当科の使命は、県内における緩和ケアの更なる発展、充実は勿論の事、緩和ケアに関わる研究の推進、学生に対する緩和ケア教育、そして緩和ケアに携わる新たな医療人の育成にあると考えております。特に、緩和ケアの精神を学生に伝え、ともに学ぶ事が、本学の学是である『誠の医師』を育成する一助になると確信しております。

今後も臨床、医学研究、教育を通じて、心根の優しい若手医師の集まる魅力的な教室を創り、大切に育てていきたいと考えております。

関係各位におかれましては、これまで以上の御指導、御鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。就任の御挨拶といたします。



## 脳死肝移植の開始

高原 武志

当教室では、若林教授のもと2007年1月より生体肝移植を開始し、2014年3月までに48例（成人47例）施行した。生体肝移植の安定した治療成績が認められ、2011年に国内22施設目の脳死肝移植認定施設となった。生体肝移植の立ち上げ時と同様に、関係各部署（麻酔科・検査部・輸血部・病理診断

部・リハビリ・栄養科・看護部など）とともに脳死肝移植施行に向け、院内勉強会や研究会を数多く開催し、鋭意準備を進めた。

2012年10月より脳死肝移植待期患者を日本臓器移植ネットワークに登録を開始し、2012年11月に医学的緊急度10点の待期患者に、ドナー情報があり脳死ドナーより臓器摘出を施行したが、臓器搬送時にレシピエントが急変し脳死肝移植を施行できなかった。（その臓器は無事に成育医療センターで脳死肝移植が施行された）次に、医学的緊急度8点の待期患者

(41才男性・原因不明の非代償性肝硬変)に対し、2013年2月にドナー情報があり、臓器摘出にむかったが、開腹時肝硬変の所見にて臓器摘出を断念した。同患者は、アルブミン製剤の補充等の内科的治療にて次回のドナー情報を待つこととした。6月14日に四国地方の病院に入院中の40歳代の女性(原疾患はクモ膜下出血)からドナー情報があった。予定通り、臓器摘出を施行し、四国地方から東北地方まで日本臓器移植ネットワークのサポートのもと、無事に臓器を搬送し、冷阻血時間が約12時間で血流を再開することができた。術後管理に難渋するも現在元気にリハビリを施行中である。それ以降、2014年1月に福岡でドナー情報、3月に大阪でドナー情報があり、それぞれ無事に摘出・搬送を施行し、この1年間で3例の脳死肝移植を施行し、全例元気に生存中です。



チャーター機での搬送



摘出グラフト

## 留学先から

### 留学体験記 ～とちぎ子ども医療センター 小児泌尿器科～

小林 めぐみ

自治医科大学とちぎ子ども医療センター (栃木県下野市)

2013年10月から半年間、全国でも数少ない小児泌尿器科のある自治医科大学とちぎ子ども医療センターで研修させていただきました。大学病院併設型の小児病院で、地域の医療機関との連携が深く、岩手でも理想とされる医療環境の下、研修を行うことができました。

そもそも私が小児泌尿器科の研修を行うことになった理由は、医療の専門化が進む現代で今もなお、なんでも屋である小児外科の特殊性にあります。小児の泌尿器科疾患に対しての治療は、当科に関わらず小児外科医が携わることが多く、様々な疾患を扱う小児外科は非常に魅力的でありながら、専門性には多くの不安があります。疾患は同じでも、選択され



た治療方針や治療技術により個々の経過が異なることや、外科的手術だけでなく、内科的治療の併用や薬剤治療の導入も少なくないことなどから、小児の腎・泌尿器・生殖器疾患の診断と治療を幅広く行っている専門施設で、その考え方を学ぶ必要がありました。

中井教授をはじめスタッフ3人の先生方には温かく迎え入れて頂き、手術だけでなく泌尿器科特有の検査を私自身が繰り返し行うことにより、疾患について考え、その意味や方針

を教わることができました。

小児泌尿器科疾患は、腎臓や尿路の先天奇形（水腎症、膀胱尿管逆流症、巨大尿管症、尿管瘤、尿管異所開口、腎形成異常、尿道弁、巨大膀胱、括約筋不全など）、生殖器の先天奇形（尿道下裂、停留精巣、先天性副腎皮質過形成、性分化異常症など）、神経因性膀胱（二分脊椎症など）、排尿の異常（昼間尿失禁、難治性夜尿症など）、小児悪性腫瘍および外傷、難治性尿路感染症など数多くあります。ほとんどが良性疾患であるものの、日常生活に大きく関与するため、成長に適した治療・検査等を考えることが必要です。一般施設では年間数例しかない症例も、専門施設であることから集中的に診療でき、膀胱や腎臓・尿管の扱い方など手術の技術力も磨きながら、とても有意義な時間を過ごすことができました。

今後はこの経験とつながりを大切に、岩手の小児医療を

より飛躍させていくことが私の使命と思い、日々精進していきたいと思っています。



## 『横浜より』

### 馬場 誠朗

国際親善総合病院（神奈川県横浜市）

2010年10月より長谷川先生との交換留学制度として始まっている、医師不足解消のための大学病院を活用した専門医療人材養成「地域躍動型専門医養成一貫教育プログラム」で、2013年4月より神奈川県横浜市の国際親善総合病院（以下、当院）へ勤務となりました。前任はラパログループの先輩である大淵先生であり、質を落としてしまうだろう、本当にやって行けるのだろうか、様々な不安いっぱい横浜に赴任しました。

当院は、全手術に対する腹腔鏡下手術件数が多い病院であります。その中でも、御存知の先生方もいらっしゃると思いますが、胆嚢良性疾患、単径ヘルニア、腹壁ヘルニア、虫垂炎を中心に単孔式腹腔鏡下手術（SPLS）が非常に盛んに行われております。また、消化管手術に対してもAdvance

laparoscopic surgeryであるReduced port laparoscopic surgery（RPLS）を施行しており、大半を占めます。SPLS及びRPLSは亀山哲章部長が中心として行うことが多いですが、数多くの症例を第一助手として勉強させていただきました。そして、徐々にSPLCの術者を経験させていただけるようになり、最近では、消化管手術のRPLSも術者として御指導いただいております。月・木曜日が手術日。火・水・金曜日が外来及び検査日であり、上部・下部消化管内視鏡検査、ERCPなどを行っております。消化器内科医が手薄で、しかも多忙である事もあり、岩手ではなかなか経験する機会の少ない上部・下部消化管内視鏡検査と治療を外科医も行っています。これまでにほとんど経験のない私でしたが、手取り足取り上級医から御指導いただき、今では上部消化管内視鏡検査は特別な治療以外の手技、下部消化管内視鏡検査ではEMRまでは何とかこなせるようになりました。また、国際学会、盛岡で開催されたReduced Port Surgery Forum含め多数の国内学会での発表の機会を与えていただいております。診療以外では、近隣の小中学生を対象としたキッズセミナーでの指導、病院主催の市民を対象とした健康懇話会での



病院外観



外科スタッフ



忘年会

演者を任せていただくなど、様々な経験をさせていただいています。横浜での数多くの経験を、岩手の医療に役立てる事が出来るように頑張っております。

赴任当初、不安ばかりだった自分を暖かく受け入れていただいた、亀山哲章部長をはじめとする外科スタッフの皆様

心から感謝しております。

最後になりますが、医局・関連病院ともに人手の厳しい中、このような貴重な研修をさせていただき本当にありがとうございます。若林教授をはじめとする医局員の皆様、同門の先生方に心より感謝申し上げます。

## 岩手医科大学での研修を終えて

### 外館 幸敏

(財)脳神経疾患研究所附属 総合南東北病院

私は内視鏡技術認定医取得を目指し、平成25年5月より福島県郡山市の総合南東北病院から岩手医科大学外科学講座、下部消化管グループに国内留学という形で腹腔鏡下大腸手術を学びに来ております。下部消化管グループ長の大塚幸喜先生の素晴らしい手術手技は今までも全国学会、研究会、セミナー、手術見学などで何度か拝見・拝聴する機会があり、その度に感銘を受けておりました。短期ながら研修させていただける機会を知らされた時には大変うれしく思ったのと同時に、身の引き締まる思いだったのを今でも覚えております。

研修に入り、実際に日常の手術を見て、まず驚かされたのは、学会・研究会で見ていたものと同様の綺麗な術野であったこと、また、手術が穏やかにスピーディーに進むこと、毎回、同様の手順で手術が進み、定型化・パターン化が確立している手術であること、それを学び、知識・技術を習得した大塚先生以外の先生たちも大塚先生と同じような手術を行っていること、でありました。それにより、ここでの多くの手術を見て・聞いて・真似れば、このような手術ができるはずという確信を得る事ができ、迷いなく研修に没頭することが



できました。

私は医局外の人間であり、研修当初は、受け入れてもらえるのだろうかと不安も感じてはおりましたが、下部消化管グループの木村聡元先生、箱崎将規先生、松尾鉄平先生をはじめ、医局の先生方には、大変よくしていただき、非常に研修しやすい環境を与えていただきました。また、カンファレンスや学会などへ姿勢が非常に活気に満ち溢れており、同年代の多くの医師からも良い刺激を受けることができました。

日常の診療のみならず、北上川川下りや安比リレーマラソン、忘年会での医局グループ単位での出し物など、遊びの要素を含んだ場においても、医局員が皆、一生懸命にまた楽しそうに参加しており、岩手医大の底力を目の当たりにするとともに、そこに一緒にことができ、ひとつひとつが楽しい思い出となりました。

今年5月に岩手医大での研修を終えるにあたり、大変後ろ髪引かれる思いはありますが、福島に戻った折には、岩手医大で学んだ知識、技術を福島のお患者さんの為に大いに生かしていければと思っております。

最後になりましたが、今回の研修を許可くださった若林教授、大塚先生、私を医局員であるかのように優しく接していただき、またご指導くださった医局の先生方に心より感謝申し上げます。



1  
January

第7回みちのくウィンターセミナー (2013.1.25)

恒例のみちのくウィンターセミナーです。今回も、全国から大変高名な先生方の講演やコメントを拝聴することができました。翌日は快晴の下での安比スキー。本当に楽しい2日間でした。



大いに学び、大いに遊べ！



癌研有明病院消化器センター  
山田和彦先生



石川県立中央病院消化器外科  
稲木紀幸先生



自治医科大学附属さいたま医療センター  
カ山敏樹先生



懇親会での集合写真。翌日のスキーまで待てない先生方です。ゼッケンベストすでに着ちゃってます。



慶応大学 北川雄光教授



安比 最高です！



森昌造先生



阿部先生ワイン講座



JA広島総合病院  
天下彰彦先生



ゲレンデ集合写真



懇親会後の二次会？三次会？

二次会？カラオケで盛り上がりました。長谷川先生、良い感じですね。



第4回岩手県外科緩和医療研究会 (2013.3.1)



参加風景



国立がん研究センター中央病院  
的場元弘先生



的場先生と共に

第29回岩手ストーマ研究会 (2013.3.23)



岩手オストミー協会事務局長 川村正司さんの基調講演です



特別講演の日本看護協会看護研修学校主任教員の中川ひろみ先生  
(左から3番目)と岩手医大ストーマチームと一緒に



IWATE Wound Closure Seminar EARLY EXPOSURE SESSION (2013.5.14)



独立行政法人国立成育医療研究センター  
臓器移植センター センター長 笠原群生先生



医療法人社団あんしん会四谷メディカルキューブ  
減量外科 センター長 笠間和典先生



総合司会 若林 剛教授



巖刀会総会（外科学講座同門会）(2013.6.1)



斎藤和好名誉教授の  
ご挨拶と乾杯のご発声



巖刀会学術賞は石田和茂先生に！



新教室員のあいさつ。緊張しています。



若林 剛教授 挨拶



同門の先生方、これからもご指導宜しくお願い申し上げます。



グランドホテルで  
大宴会です！



盛岡日赤の杉村先生「ラバ  
ロっていうのはな・・・」



新田先生「ゴルフって  
いうのはな・・・」



第2回岩手外科周術期管理研究会 (2013.7.12)



特別講演 1 静岡県立静岡がんセンター胃外科部長 寺島雅典先生



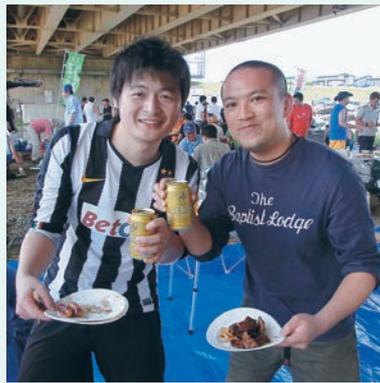
特別講演 2 東邦大学医療センター大森病院教授 金子弘直先生

北上川ゴムボート川下り (2013.7.28)

今年も快晴の中、楽しく遊びました！



秘書チームは陸専門



最高！



国内留学中（南東北病院）の外館夫妻 新婚ホヤホヤで～す



今年もケガなく楽しみました



## 2nd Reduced Port Surgery Forum (2013.8.2-3)

この度は、8月2日～3日に盛岡で開催された2nd Reduced Port Surgery Forum 2013にご協力並びにご参加いただき、誠にありがとうございました。皆様より多大なご支援を賜り、開催地盛岡の名前のおりに会を「盛会」終えることができました。不慣れでいたらぬ点が多々あったと思いますが、心からお礼申し上げます。第9回Needlescopic Surgery Meetingの当番世話である梅澤昭子先生と1年間準備を進めて参りました。Reduced port surgery(RPS)の短期成績が報告されるようになりましたので、今回のテーマは「real benefit」とし、single port surgery(SPS)やneedlescopic surgery(NS)を施行されていない先生がこれらの術式をどの様に評価するのか、そして、現在の標準術式である多孔式手術に比較した現時点での利点は何かを討論していただきました。プログラムは、一般外科、消化器外科、内分泌外科、小児外科、呼吸器外科、

婦人科、泌尿器科などの医師、メディカルスタッフを含む多職種の方々にご参加いただけるように準備を進めて参りましたが、238題の演題を応募いただきました。誠にありがとうございました。

私自身、今回の色々なセッションで皆様のご発表を拝聴し、その方向性が少し見えたような気がいたしております。今後はSPS・RPSのヘルニア発生率、SPS vs NSの疼痛・侵襲評価が重要と思われましたので、全国規模で解析できれば最高と考えております。今後もRPSが発展しますように、微力ではありますが協力を惜しまぬ所存です。今後も皆様のご指導を引き続き賜りますように、よろしくお願い申し上げます。(佐々木 章)

**Reduced Port Surgery Forum in Morioka**  
Single Port and Needlescopic Surgery: Real benefit?

**プログラム**  
8月2日(金)  
■特別企画1 13:30~16:00(第1会場)  
テーマ「ビデオライブデモンストラション」  
Reduced Port Surgeryにおける手技のコツ  
■特別企画2 13:30~15:30(第2会場)  
テーマ「メディカルスタッフの役割とチーム医療」  
■アイニクシクチャー 16:00~17:00(第1会場)  
テーマ「Minilaparoscopic Surgery - Not Just a Pretty Face! - What can be found beyond the aesthetics reasons?」  
演者 Gustavo L. Canavillo (University Hospital Oswaldo Cruz, Pernambuco University, Recife, Brazil)

8月3日(土)  
■海外招待講演 13:30~14:00(第1会場)  
テーマ「Robotic Single Port Surgery」演者 Garth Ross Jacobsen (University of California, San Diego)  
■特別企画3 15:45~16:30(第1会場)  
テーマ「山形県大先生を讃へて」

**第9回 Needlescopic Surgery Meeting**  
■世話人 梅澤 昭子 (山形県立中央病院消化器外科)

**第7回 単孔式内視鏡手術研究会**  
■世話人 佐々木 章 (山形医科大学消化器外科)

**会期** 2013年8月2日(金)・3日(土)  
**会場** いわて県民情報交流センターアイーナ  
〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西1丁目7番1号  
TEL:019-606-1717

**医学部生 参加費無料**  
(事務局にて事前申し込みが必要となります)

**世話人事務局**  
岩手医科大学外科診療棟  
〒020-8502 盛岡市下3-19-1  
TEL:019-661-2111

**運営事務局**  
有限会社ヤマダプランニング  
〒020-0011 盛岡市三好字久保原13-21  
TEL:019-652-1801  
FAX:019-663-1802  
E-mail: cvs@yamada-planing.co.jp

<http://rpsf.umin.jp/>



開会の挨拶



本研究会の目玉企画



multi? single? reduced? 大腸分野の夢の共演



わんこそば大会1 食ってやるぞ～



わんこそば大会2 腹へったな～、まだ～



わんこそば大会3 イヒヒ、優勝しちゃいました



会長招宴1「岩手の肉美味しいな」



会長招宴2「岩手の肉とてもおいしいぞ！」



会長招宴3「岩手の肉やめられまへん。イエイ！」



会長招宴4「岩手の肉…すごい面々です」  
肥田先生緊張！



会長招宴5「岩手の寿司 うめ～」



涙あり、笑いありの「I love 基夫」



盛岡さんさ「いよっ！若」



左から「そばっち」「にしっち」「あきらっち」「うめっち」



世話人の章先生、梅澤先生  
ご苦労様でした。大成功でした。



ゴルフコンペ前夜祭「おいし～！」



はい、ドンドン  
「マジですか！」



ゴルフコンペ

第17回東北緩和医療研究会 (2013.10.5)



木村祐輔大会長挨拶



ランチョンセミナー「緩和ケアの本質とは～全人的ケア、死から生といのちを考える～」  
昭和大医学部 医学教育推進室 高宮有介先生



特別講演1「チームでつくるインフォームド・コンセント」  
福島県立医科大学看護学部 島山とも子先生、東京慈恵会医科大学附属病院看護部 児玉久仁子先生



実行委員会 打ち上げ皆様本当にありがとうございました。



実行委員 集合写真



巖手会忘年会 (2013.12.7)



若林教授の司会



新教室員の再び挨拶



福島県立医科大学教授 後藤満一先生の特別講演



美人秘書に囲まれた石橋先生

外科学講座大忘年会 (2013.12.27)



西4病棟チーム。愉快でセクシーなダンスの数々



食道・胃チーム。こんな格好で「ロボット手術」。想像できますか？



下部消化管・小児外科・MEチーム：  
チーム力を見せつけられました。



緑レンジャーはクリップアーム？ハサミアーム？  
そんな余興です。



新人チームです。かわいい～。  
後ろに「シエー」のようなおじさんが・・・。  
おそ松くんの余興ではありません。



西4階セクシーチーム（鼻血・・・）。



西4階愉快チーム  
「お(わ)・も(か)・て(ば)・な(や)・し(し)」



西4階愉快チーム「徹子と久米です」

Iwate Prefectural Ninohe Hospital

### 岩手県立二戸病院

巖刀会の諸先生におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。恒例により当科の平成25年一年間を振り返り近況をご報告いたします。

診療体制では、4月に医局からの長期診療応援医師として松尾鉄平先生から八重樫瑞典先生への交替がありました。

松尾先生には平成24年4月から平成25年3月まで、病院内外で昼夜を問わず大変なご活躍をいただきました。術者としてもたくさんの症例を執刀していただきました。二戸病院でのアクティビティに敬意を表するとともに今後のますますのご活躍を期待しています。

現在は、坂本 隆（副院長）、佐藤直夫（外科長兼消化器外科長）、川崎雄一郎（災害医療科長）、八重樫瑞典（外科医長）の4名が常勤の外科医となっています。常勤スタッフに加え、昨年と同様、圏域から県立軽米病院の葛西敏史先生（火曜日午後）に定期的手術応援として来ていただいております。本年度後半からは教室から秋山有史先生に



Iwate Prefectural Karumai Hospital

### 岩手県立軽米病院

巖刀会の皆様、当科の平成25年の一年間を振り返ってみたいと思います。

ご存知の通り、当院は医局から多数の応援をいただいております。皆様の顔ぶれとしては（月）戸館先生、（水）秋山先生、（水当直）藤井先生、（金）片桐先生、（土日）木村先生、鴻巣先生、有末先生、箱崎先生、松尾先生など多数にお出でいただいております。感謝の念に耐えませんが、本当に有り難うございます。

この一年間、大過なく診療に応援にと過ごさせていただ



水曜日午後手術応援ならびに指導をいただいております。また、教室から、柏葉匡寛先生（月曜日乳腺外来）、藤原久貴先生（月曜日外来）、新田浩幸先生（金曜日外来）、に定期的診療応援をいただきました。さらに、腹腔鏡下手術、肝胆膵手術などで、若林教授を始め、それぞれご専門とされる先生にご指導をいただきました。

当科からの診療応援としては、一戸病院金曜日外来（坂本）、九戸地域診療センター月曜日（佐藤）、軽米病院第2・第4木曜日外来（坂本）を行っています。

以上の診療体制で、広い医療圏（二戸市、一戸町、軽米町、九戸村、葛巻町、青森県三戸町、田子町など）から手術を必要として来院する患者に対しては外科医の集約化体制で対応し、一方患者・家族が地元での治療を希望する場合には可能な限り地元の診療体制で答えるという形で、圏域が一体となった診療を行っています。

院内では、日常の外科業務はもとより、医療安全、感染対策、外来がん化学療法、緩和ケアなどの部門で中心的役割を果たしています。病院では病床利用率の漸減傾向に対する対策が引き続きの課題となっています。高齢化が進む当地域での外科診療のニーズにこたえられるよう、さらに研鑽を続けて行きたいと考えています。今後も一層のご指導、ご支援をお願い申し上げます。



きました。特に二戸病院に赴任される若手先生方の一年間の伸びしろは目覚ましいものが有り、今年は八重樫先生が獅子奮迅の働きをされておりました。来年度は佐々木先生と伺っております。是非手術件数を先輩方のように200例

を目指して頑張ってください。

ところで昨年は、特別養護老人ホームと老人保健施設について述べさせていただきましたが、この4月の診療報酬改定では、再び大改訂が行われます。つまり7対1入院基本料を取っている病床が35万7500床と、日本全体のベッド86万床のうち約40%以上もあります。これは患者さん一人から7対1だと一日15,550円もらえるのが、例えば13対1だと10,920円しか貰えないためです。しかしそれには在院日数がからみます。平均で18日までしか入院できないのです。そして今まで特定疾患は長期になっても除外されていたのが含まれるようになります（平均在院日数が増えてしまう）。そこで、当院のような療養型病床を持っている病院の出番が増えてくると思います。県北地方から手術した患者さん等で長期療養が必要な方がいらっしやいましたら当院も候補に挙げていただければ幸いです。

どんどん地方では過疎化が進み、県立病院の医師数も減少しています。これからは、沿岸地域の病院の再建も具体



化してくるでしょう。当院も副院長以上は15年も同じ顔ぶれです。今後若手が入ってこなければ、次第に診療所化等の可能性が出てくるでしょう。医学生の数が増えても偏在は無くならないでしょう。誰だって便利なところが良いですから。そのためか、岩手県の地域卒の学生には9年間の義務年限が有ります。僻地医療に取っては助かることも、その医師個人のキャリアパスに関して考えると決して良いことばかりでは無さそうです。といいつつ、自らも親の面倒や子供達の教育などを考えなければならなくなってきて、悩ましい今日この頃です。

（写真説明：病院忘年会と木村先生を招いての緩和ケアの会の打ち上げ）

Iwate Prefectural Kuji Hospital

## 岩手県立久慈病院

外科スタッフは、阿部正院長、下沖収副院長、藤社勉第一外科長、高橋正統第二外科長、心臓血管外科／救急医学講座の皆川幸洋救命救急副センター長です。4月より佐々木秀策外科医師から、吉田宗平外科医師（卒後3年目）へとバトンタッチしました。岩手医大外科医局からは、小児外科を水野大准教授（第一金曜日）、乳腺外科を柏葉匡寛講師（第三木曜日）に応援いただいております。また、佐々木章准教授、肥田圭介講師、大塚幸喜講師、新田浩幸講師にも手術応援をいただき最先端の手術術式を学ぶことができました。また、若林剛教授には、大変ご多忙のところ来院していただき、佐々木秀策先生と吉田宗平先生の手術指導をしていただきました。若手医師にとっては、一生の思い出となり、外科医としてますますやる気が出てきたことと思います。

2013年の全手術件数は、480件。全身麻酔手術件数は343件（71.5%）、鏡視下手術件数は123件（25.3%）、緊急手術件数は83件（17.3%）です。高齢者が多く、かつ、進行癌で見つかることが多い地域でもありますが、積極的に、鏡視下手術を取り入れていく方針としています。また、術前術後のがん化学療法に関しても、ガイドラインに従って忠実に実施しておりますが、年々、対象症例やレジメンが増



加しており、診療業務の複雑化は否めないところであります。地域のがん診療の中心的な役割を担うのは“外科”であり、集学的治療のマネジメントも重要な外科の仕事と考え、スタッフ間で協力して診療を行っております。

2013年度の久慈地区一番のニュースは、なんとといっても『あまちゃん』です。2012年10月頃より、久慈市小袖地区を中心にドラマの撮影が行われました。三陸鉄道久慈駅や駅前デパート、あまちゃんが海に潜ってウニを採ったところ（小袖漁港）と白い灯台。足立ユイちゃんが『アイドルになりた〜い！！』、と叫んだ駅のホーム（三陸鉄道堀内駅）など、ドラマの名所がたくさんあります。市内の飲食店では、あまちゃんに出演した俳優さんたちのサイン（KYON<sup>2</sup>のサインもあります）や写真をみることができ、なかなか、魅力的な街となっております。

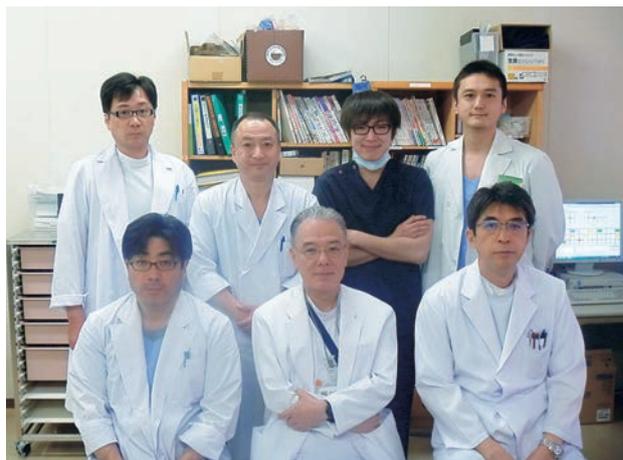
（文責：藤社 勉）

Morioka Japanese Red Cross Hospital

### 盛岡赤十字病院

今年一番のトピックスは、5月から畠山先生が、外科小児外科に加え緩和科も兼任して働き始めたことでしょう。それにより、外科の勤務分担の変更もありました。外来、外来化学療法を各々1日ずつ分担して、毎日手術しております。

手術件数は、若干減りました。全麻件数629件、うち急患手術は153件（24.3%）で、関連施設の中では多い方だと思います。鏡視下手術は254件（40.4%）、これも多い方かと考えます。ただ、今年手術の特徴は、がんの手術、特に胃癌の手術が若干減ってるのかなと思います。そ



の分、胆石、ヘルニアで件数をカバーしているようです。例年通りフットワークを軽く、他科、パラメディカル、事務との連携を深め、笑顔で院内を走り回っております。（文責：杉村好彦）

Uchimaruru Hospital

### 内丸病院

内丸病院の紹介をさせていただきます。

H24年4月より、日下純男院長先生のもとに、小笠原聡と富澤勇貴が結集し、内丸病院手術室を本格再稼働しました。初年度より、200件を越える手術件数となり、当院スタッフの働きに感謝し、また、外科学講座をはじめ、同門の先生方より、患者様のご紹介頂きまして、心より感謝しております。

H24年度の取り組みとしては、まず、甲状腺センターとヘルニアセンターを開設いたしました。ヘルニアは、鼠径ヘルニアと腹壁癒痕ヘルニアを対象としています。クーゲル法を基本術式として、腹腔鏡下手術も積極的に行っております。特に、腹腔鏡手術は、腹膜外アプローチであるTEPを中心に行っております。

H25年は4月より、日下先生より富澤が病院長を引き継ぎました。大先輩の次でしたので、大変光栄であると同時に、気の引き締まる思いで日々診療しております。診療の方では、当院の関連病院である、メディカルコート西病院（八戸）で、甲状腺外来を開設しました。これは、青森県は甲状腺外科専門医が不在の数少ない県であったこと、八戸からも盛岡へ患者様が通院していたことを考慮しました。年々手術件数も増加しており、甲状腺手術とヘルニア手術は、医局での年間手術件数よりも増加しております。

当院は、一般病床60床の小規模病院ですが、専門に特化することにより、診療レベルの向上を目指しており、市内



のみならず市外・県外からも患者様に信頼される病院を目指しています。現在、外科学会認定関連施設、消化器外科学会関連施設の他に、甲状腺外科学会・内分泌外科学会認定専門医施設、甲状腺学会認定専門医施設を取得しております。

甲状腺の診療も、①甲状腺診療ガイドラインやバセドウ病治療ガイドラインに基づく診療、②甲状腺癌手術後の外来アブレーション治療、③リコンビナントヒトTSHによるヨード治療など、ここ数年で変化してきた領域です。さらに、H26年度には、分子標的治療薬の適応も取れる見込みであり、甲状腺治療も大きく前進できると思います。また、分子標的治療薬に関しては、東北地区のエリアマネージャーを担当することになりました。

甲状腺とヘルニアの外来は、毎日午前中行っておりますので、診療でお困りの患者様がいらしたらご連絡頂けると幸いです。



Morioka Yuuai Hospital

### 盛岡友愛病院

盛岡友愛病院外科は現在、長澤 茂（院長）、多田 隆士、吉田 弘之、西成 尚人、中島 隆之、藤井 祐次、松谷 英樹の7名で診療しています。2013年の総手術件数は1553件。うち外科は606件（全麻474件）で、東日本大震災で減少した手術例数も、ほぼそれ以前の症例数に戻りました。

昨年は 実に慌ただしい年で… といいますのも、老朽化した西病棟及び事務棟の解体を行いました。跡地には2014年初頭から約1年をかけて新病棟を建設予定ですが、これら増改築に伴い、病棟編成も行なわれました。はじめに現在ある施設内を改修工事することで2カ所の新病棟を増築し、そこへ解体する病棟から患者さんを移した後に解体する手順となったため、工事に伴う騒音・振動などで長期間にわたり、入院・外来患者さん、ご家族、見舞い客の皆様にもご迷惑をお掛けしました。（我々スタッフも例外ではありませんでしたが…）

加えて11月16日には、国道46号線沿いの本宮地区1500坪の土地に、サービス付き高齢者向け住宅『ゆうあいの街』（60戸）を開設しました。居住性はもちろんですが、入居者が楽しく過ごせることを重視した設計構想の下、3階の多目的ホールには大型スクリーンを設置して映画上映会や健康セミナー、余興などが開催可能になり、2階の中庭には青空の見えるウッドデッキを設け、利用者や家族がパーベ



キューを楽しむことも出来るようにしました。立地環境もよいことから、既に平成19年10月から太田地区で稼働している『ゆうあいの里（クリニック・通所リハビリテーション・デイサービスを備えた有料老人ホーム；介護度1～2が対象）』の機能に加え、介護度3以上の入居者も受け入れられるよう、訪問看護事業所・訪問看護ステーション・指定居宅介護支援事務所を併設し、より広いニーズに応えられる施設になりました。

さて岩手県内の他病院同様、当院医局の最大の問題点は医師の高齢化です。現在当院常勤医師の平均年齢は58.1歳で、最高齢は82歳、最年少が43歳です。高齢化により日当直の免除者が続出、40代の医師に掛かる負担が増大したため、ここ数年は当直免除者も含めたローテーションに体制を改め、医大外科医局からも月に1回の日曜日の日当直応援をいただいていた何とか凌いでおりますが、カラータイマーが点滅し始めたウルトラマンの気分です。（古い？）

Iwate Prefectural Kamaishi Hospital

### 岩手県立釜石病院

今年度は、2012年度から引き続き、遠藤院長、遠野、小原、今津、斎藤の常勤5人体制でスタートしました。また、診療応援として火曜日の当直から引き続き水曜日の診療を中村聖華先生に手伝っていただきました。そのほか、手術応援として若林教授をはじめ教室の先生方に数々の手術を教えていただきました。手術件数は震災前に徐々に回復しております。年間手術件数は2010年は554件（全身麻酔347件）でしたが、2011年は287件（160）、2012年は504件（313）、2013年は505件（341）でした。疾患の内訳の割合はほぼ同一で、大腸、胃、乳腺、胆石が主なものでした。また鏡視下手術がそれぞれ各年で73件（全麻の21%）、41件（26%）、103件（33%）、107件（29%）と全麻手術全体に占める割



前列左から遠藤院長、遠野 後列左から斎藤、今津、小原、伊瀬谷（研修医）（H26.3.24 応接室で）

合は3割前後で推移しています。また、大槌病院への週2回の診療応援は継続しています。

落ち着いてきた釜石病院外科チームでしたが、今回、衝撃が走りました。遠藤院長が転勤になります。今後も外科のこの安定感を維持できるか不安がありますが、取り乱すことなく、皆、一致団結で診療をがんばりたいと思います。

Iwate Prefectural Miyako Hospital

## 岩手県立宮古病院

いつも大変お世話になっております。岩手県立宮古病院外科の平成25年1年間を振り返り、状況報告を致します。

平成25年の宮古病院外科のスタッフは、坂下伸夫副院長、菅原俊道外科長、石川徹救急医療科長の3名に加え、4月からメディカルメガバンク大学院コースとして伊藤千絵医師が新たに赴任され、昨年に引き続き常勤医4名体制で診療を行いました。宮古病院の臨床研修プログラムでは外科を必修としているため、平成25年は2ヵ月×2名の研修医が外科で研修してくれました。いつも研修医には外科の素晴らしさを示すべく努力しておりますが、その甲斐あってか今回、非常にうれしいことに2年次の研修医の1名が外科を志すことになりました。自治医科大学出身の佐々木教之先生です（拍手）。皆様、今後ともよろしく願い申し上げます。

診療応援は、昨年に引き続き、火曜日は野田芳範先生、火曜夜から水曜日は大学から佐藤慧先生、木曜日は花巻温泉病院の細井信之先生に来ていただき外来診療、手術応援、技術指導と大活躍してもらっています。特に細井先生には伊藤先生に腹腔鏡下手術のレクチャーをしていただいております。非常に感謝しております。また水野大先生には月

また、常々教室の先生方の診療応援、手術応援、そしてその後の意見交換などで大きな力を頂いておりますが、それはますます重要不可欠なものとなりました。ぜひ今後ともご支援をよろしくお願いいたします。



1回の小児外科外来と手術をお願いしております。肝胆膵の手術応援では新田先生に、腹腔鏡下手術では大塚先生に、緩和ケア研修会では木村祐輔先生はじめ同門の先生方に非常にお世話になっております。いつも本当にありがとうございます。今後ともよろしく願い申し上げます。

平成25年の年間手術件数は362例とやや減少しましたが、緊急手術は73例と相変わらず相当数あり、医師も高齢化しており、皆、助け合って意見を出し合い、粛々と日々の診療を続けております。緩和医療や外来化学療法など日常診療は複雑化の一途をたどっており、今後更に専門分化が進むものと予想されます。つきましては、今後とも医局、各関連病院からのご指導ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

Iwate Prefectural Ofunato Hospital

## 岩手県立大船渡病院

岩手県立大船渡病院のある気仙地域の人口は現在約64,000人となりましたが、復興工事の影響のためか、屋台村や飲食店の夜は昨年に増して賑やかになり、当院の職員もその灯りに釣られているようです。当院の外科スタッフは中野副院長を始めとして、星田、関根、三田村、三浦（東北大2外科）、横沢（筑波）そして緩和医療科長の村上（同門）を含めた7名体制で診療を行っています。

当院の手術件数は関連施設統計に含まれていないので、簡単に紹介いたします。平成25年1月～12月の外科手術件数419件（前年519件）で、内緊急手術は117件（前年104件）、全身麻酔は415件（前年417件）と100例ほど減少しましたが、全身麻酔件数はほぼ同じです。悪性腫瘍手術は表に示すように消化器がんを中心に138件でした。乳がん症例の温存術の殆どを紹介していますが、消化器がん鏡視下手術は食道の2例のみであり、今後の大きな課題となっています。その他に腹部大動脈瘤手術や閉塞性動脈硬化症に対する血管内手術や下肢静脈瘤に対する手術を33件行っています。

外来では特殊外来として、月2回の乳腺外来、週1回の血管外来そして週2回の緩和ケア外来があり、その他に認定看護師によるストマ外来、リンパ浮腫外来、乳がん相談も行っています。また、外来化学療法は1年間に延べ1089件行っています。

今年度の研修医は岩手医大卒の4人が加わって5人とな



り、特に救急医療に力を入れ研修しているところです。次年度は6人加わる予定ですので、当院にとって大きな戦力になると期待しています。（分析：院長 伊藤達朗）

### 全手術件数

全身麻酔	415
腰椎・硬膜外麻酔	7
局所麻酔・その他	69
合計	491（緊急117）

### 内悪性腫瘍手術

甲状腺	2
乳腺	19（全16、温2、他1）
食道	4（内視鏡2）
胃	29（全4、幽17、噴2、他6）
膵臓	6（PD）
胆嚢	1
肝臓	3
結腸	53（内視鏡0）
直腸	24（内視鏡0）
その他	0
合計	138

Kitakami Saiseikai Hospital

## 北上済生会病院

平成25年は、春に斎藤院長が退職され青木医師も移動となりました。菅原が残留し武田医師を新たに迎え1名減の2人態勢でスタートしましたが、斎藤院長には引き続き週1回外来診療をお手伝いいただいております、マンパワー的には前年度とほぼ変わらない状態を維持しております。

教室からは、週1回の手術応援を肥田先生から岩谷先生に交替し引き続きいただいております、水野先生には月1回小児外科外来・手術の応援をいただいております。大塚先生をはじめ教室の先生方にも手術応援にいらしていただきました。また隔週に1回菅野先生に当直応援をいただいておりますし、大学病院への紹介や逆紹介で教室の先生方には大



変お世話になっております。多大なる教室のご配慮に深く感謝しております。

手術は前年を下回らないよう200症例を何とかキープしま

したが、他の関連施設と比べると少なく努力が必要と感じています。消化器内科が不在のため消化器癌の症例が近隣の県立病院へ集まっており、開業医の先生方にも紹介のお願いをして大変お世話になってはおりますがそれでも厳しい状況です。そのぶん地域の役割として1次的な一般外科症例を担っており、ヘルニア・痔疾等の癌以外の手術、県立病院と連携しての術後廃用症候群のリハビリ、周辺の老人保健施設と連携してのPEG造設と栄養管理などが増加しています。院内のNST活動も主導して行っております。市の乳癌検診事業には1次検診から積極的に協力し、さら

に2次検診機関としての役割も果たしています。

平成26年は当院もDPCを導入予定であり、収益向上に向けて取り組んでいかねばならないのですが、その1つとして腹腔鏡下手術の比率を上げるようにしているところです。研修医が2年続けてゼロなのですが、建物は古く常勤のいない診療科が多い中でそれでも希望して来てくれるには、中小病院ならではの魅力をもっと発信していかなければならないと考えております。教室の先生方にはご迷惑をおかけすると思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。 (文責：菅原)

Iwate Prefectural Senmaya Hospital

## 岩手県立千厩病院

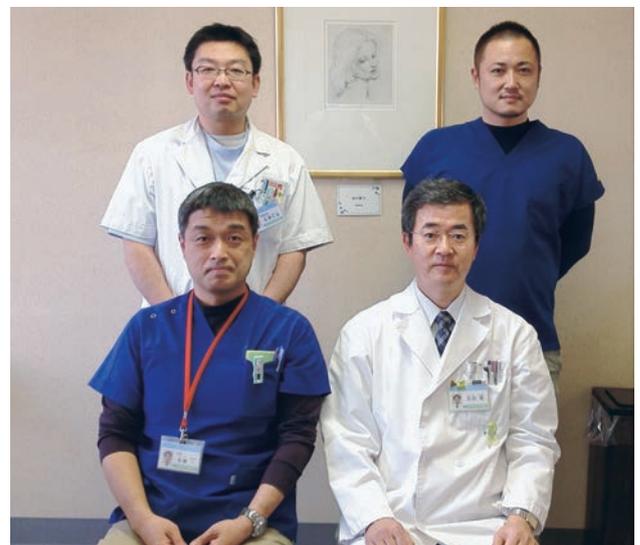
平成25年度の千厩病院外科は、吉田徹 (S59卒)、佐藤一 (H2卒)、米澤仁志 (H7卒)、藤井大和 (H14卒) の常勤4名に加えて、非常勤として木村祐輔教授に外来を、松井雄介先生に当直外来応援を頂きました。木曜日には肝胆膵グループから当直外来応援を頂いております。

外科医師は4名と当院常勤医師の約半数を占めておりますので、外科医が院内の牽引役となっている事はもちろんですが、県立大東病院や花泉診療センターなど両磐医療圏の応援診療も外科がカバーしております。

今年度も若林教授をはじめとして多くの医局の先生方に手術指導にいらして頂きました。佐々木章准教授には、ヘルニアの鏡視下手術を指導していただき、順調に症例数を重ねておりますし、鏡視下甲状腺切除も当院で初めて行う事が出来ました。肥田医局長にはLADG、大塚講師にはLACの指導をお願いし、腹腔鏡手術の件数は順調に増加しております。

病院のシステムの変更としては、回復リハビリ病棟の開設がありました。震災によって、隣町の大東病院の入院機能が失われ、三陸沿岸南部および東磐井地区では回復リハビリテーションを行える施設がない状態が続いておりましたが、2013年7月1日に、脳血管障害、整形疾患、外科手術後の廃用症候群等を対象として当院に40床で開設再開致しました。病床利用率は開設半年を過ぎて70%を超えてきており、地域の高齢化に伴って、これから更に重要性が増すと思われるます。

2月には、新しい規格になった日本病院医療機能評価機構3rdG:ver1.0を受審し病院機能の見直しを致しました。2年後に予定されている電子カルテの導入準備も進めてお



千厩病院外科スタッフ

前列右：吉田 徹 前列左：佐藤 一  
後列右：藤井大和 後列左：米澤 仁志

り、今年度はフルオーダーリング化が完了し、院内WiFiも整備され、会議のペーパーレス化を推進する方針としました。

協力型の研修病院として研修医を受入れております。県立中央病院からは今年度より2か月交代で年間5名、県立磐井病院からは1か月交代で年間2名、東海北陸厚生局の被災地研修として岐阜大学から2名の研修医を受入れました。

来年度は国際医療センターからも受入れ予定で、常勤医師の高齢化が進む中で、研修医への指導を通じて我々指導医は刺激を受けて共に学ばせて頂いております。

月1回の医局抄読会も継続して行い、最新の知見をスタッフ全員で取得するとともに、当院の日常臨床に還元できる事はないかを検証し、時流に遅れない診療を心がけております。

今後も医局の先生方のご指導を仰ぎながら更なるレベルアップを目指して頑張りたいと思っております。

Iwate Prefectural Esashi Hospital

# 岩手県立江刺病院

一年間の御無沙汰しております。今年度の診療体制に関しては特に大きな変化はなく、昨年と同様1人科長でどうかやっております。応援医師の先生方には大変お世話になっており、感謝申し上げます。

当院の役割として急性期は勿論のこと地域医療として外科医といえども終末期・慢性期患者も診なければならない状況にあります。その中で次第にADLが低下し、「寝たきり状態でも、できうる限りの治療を施してほしい」と希望される家族が少なくありません。患者さんの家族からみれば当たり前の感情なのかもしれませんが、これからますます増え続ける高齢者、それに伴う高齢者医療問題に懸念を抱きます。外科医として手術に専念するのは当然ですが、当病院ではこのような患者さんも診（看）しなければならない現状にあるということを理解して頂きたく述べております。つい最近、奥州市医師会報での“高齢者医療”という巻頭言に対する編集後記を書く機会を与えられましたので、今回医師として避けては通れないこととして僭越ながら皆様に私なりの意見を述べてみたいと思います。

医療等が進歩し平均寿命が長くなったことは喜ばしいことではありますが、一方で新たな問題が浮上してきています。後期高齢者の激増です。現在施設入所の待機者数は全国で42万人いるのだそうです。このような状況の中、いわゆる団塊の世代の方々が今後高齢化し十数年後（2025年問題）最終的に寝たきりになったらどうなるのでしょうか？考えてみても恐ろしく、不安は拭えません。今の医療は延命が可能である環境は十分に整っていますが、その中で3大延命処置延命処置として挙げられる代表的なのは「人工栄養」、「人工透析」、「人工呼吸」であります。近年かなり普及している人工栄養（胃瘻）を例に挙げますと、寝たきりになって胃瘻を付けた人に対して、1年間にかかる医療

費と介護費の合計は1人約500万円。現在胃瘻を付けた寝たきりの高齢者の数は、30～60万人とされているので毎年1～3兆円の税金が使われている状況になっており、今後も確実に増えていくことが予想されます。この現実をどう受け止めましょう。これ以外の延命処置や医療技術の進歩、年金問題、さらには生活保護者の増加等をも考えると更なる消費税増税はやむを得ないでしょう。

そもそも医療は延命処置です。我々は日々苦勞しながら今までに培った知識・技術を十分に発揮し病気等で病める患者さんを社会復帰させる使命・義務がある一方、医師の究極の使命は“看取り”であることも忘れてはなりません。その中でも“病気を治して健康を取り戻すための医療”と“もはや治療の見込みが望めないときの医療”はおのずと考え方、対処の仕方が変わってくるのです。我々はそれを早い時期に見極め、家族に十分な納得のいく説明をすることも我々の使命であると思います。愛する大切な家族が可能な限り生きていて欲しい気持ちは分らないわけではありません。しかし、医療には限界があるということ、医学、医療は「老い」や「死」に対しては無力であるということ、“老衰”は病気ではないし、“老衰”は基本的には医療の対象ではない、ということの啓蒙も必要ですし、我々も「終末期ケア」（ガンだけではなく）についてしっかりと向き合っていかなければならないと思います。

仏教では「四苦」というものを唱えています。それは人間この世に生まれればやがて歳を重ね老い、病気になり、そして最期には死を迎える（生老病死）というものです。人それぞれの死生観をもっているのが一概には言えませんが、昨今皆に共通して言えることは、“死を遠ざけようとして、それを受け入れられない”ことです。あたかもいつまでも生きていられ、普段の何気ない今の生活が延々と続くような錯覚を起こしているのです。例え何れ死を迎えるということは分っていてもそれはまだ先のことだと思っているのです。だから急な事態に陥ったとき家族は慌てふためき動揺するのです。無理もないでしょう、普段から全く



気持ちの準備・整理ができていないのですから……。親に対し何もしてあげない(延命拒否)という「罪悪感」や「責任放棄」と感じるのであれば、親がまだ元気なうちから親子の信頼関係をしっかりと築いておくべきでありましょう、更に一人一人が“人はいずれこの世を去る”という、決してあきらめではなく“覚悟”も常日頃から養っておくべきではないでしょうか。

繰り返して述べておるところですが、治す医療から生活を支える医療の転換の必要性も感じております。それらの

ことを踏まえ、いづれかでも地域に密着し、手術は勿論のこと、福祉と連携した医療を提供して参りたいと思っております。

\*写真は昨年6月の第6回全日本マスターズレガッタ(愛知池ボート場にて)に参加(シングルスカル50～54歳部門1000m)したものです。相変わらず何歳になっても凄いタイムを出す人がいます。参加者の中では最高齢85歳でした。

(文責：川村 秀司)

Hakodate Goryoukaku Hospital

## 函館五稜郭病院

皆様御無沙汰しております。5年目の川岸です。

2013年度の当院の診療体制は、高金診療部長、小林主任科長、早川主任医長、小川主任医長、船渡主任医長、中嶋主任医長、板橋医長、武田先生、川岸の9名で日常診療に取り組んでおります。また、前期研修医の安藤先生、大槻先生もそれぞれ約半年間、外科での研修を行って頂きました。昨年の全手術件数は1280件、うち全身麻酔は1126件、腰椎麻酔は66件、局所麻酔は86件でした。また、若林剛教授をはじめ、医局の諸先生には年に複数回手術指導にお越しいただき、感謝しております。

さて、昨年度の出来事ですが、当院に道南で初めてda Vinciが導入されました。既に、泌尿器科では約20例、前立腺癌の手術が施行されております。当科でも、今年度より胃癌の幽門側胃切除術に対しda Vinciの使用を考えております。また、新規の資格取得としては、船渡主任医長の消化器外科指導医・外科学会指導医・肝胆膵高度技能手術指導医、板橋医長の日本大腸肛門病学会大腸肛門病専門医・日本ストーマリハビリテーション学会ストーマ認定



医、武田先生の外科専門医があります。そして、何よりも2014年1月から、高金診療部長が当院の副院長に就任され、ますます当院外科も活気づいております。

2014年度は、長年、五稜郭病院の乳腺疾患を支えていた早川先生が退職、板橋先生や武田先生は盛岡に戻られます。信頼を寄せる先生がいなくなられるのは大変心細いですが、米澤先生、大淵先生、菅野先生を迎え、高金副院長をはじめとする新体制のもとに、真摯に日常診療に取り組んでいきたいと思っております。今後とも御指導・御鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。

Yamamoto Associated General Hospital

## 山本組合総合病院

2013年度の当院の外科スタッフは大山健一、加藤久仁之、西成悠の3人体制で診療を行いました。7月からは弘前大学呼吸器外科出身の境雄大先生が赴任され4人体制となりましたが、2014年3月で退職されることになり、2014年度から再び3人体制となります。

今年度は手術件数が昨年より大きく上回り、総数で400例を超えることができました。また全麻件数355例のうち腹腔鏡下手術が235例で66.2%を占め、件数、手術率とも昨年を大きく上回りました。これは教室の先生方に遠方まで出向いていただきご指導いただいた賜物と考えております。特に新田先生に来ていただき行っている完全腹腔鏡



下肝臓切除は秋田県内の他院では行っておらず、さきがけ新聞という県内紙にも掲載されました。しかし残念ながら対外的にアピールしても秋田市内から当院での手術を希望される方はまだおりません。めげずにアピールを続けていきたいと考えております。

今年度のトピックスとしては、7月に能代市内の中学生を対象とした外科手術体験セミナーであるブラックジャックセミナーを開催しました。このセミナーは東北では初めての試みとなり、メディアにも大きく取り上げられました。今後も年一回の開催を継続していきたいと考えており、ここから将来地域の医療を担う人材が出てくれることを期待しております。

また今年度から消化器外科学会と外科学会の認定施設となり、ようやく若い先生方に来ていただく体制を整えることができました。手術経験はもちろんのこと重症管理から緩和ケアまで、当院は様々な経験を積んでもらうことができる施設だと思います。盛岡から遠く人気の無い当院ですが、「楽しく仕事をする」ということをモットーに皆生き生きと働ける、若い先生方にまた来たいと思ってもらえる施設にしたいと日々取り組んでおります。

Hachinohe Japanese Red Cross Hospital

## 八戸赤十字病院

平成25年度、当院外科スタッフは、佐瀬正博、玉沢佳之、藤沢健太郎、御供真吾、吉田雅一の5人体制で診療して参りました。さらに毎週水曜日に種市病院から荒谷宗充先生、木曜日に名川町開業の川守田究先生による手術応援、月に一度の柏葉先生の乳腺外来診療をいただいて頑張っております。

平成26年4月からは、吉田先生が大学に移動し有末篤弘先生をお迎えしております。



早いもので藤沢先生は当院4年目、御供先生は3年目となりました。お二人には大いに頑張っていたいただいております。

当科週間スケジュールとしては下記を行いより良い診療に勤めております。

月曜日朝 入院患者の経過サマリー報告

火曜日夕 内科との手術症例の紹介と手術の所見、経過のカンファランス

水曜日朝 死亡症例報告

金曜日朝 外来患者の診療経過、治療方針、術後症例の病理結果等の検討

平成25年の全手術件数（全麻手術件数）は残念ながら483（410）例で24年の527（460）例から44（50）例の減少となりました。ただし胃痛、乳癌の切除数は増加しており大腸癌でもほぼ横ばいで、当院での件数の多い主要3癌では頑張れていると思います。急患手術の減少が気になる所

Kazuno Kosei Hospital

## かづの厚生病院

皆様、1年ぶりにお目にかかります。かづの厚生病院外科です。

当院は秋田県の県北に位置し、医療圏は鹿角市：33,786人、小坂町：5,783人、岩手県八幡平市の一部、合計4万弱となっています。秋田市から見ると完璧に僻地ですが、盛岡からは交通の便も良く、自分的には「あっと」いう間に鹿角－盛岡間が往復できる位置と思っています。

病院は新築・移転して4年が経過し、所々に傷が目立ち始めてきました。標榜科は16科ですが、常勤11名・常勤嘱託6名・研修医0名です。今後も常勤医が減少する嫌な噂があり、当直業務等で無理を強いられているのが現状です。唯一の朗報は、秋から循環器内科で常勤が1名復活することです。

ベッド数は262床ですが、50床が休床のままなので実際は212床での診療となっています。

外科スタッフは、常勤医は阿部薫、稲葉亮（1月～3月）、菅野公德（4月～11月）、石橋正久（12月～3月）です。また、大学医局からは、毎週火曜日は午後の手術応援とこれに続く当直を。毎週金曜日に花巻温泉病院から高橋（兄）先生の外来診察応援をして頂いています。人手不足（病院そのもの）のため、可能であれば、当直応援を以前と同様にもう1日お願いできればと考えています。

当科の手術件数は前年と同数で、全麻件数は7件の増加

です。

腹腔鏡下大腸手術は藤澤先生のもと順調に件数を増やしております。全手術件数の減少の中、腹腔鏡下手術件数は139例と横ばいで当科でもますます鏡下手術の割合が増加してきております。

以前から病院にお願いしていた、デジタルマンモグラフィ、外来エコーの機種更新、鏡下手術のハイビジョン化の予算がつき、それぞれ平成26年6月、4月、3月に導入されております。

教室入局の当院研修医、天野総君は2年目となり他科研修もだいふ進み、そろそろ本格的に外科研修が始まるものと思います。



でした。全麻手術における癌の手術の割合は61%でした。結腸・直腸癌手術件数は51件、胃癌手術は29件、乳癌手術は11件でした。肝胆膵手術も8件であり、この規模の病院にしては多い方ではないか（勘違い？）と思っています。

全麻件数に占める阿部以外の執刀割合は、総合で53%でした。各先生によって割合が変化しますが、癌に関しても執刀医件数は多いと思います。老眼が進み、単身赴任で栄養不良、おまけに口だけ五月蠅い医者（誰？）に若手の先生が取って代わるのも、時間の問題でしょうか。

外科学会・消化器外科学会関連施設、がん治療認定医療機構認定研修施設であり、鹿角での経験は無駄にはなりません。

当院でも、診療・手術経験を得られる環境は十分に整っていると考えています。大学医局よりの御支援には大変感謝申し上げますが、今後とも更なる御支援・御鞭撻をお願いいたします。

2013年もたくさんの患者様をご紹介いただきありがとうございました。今後も最善をつくし治療させていただきます。また、地域連携パスが稼働した際には、ぜひとも先生方のご協力をお願いいたします。

あ

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
青森県立中央病院	吉 田 茂 昭	030-8553	青森県	青森市	東造道2-1-1
青森労災病院	須 田 俊 宏	031-0822	青森県	八戸市	白銀町字南ケ丘1番地
赤坂医院	赤 坂 隆 之	029-5505	岩手県	和賀郡西和賀町	湯本29地割66-4
秋田赤十字病院	小 棚 木 均	010-1495	秋田県	秋田市	上北手猿田字苗代沢222-1
秋田組合総合病院(厚生連)	阿 部 栄 二	011-0911	秋田県	秋田市	飯島西袋1-1-1
あさくらクリニック	朝 倉 慎 一	020-0822	岩手県	盛岡市	茶畑1-8-2
安代診療所	和 田 進	028-7534	岩手県	八幡平市	荒屋新町144番地1
安部医院	安 部 彦 満	024-0061	岩手県	北上市	大通り1-11-23
あべ整形外科医院	阿 部 克 久	020-0611	岩手県	滝沢市	菓子1156-22
飯島医院	飯 島 仁	020-0668	岩手県	滝沢市	鵜飼狐洞1-277
石田温泉病院(正恵会)	石 田 正 実	039-2221	青森県	上北郡おいらせ町	上前田21-1
池田外科・消化器内科医院	池 田 健一郎	020-0041	岩手県	盛岡市	境田町5-18
一関病院	佐 藤 隆 次	021-0884	岩手県	一関市	大手町3-36
猪苗代病院	猪苗代 盛 貞	988-0017	宮城県	気仙沼市	南町1丁目3-7
岩手医大花巻温泉病院	猪 又 義 男	025-0305	岩手県	花巻市	台第2地割85番1
岩手県立中央病院	望 月 泉	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-4-1
岩手県立磐井病院	加 藤 博 孝	029-0192	岩手県	一関市	狐禅寺字大平17
岩手県立胆沢病院	松 本 登	023-0864	岩手県	奥州市	水沢区龍ヶ馬場61
岩手県立釜石病院	川 上 幹 夫	026-8550	岩手県	釜石市	甲子町10-483-6
岩手県立久慈病院	阿 部 正	028-8040	岩手県	久慈市	旭町第10地割1番
岩手県立宮古病院	佐 藤 元 昭	027-0096	岩手県	宮古市	崎楸ヶ崎1-11-26
岩手県立大船渡病院	伊 藤 達 郎	022-8512	岩手県	大船渡市	大船渡町字山馬越10-1
岩手県立遠野病院	貴田岡 博 史	028-0541	岩手県	遠野市	松崎町白岩14-74
岩手県立一戸病院	小井田 潤 一	028-5312	岩手県	二戸郡一戸町	一戸字砂森60-1
岩手県立二戸病院	鈴 木 彰	028-6193	岩手県	二戸市	堀野字大川原毛38-2
岩手県立千厩病院	吉 田 徹	029-0803	岩手県	一関市	千厩町千厩字草井沢32-1
岩手県立大槌病院	岩 田 千 尋	028-1131	岩手県	上閉伊郡大槌町	大槌第13地割字八幡前129-11
岩手県立中部病院	遠 藤 秀 彦	024-8507	岩手県	北上市	村崎野17-10
岩手県立沼宮内地域診療センター	川 村 実	028-4303	岩手県	岩手郡岩手町	大字五日市第10地割4番地7
いわてリハビリテーションセンター	大 井 清 文	020-0503	岩手県	岩手郡雫石町	七ツ森16-243
植田医院	植 田 俊 郎	028-1112	岩手県	上閉伊郡大槌町	小槌23-23-1
植田内科消化器科医院	植 田 修	020-0633	岩手県	滝沢市	穴口183-3
内丸病院	富 澤 勇 貴	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-12-7
大通胃腸科内科	鈴 木 恒 男	020-0022	岩手県	盛岡市	大通1-3-4
おおうち消化器科・内科クリニック	大 内 健	027-0077	岩手県	宮古市	館合町1-8

あ

か

さ

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
岡田消化器科内科医院	岡田 健 男	020-0875	岩手県	盛岡市	清水町3-5
おぼら内科・消化器科クリニック	小原 啓 彦	025-0077	岩手県	花巻市	仲町5-8
かさい睡眠呼吸器クリニック	笠井 良 彦	024-0011	岩手県	北上市	堤ヶ丘1-9-32
かづの厚生病院	松谷 富美夫	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字向畑18
釜石ファミリークリニック	寺田 尚 弘	026-0025	岩手県	釜石市	大渡町3丁目15番26号
金沢内科医院	金沢 英 夫	027-0023	岩手県	宮古市	磯鶏沖15-20
北上済生会病院	嶋村 正	024-8506	岩手県	北上市	花園町1-6-8
くどう医院	工藤 卓 次	020-0127	岩手県	盛岡市	前九年3-16-15
川久保病院	尾形 文 智	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田26-30-1
栗原クリニック	栗原 英 夫	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-16-4
黒川産婦人科医院	黒川 賀 重	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町2-51
孝仁病院	白木 豊	020-0052	岩手県	盛岡市	中太田泉田28
孝仁病院PET画像診断センター	村田 雄 二	020-0052	岩手県	盛岡市	中太田泉田28
肥田胃腸科内科医院	肥田 秀 彦	020-0122	岩手県	盛岡市	みたけ4-11-46
国保西根病院	瀧山 郁 雄	028-7112	岩手県	八幡平市	田頭22-79-1
国保種市病院	磯崎 一 太	028-7914	岩手県	九戸郡洋野町	種市23-27-2
国保沢内病院	北村 道 彦	029-5614	岩手県	和賀郡西和賀町	沢内字太田2-68
国立病院機構盛岡病院	菊池 喜 博	020-0133	岩手県	盛岡市	青山1-25-1
湖東総合病院（厚生連）	中鉢 明 彦	018-1605	秋田県	南秋田郡八郎潟町	川崎字貝保37
後藤泌尿器科皮膚科医院	後藤 康 文	027-0083	岩手県	宮古市	大通1-3-24
済生会岩泉病院	柴野 良 博	027-0501	岩手県	下閉伊郡岩泉町	岩泉字中家19-1
ささきクリニック	佐々木 盛 光	025-0053	岩手県	花巻市	中北万丁目836
幸クリニック	山本 幸 一	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通1-5-18
さとう内科クリニック	佐藤 彰 宏	025-0082	岩手県	花巻市	御田屋町4-28
さとう消化器科内科クリニック	佐藤 慎一郎	028-3101	岩手県	花巻市	石鳥谷町好地16-9-5
さとう皮膚科クリニック	佐藤 俊 樹	020-0114	岩手県	盛岡市	高松3丁目11-33
佐藤内科クリニック	佐藤 公 也	020-0022	岩手県	盛岡市	大通3-1-24 第3菱和ビル4F
佐藤皮膚科医院	佐藤 雅 子	020-0133	岩手県	盛岡市	青山3-6-3
佐藤雅夫クリニック	佐藤 雅 夫	027-0074	岩手県	宮古市	保久田47
三愛病院	山内 文 俊	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1-29-15
白沢整形外科医院	白澤 榮 嗣	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘3-40-28
雫石大森クリニック	大森 浩 明	020-0541	岩手県	岩手郡雫石町	千刈田79-2
市立田沢湖病院	佐々木 英 人	014-1201	秋田県	仙北市	田沢湖生保内字浮世坂17-1
しんたろうクリニック	菊池 信太郎	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮1丁目9-1
菅整形外科・皮膚科クリニック	菅 栄 一	028-6103	岩手県	二戸市	石切所字川原38-1

さ

た

な

は

医療機関名	院長	郵便番号	住所		
鈴木こう門科クリニック	鈴木 俊 輔	020-0016	岩手県	盛岡市	名須川町16-14
せいてつ記念病院	鈴木 啓 之	026-0052	岩手県	釜石市	小佐野町4-3-7
総合花巻病院	後 藤 勝 也	025-0075	岩手県	花巻市	花城町4-28
総合水沢病院	半 井 潔	023-0053	岩手県	奥州市	水沢区大手町3-1
高橋内科胃腸科クリニック	高 橋 真	020-0611	岩手県	滝沢市	菓子1186-14
滝沢中央病院	伊 藤 浩 信	020-0668	岩手県	滝沢市	鵜飼狐洞1-104
たぐち脳神経外科クリニック	田 口 壮 一	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1丁目4-19
たにむらクリニック	谷 村 清 明	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮小板小瀬13-2
塚谷医院	塚 谷 栄 紀	028-4303	岩手県	岩手郡岩手町	江刈内10-45-1
遠山病院	千 葉 知	020-0877	岩手県	盛岡市	下ノ橋町6-14
栃内内科医院	栃 内 秀 貴	020-0084	岩手県	盛岡市	神明町10-35
栃内病院	白 石 秀 夫	020-0878	岩手県	盛岡市	肴町2-28
栃内第二病院	栃 内 秀 彦	020-0778	岩手県	滝沢市	大釜吉水103-1
十和田市立中央病院	松 野 正 紀	034-0093	青森県	十和田市	西十二番町14-8
内科 板倉医院	板 倉 康 太 郎	023-0833	岩手県	奥州市	水沢区上姉体6丁目1-8
内科クリニックすずき	鈴木 康 之	020-0105	岩手県	盛岡市	北松園2-15-4
中津川病院	松 嶋 大	020-0003	岩手県	盛岡市	下米内2-4-12
中村内科医院	中 村 義 明	020-0886	岩手県	盛岡市	若園町2-5
成田内科胃腸科医院	成 田 知 史	028-3614	岩手県	紫波郡矢巾町	大字又兵工新田第8地割101番地
ナンブクリニック	陰 山 俊 之	039-0105	青森県	三戸郡南部町	大字沖田面字千刈47-1
西大通り耳鼻咽喉科医院	鈴木 利 久	025-0091	岩手県	花巻市	西大通り1-30-9
西松園内科医院	斉 藤 恵 子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-1
二宮内科クリニック	二 宮 一 見	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町2-47
二戸クリニック	青 木 光	028-6103	岩手県	二戸市	石切所字森合32-1
乳腺外科いしだ外科胃腸科クリニック	石 田 茂 登 男	020-0834	岩手県	盛岡市	盛岡駅前通14-9 ヒラトヤビル3F
野呂外科泌尿器科医院	野 呂 一 夫	023-0052	岩手県	奥州市	水沢区搦手丁24-6
八戸赤十字病院	瀬 尾 喜 久 雄	039-1104	青森県	八戸市	大字田面木字中明戸2
八戸市立市民病院	三 浦 一 章	031-8555	青森県	八戸市	大字田向毘沙門平1
花巻市石島谷医療センター	多 田 泰 裕	028-3163	岩手県	花巻市	石島谷町八幡5-47-2
ひろし外科肛門科	吉 田 博	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園1丁目3番10号
平館クリニック	土 谷 正 彦	028-7405	岩手県	八幡平市	平館第11地割-10-10
藤島内科医院	藤 島 敏 智	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町4-18
ふじまる内科医院	藤 丸 潔	026-0301	岩手県	釜石市	鵜住居町第5地割29-10
藤巻胃腸科内科クリニック	藤 巻 英 二	025-0016	岩手県	花巻市	高木15-16-1
ふるだて加藤肛門科・外科クリニック	加 藤 典 博	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺字古屋敷87-1

は

ま

や

ら

わ

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
プレスト齋藤外科クリニック	齊 藤 純 一	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮6丁目17-6
本田胃腸科内科外科	本 田 健 一	023-0816	岩手県	奥州市	水沢区西町4番21号
本荘第一病院	鈴 木 克 彦	015-0001	秋田県	由利本荘市	出戸町字岩瀬下110
松園第一病院	河 嶋 寛	020-0108	岩手県	盛岡市	東黒石野3-2-1
松園第二病院	石 川 洋 子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-3
松園中央クリニック	阿 部 佳 子	020-0107	岩手県	盛岡市	松園2-37-10
三沢市立三沢病院	坂 田 優	033-0001	青森県	三沢市	大字三沢字堀口164-65
三島内科医院	佐 藤 倫 郎	020-0885	岩手県	盛岡市	紺屋町1-34
三田記念病院	森 莊 祐	020-0807	岩手県	盛岡市	加賀野3-14-1
南東北がん陽子線治療センター	菊 池 泰 裕	963-8563	福島県	郡山市	八山田7丁目172
未来の風せいわ病院	田 嶋 宣 行	020-0401	岩手県	盛岡市	手代森9-70-1
もりおか胃腸科内科クリニック	佐 藤 邦 夫	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通2-3-2
盛岡市立病院	加 藤 章 信	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5丁目15-1
盛岡赤十字病院	松 田 壯 正	020-8560	岩手県	盛岡市	三本柳6-1-1
盛岡繁温泉病院	小 西 一 樹	020-0055	岩手県	盛岡市	繁字尾入野64-9
盛岡友愛病院	長 澤 茂	020-0834	岩手県	盛岡市	永井12-10
森整形外科	森 茂 雄	028-7111	岩手県	八幡平市	大更第25地割117-2
守口医院	守 口 尚	028-0521	岩手県	遠野市	材木町2番25号
八角病院	遠 藤 憲 幸	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木70-190
やまだ胃腸内科クリニック	山 田 宏 之	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央2-18-31
ゆとりが丘クリニック	高 橋 邦 尚	020-0638	岩手県	滝沢市	土沢541
吉田内科呼吸器科医院	吉 田 雅 美	028-7111	岩手県	八幡平市	大更第21地割79-3
六角牛病院	林 重 仁	028-0503	岩手県	遠野市	青笹町中沢5-5-1
わたクリニック	渡 辺 淳 子	125-0054	東京都	葛飾区	柴又1-2-1 A R B 1 F
わたなべおしりのクリニック	渡 邊 正 敏	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5-1-3
渡辺内科医院	渡 辺 立 夫	028-3305	岩手県	紫波郡紫波町	日詰下丸森122-3

## 1. 学術論文

### 1-1 英文論文

1. Ishibashi M, Kogo R, Shibata K, Ueo H, Uchi R, Matsumura T, Takano Y, Sawada G, Takahashi Y, Mima K, Kurashige J, Akiyoshi S, Iwaya T, Eguchi H, Sudo T, Sugimachi K, Suzuki A, Wakabayashi G, Mori M, Mimori K : Clinical significance of PICT1 in patients of hepatocellular carcinoma with wild-type TP53. **Ann Surg Oncol**, 2013 Dec ; 20 Suppl 3 : S537-44.
2. Iwaya T, Fukagawa T, Suzuki Y, Takahashi Y, Sawada G, Ishibashi M, Kurashige J, Sudo T, Tanaka F, Shibata K, Endo F, Katagiri H, Ishida K, Kume K, Nishizuka S, Iinuma H, Wakabayashi G, Mori M, Sasako M, Mimori K : Contrasting expression patterns of histone mRNA and microRNA 760 in patients with gastric cancer. **Clin Cancer Res**, 2013 Dec 1 ; 19(23) : 6438-49.
3. Takahashi M, Wakabayashi G, Nitta H, Takeda D, Hasegawa Y, Takahara T, Ito N : Pure laparoscopic right hepatectomy by anterior approach with hanging maneuver for large intrahepatic cholangiocarcinoma. **Surg Endosc**, 2013 Dec ; 27(12) : 4732-3.
4. Umemura A, Nitta H, Sasaki A, Takahara T, Hasegawa Y, Wakabayashi G : Pure laparoscopic posterior sectionectomy for liver metastasis resulting from choroidal malignant melanoma: a case report. **Asian J Endosc Surg**, 2013 Nov ; 6(4) : 318-21.
5. Hasegawa Y, Sasaki A, Nitta H, Wakabayashi G : Two-stage surgery in a morbidly obese patient: laparoscopic pylorus-preserving pancreaticoduodenectomy after laparoscopic sleeve gastrectomy. **Surg Obes Relat Dis**, 2013 Nov-Dec ; 9(6) : e101-4.
6. Mitomo S, Takahara T, Nitta H, Fujita T, Ito N, Uesugi N, Sugai T, Wakabayashi G : Sunitinib treatment enabling resection of massive liver metastasis: a case report. **J Med Case Rep**, 2013 Oct 3 ; 7(1) : 234.
7. Sasaki A, Nitta H, Otsuka K, Fujiwara H, Takahara T, Wakabayashi G : Single-port versus multiport laparoscopic resection for gastric gastrointestinal stromal tumors: a case-matched comparison. **Surg Today**, 2013 Aug 13.
8. Belli G, Gayet B, Han HS, Wakabayashi G, Kim KH, Cannon R, Kaneko H, Gambin T, Koffron A, Dagher I, Buell JF : International Consensus Group for Laparoscopic Liver Surgery. Laparoscopic left hemihepatectomy a consideration for acceptance as standard of care. **Surg Endosc**, 2013 Aug ; 27(8) : 2721-6.
9. Imura S, Shimada M, Utsunomiya T, Morine Y, Wakabayashi G, Kaneko H : Current status of laparoscopic liver surgery in Japan: results of a multicenter Japanese experience. **Surg Today**, 2013 Jul 26.
10. Hasegawa Y, Nitta H, Sasaki A, Takahara T, Ito N, Fujita T, Kanno S, Nishizuka S, Wakabayashi G : Laparoscopic left lateral sectionectomy as a training procedure for surgeons learning laparoscopic hepatectomy. **J Hepatobiliary Pancreat Sci**, 2013 Jun ; 20(5) : 525-30.
11. Ho CM, Wakabayashi G, Nitta H, Takahashi M, Takahara T, Ito N, Hasegawa Y : Total laparoscopic limited anatomical resection for centrally located hepatocellular carcinoma in cirrhotic liver. **Surg Endosc**, 2013 May ; 27(5) : 1820-5.
12. Sasaki A, Nitta H, Otsuka K, Nishizuka S, Baba S, Umemura A, Koeda K, Mizuno M, Wakabayashi G : Laparoendoscopic single site adrenalectomy: initial results of cosmetic satisfaction and the potential for postoperative pain reduction. **BMC Urol**, 2013 Apr 12 ; 13(1) : 21.
13. Takeda D, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Ito N, Wakabayashi G : Effect of preoperative chemotherapy on postoperative liver regeneration following hepatic resection as estimated by liver volume. **World J Surg Oncol**, 2013 Mar 13 ; 11 : 65.
14. Ishibashi M, Kogo R, Shibata K, Sawada G, Takahashi Y, Kurashige J, Akiyoshi S, Sasaki S, Iwaya T, Sudo T, Sugimachi K, Mimori K, Wakabayashi G, Mori M : Clinical significance of the expression of long non-coding RNA HOTAIR in primary hepatocellular carcinoma. **Oncol Rep**, 2013 Mar ; 29(3) : 946-50.
15. Ho CM, Wakabayashi G, Nitta H, Ito N, Hasegawa Y, Takahara T : Systematic review of robotic liver resection. **Surg Endosc**, 2013 Mar ; 27(3) : 732-9.
16. Lin NC, Nitta H, Wakabayashi G : Laparoscopic major hepatectomy: a systematic literature review and comparison of 3 techniques. **Ann Surg**, 2013 Feb ; 257(2) : 205-13.
17. Nitta H, Sasaki A, Otsuka Y, Tsuchiya M, Kaneko H, Wakabayashi G : Impact of hybrid techniques on laparoscopic major hepatectomies. **J Hepatobiliary Pancreat Sci**, 2013 Feb ; 20(2) : 111-3.
18. Matsuo T, Nishizuka SS, Ishida K, Endo F, Katagiri H, Kume K, Ikeda M, Koeda K, Wakabayashi G : Evaluation of chemosensitivity prediction using quantitative dose-response curve classification for highly advanced/relapsed gastric cancer. **World J Surg Oncol**, 2013 Jan 22 ; 11 : 11.
19. Buell JF, Gayet B, Han HS, Wakabayashi G, Kim KH, Belli G, Cannon R, Saggi B, Kaneko H, Koffron A, Brock G, Dagher I : Evaluation of stapler hepatectomy during a laparoscopic liver resection. **HPB (Oxford)**, 2013 Jan 18.
20. Takahashi Y, Iwaya T, Sawada G, Kurashige J, Matsumura T, Uchi R, Ueo H, Takano Y, Eguchi H, Sudo T, Sugimachi K, Yamamoto H, Doki Y, Mori M, Mimori K : Up-regulation of NEK2 by MicroRNA-128 Methylation is Associated with Poor Prognosis in Colorectal Cancer. **Ann Surg Oncol**, 2013 ; 21(1) : 205-12.

21. Takahashi Y, Sawada G, Kurashige J, Matsumura T, Uchi R, Ueo H, Ishibashi M, Takano Y, Akiyoshi S, Iwaya T, Eguchi H, Sudo T, Sugimachi K, Yamamoto H, Doki Y, Mori M, Mimori K : Tumor-derived tenascin-C promotes the epithelial-mesenchymal transition in colorectal cancer cells. **Anticancer Res**, 2013 ; 33(5) : 1927-34.
22. Yokobori T, Iinuma H, Shimamura T, Imoto S, Sugimachi K, Ishii H, Iwatsuki M, Ota D, Ohkuma M, Iwaya T, Nishida N, Kogo R, Sudo T, Tanaka F, Shibata K, Toh H, Sato T, Barnard GF, Fukagawa T, Yamamoto S, Nakanishi H, Sasaki S, Miyano S, Watanabe T, Kuwano H, Mimori K, Pantel K, Mori M : Platin3 is a novel marker for circulating tumor cells undergoing the epithelial-mesenchymal transition and is associated with colorectal cancer prognosis. **Cancer Res**, 2013 1 ; 73(7) : 2059-69.
23. Ohno S, Chow LW, Sato N, Masuda N, Sasano H, Takahashi F, Bando H, Iwata H, Morimoto T, Kamigaki S, Nakayama T, Nakamura S, Kuroi K, Aogi K, Kashiwaba M, Yamashita H, Hisamatsu K, Ito Y, Yamamoto Y, Ueno T, Fakhrejahani E, Yoshida N, Toi M : Randomized trial of preoperative docetaxel with or without capecitabine after 4 cycles of 5-fluorouracil-epirubicin-cyclophosphamide (FEC) in early-stage breast cancer: exploratory analyses identify Ki67 as a predictive biomarker for response to neoadjuvant chemotherapy. **Breast Cancer Res Treat**, 2013 Nov ; 142(1) : 69-80.
24. Aogi K, Saeki T, Nakamura S, Kashiwaba M, Sato N, Masuda N, Rai Y, Ohno S, Kuroi K, Nishimura R, Miyakoda K, Akiyama F, Kurosumi M, Ikeda T : A multicenter, phase II study of epirubicin/cyclophosphamide followed by docetaxel and concurrent trastuzumab as primary systemic therapy for HER-2 positive advanced breast cancer (the HER2NAT study). **Int J Clin Oncol**, 2013 Aug ; 18(4) : 598-606. doi : 10.1007/s10147-012-0437-1.
25. Umemura A, Sasaki A, Nitta H, Obuchi T, Baba S, Wakabayashi G : Laparoscopic splenectomy for the treatment of refractory thrombotic thrombocytopenic purpura. **Clin J Gastroenterol**, 2013 ; 6 : 420-423.

## 1-2 和文論文

1. 伊藤 直子, 杉立 彰夫, 高橋 正浩, 眞壁 健二, 菅野 将史, 長谷川 康, 高原 武志, 藤田 倫寛, 西塚 哲, 新田 浩幸, 若林 剛 : 光力学診断法による胆汁細胞診と術前化学療法への対策の試み. **癌と化学療法**, 2013 ; 40(12) : 1641-1643.
2. 星川 浩一, 小鹿 雅博, 高橋 学, 松本 尚也, 藤野 靖久, 鈴木 泰, 井上 義博, 新田 浩幸, 若林 剛, 遠藤 重厚 : 敗血症患者およびdisseminated intravascular coagulation 症例における造血因子の検討. **岩手医学雑誌**, 2013 ; 65(5) : 333-341.
3. 今野 弘之, 若林 剛, 宇田川 晴司, 海野 倫明, 國崎 主税, 後藤 満一, 杉原 健一, 武富 紹信, 丹黒 章, 渡邊 聡明, 本村 昇, 橋本 英樹, 宮田 裕章, 友滝 愛, 森 正樹, 日本消化器外科学会データベース委員会 : National Clinical Database(消化器外科領域) Annual Report 2011-2012. **日本消化器外科学会雑誌**, 2013 ; 46(12) : 952-963.
4. 杉本 亮, 織笠 俊輔, 松井 雄介, 肥田 圭介, 若林 剛, 菅井 有 : 胃癌分離腺管および周囲粘膜における分離腸上皮化生腺管、分離非腸上皮化生腺管の分子病理学的解析. **岩手医学雑誌**, 2013 ; 65(4) : 271-283.
5. 佐々木 章, 櫻井 滋, 若林 剛 : 【睡眠呼吸障害-睡眠科学と睡眠医療のリンケージ-】 <睡眠医療とのリンケージ> 肥満外科領域. **睡眠医療**, 2013 ; 7(4) : 475-479.
6. 阪本 靖介, 笠原 群生, 濱野 郁美, 内田 孟, 重田 孝信, 金澤 寛之, 福田 晃也, 堀川 玲子, 中澤 温子, 小林 めぐみ, 長谷川 康, 高原 武志, 新田 浩幸, 若林 剛 : 2 度の臓器搬送を要し冷阻血時間が長時間となった脳死肝移植の 1 例. **移植**, 2013 ; 48(4-5) : 259-264.
7. 梅邑 晃, 須藤 隆之, 御供 真吾, 藤田 倫寛, 新田 浩幸, 馬場 誠朗, 佐々木 章, 若林 剛 : 脾頭十二指腸切除術における no stent 法による脾空腸吻合の臨床検討. **日本外科系連合学会誌**, 2013 ; 38(4) : 753-758.
8. 加藤 久仁之, 大塚 幸喜, 加藤 典博, 板橋 哲也, 秋山 有史, 若林 剛 : ALTA(ジオン注射)療法にて内痔核からの出血がコントロールできバシズマブ投与が可能となった大腸癌肝転移の 1 例. **癌と化学療法**, 2013 ; 40(11) : 1553-1555.
9. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 若林 剛 : 【術後ケアにばっちり生かせる 術式別イラストノート 臓器別ケアポイントつき】(2章) 肝臓・胆嚢切除後のケア. **消化器外科 Nursing**, 2013 ; 18(12) : 1124-1125.
10. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 若林 剛 : 【術後ケアにばっちり生かせる 術式別イラストノート 臓器別ケアポイントつき】(1章) 肝区域切除術. **消化器外科 Nursing**, 2013 ; 18(12) : 1104-1107.
11. 大淵 徹, 佐々木 章, 若林 剛 : 【術後ケアにばっちり生かせる 術式別イラストノート 臓器別ケアポイントつき】(1章) 腹腔鏡下胆嚢摘出術(LC). **消化器外科 Nursing**, 2013 ; 18(12) : 1100-1103.
12. 小林 めぐみ, 水野 大, 新田 浩幸, 若林 剛 : 【プロが見せる手術シリーズ(3): 難易度の高い肝・胆・脾・横隔膜手術】腹腔鏡下肝切除術 左葉切除、外側区域切除. **小児外科**, 2013 ; 45(11) : 1203-1206.
13. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 板橋 英教, 菅野 将史, 石橋 正久, 中村 聖華, 若林 剛 : 【手術のピットフォールとリカバリーショット】肝移植手術におけるピットフォールとリカバリーショット. **消化器外科**, 2013 ; 36(12) : 1741-1750.
14. 柏葉 匡寛, 小松 英明, 若林 剛 : HER2 陽性乳がん薬物治療 治療を完遂するための工夫 抗体と TKI の治療による HER2 感受性維持の重要性. **臨床腫瘍プラクティス**, 2013 ; 9(4) : 436-442.
15. 藤井 仁志, 板橋 哲也, 大塚 幸喜, 脇本 将寛, 若林 剛 : 腹腔鏡補助下大腸癌手術における intravenous patient-controlled analgesia(IV-PCA) の有用性. **岩手医学雑誌**, 2013 ; 65(2) : 87-96.
16. 菅野 将史, 新田 浩幸, 高原 武志, 伊藤 直子, 長谷川 康, 若林 剛 : 【各種デバイスを応用した私の手術-使用法と工夫】電気メス, 超音波凝固切開装置の原理, 正しい使用法と工夫. **外科**, 2013 ; 75(9) : 913-917.

17. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 若林 剛:【消化器外科における漢方の応用】下部消化管外科における漢方の応用. **消化器外科**, 2013; 36(9): 1315-1324.
18. 小松 英明, 柏葉 匡寛, 若林 剛:【新しい分子標的治療薬】HER2 陰性進行再発乳癌に対する Bevacizumab を用いた治療戦略. **乳癌の臨床**, 2013; 28(3): 253-259.
19. 加藤 久仁之, 藤澤 健太郎, 玉澤 佳之, 御供 真吾, 佐瀬 正博, 若林 剛:門脈ガスを伴った $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害薬による腸管囊腫様気腫症の1例. **日本臨床外科学会雑誌**, 2013; 74(6): 1557-1562.
20. 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 藤原 久貴, 遠藤 史隆, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛:食道癌術後 Bacillus cereus 敗血症の1例. **日本外科感染症学会雑誌**, 2013; 10(3): 339-342.
21. 馬場 誠朗, 下沖 収, 佐々木 章, 高橋 正統, 遠野 千尋, 上杉 憲幸, 菅井 有, 阿部 正, 大塚 幸喜, 若林 剛:原発性虫垂癌の横行結腸穿通の1例. **岩手医学雑誌**, 2013; 65(1): 53-58.
22. 馬場 誠朗, 下沖 収, 佐々木 章, 武田 大樹, 吉田 雅一, 鴻巣 正史, 皆川 幸洋, 阿部 正, 若林 剛:骨髄異形成症候群の白血病化と急性虫垂炎が同時発症した1例. **岩手医学雑誌**, 2013; 65(1): 47-52.
23. 菅野 将史, 新田 浩幸, 高原 武志, 伊藤 直子, 長谷川 康, 若林 剛:【達人が教える内視鏡手術の Knack & Pitfall】腹腔鏡(補助)下肝切除術の Knack & Pitfall. **手術**, 2013; 67(8): 1181-1187.
24. 菅野 将史, 新田 浩幸, 高原 武志, 伊藤 直子, 長谷川 康, 若林 剛:【最新 肝胆膵脾手術アトラス】肝臓 腹腔鏡補助下肝切除(ハイブリッド手術). **手術**, 2013; 67(6): 755-759.
25. 柏葉 匡寛, 小松 英明, 若林 剛:HER2 陽性転移乳がんに対する治療効果最大化を目指した今後の戦略 ラパチニブの適正使用. **臨床腫瘍ブ**  
**ラクティス**, 2013; 9(2): 195-203.
26. 大貫 幸二, 宇佐美 伸, 若林 剛, 柏葉 匡寛, 大内 憲明, 狩野 敦, 御供 陽二:日本のすみずみまで乳癌検診を 岩手県における乳癌検診の精度管理と精密検査態勢への取組み. **日本乳癌検診学会誌**, 2013; 22(1): 24-30.
27. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 藤井 仁志, 若林 剛:腹腔鏡補助下回盲部切除を施行した腸管 Behcet 病の3例. **日本内視鏡外科学会雑誌**, 2013; 18(3): 317-322.
28. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 伊藤 直子, 菅野 将史, 真壁 健二, 佐々木 章, 若林 剛:【エキスパートが教える内視鏡外科手術-ポイントとなる解剖的理解】肝・胆・膵・脾の鏡視下手術 肝癌に対する鏡視下手術 腹腔鏡下肝外側区域切除術. **消化器外科**, 2013; 36(5): 786-792.
29. 梅邑 晃, 須藤 隆之, 御供 真吾, 佐々木 章, 馬場 誠朗, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 若林 剛: Parietex Composite Mesh を用いた腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術の臨床検討. **日本内視鏡外科学会雑誌**, 2013; 18(2): 183-188.
30. 若林 剛:大腸癌肝転移に対する conversion therapy 後の腹腔鏡補助下拡大肝切除. **手術**, 2013; 67(3): 377-388.
31. 加藤 久仁之, 藤澤 健太郎, 玉澤 佳之, 御供 真吾, 佐瀬 正博, 若林 剛:S 状結腸癌を先進部とした成人逆行性腸重積の1例. **日本臨床外科学会雑誌**, 2013; 74(1): 142-145.
32. 若林 剛:肝癌治療実践の Knack&Pitfalls 肝切除 腹腔鏡下右葉切除. **診療ガイドラインに沿った肝癌治療の要点と盲点**, 2013; 13: 214-216.
33. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 伊藤 直子, 菅野 将史, 真壁 健二, 佐々木 章, 若林 剛:腹腔鏡下肝外側区域切除術. **エキスパートが教える内視鏡外科手術ポイントとなる解剖的理解**, 2013; 36(5): 786-792.
34. 柏葉 匡寛:【HER2 陽性乳癌の治療戦略】HER2 陽性乳癌に対する術前化学療法(解説/特集). **乳癌の臨床**, 2013; 28(5): 489-499.
35. 佐藤 淳也, 木村 祐輔, 長澤 昌子, 菅野 綾子, 工藤 賢三, 高橋 勝雄:入院がん患者を対象とした麻薬性鎮痛薬自己管理プロトコルの構築と有用性. **日本緩和医療学会雑誌**, 2013; 6(1): 1-9.
36. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 若林 剛:最新胃癌学 胃癌骨転移の臨床的特徴, **日本臨床外科学会雑誌**, 2013; 72(1): 177-180

## 2. 著 書

1. 長谷川 康, 若林 剛:肝嚢胞. **消化器疾患最新の治療 2013-2014**, 南江堂, 2013; 64(5): 353-354.
2. 長谷川 康, 若林 剛:肝疾患 肝内胆管癌. **消化器外科学レビュー 2013-'14**, 総合医学社, 2013; 79-82.
3. 千葉 丈広:新癌についての質問に答える, へるす出版, 2013; 123-130.
4. 小林 めぐみ, 水野 大, 若林 剛:門脈血流測定による壊死性腸炎の早期診断法-予防こそ最善の治療-低出生体重児の外科, 永井書店, 2013; 165-168.
5. 佐々木 章, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 須藤 隆之, 若林 剛:総胆管結石に対する腹腔鏡下手術. **エキスパートが教える内視鏡外科手術ポイントとなる解剖的理解**, へるす出版, 2013; 36(5): 770-778.
6. 佐々木 章:第1章埋め込み医療機器・材料に起こっているトラブルとその解決術技術情報協会. 第10節 止血材 [3] 臨床医が感じる「貼りやすさ・使いやすさ」の問題点. **体内埋め込み医療・材料の開発とその理想的な性能・デザイン要件**, 2013; 17: 179-183.
7. 佐々木 章:第3章肥満癌治療の実践. 5) 術後管理 肥満症の総合的治療ガイド, **日本肥満症治療学会**, 2013; 78-79.

## 3. 学会発表

### 3-1 国際学会

**10th Annual Conference of Indian Chapter of International Hepato Pancreato Biliary Association, Coimbatore, India, 2013/2/15 ~ 2/17**

1. Wakabayashi G : Impact of hybrid techniques on laparoscopic major hepatectomy, Invited Presentation.
2. Wakabayashi G : Wakabayashi technique of Lap.Liver Resection, Invited Presentation.
3. Wakabayashi G : Hepato cellular carcinoma-Case capsule, Panelist.
4. Wakabayashi G : Special Consideration in Laparoscopy, Invited Presentation.

**8th China-Korea-Japan Laparoscopic Gastrectomy Joint Seminar, Shanghai, China, 2013/3/6 ~ 3/7**

1. Koeda K, Fujiwara H, Chiba T, Nishinari Y, Watanabe Y, Wakabayashi G : Intracorporeal reconstruction after laparoscopic pylorus-preserving gastrectomy: The new technique and initial experience, 一般口演 .

**13th St.gallen International Breast Cancer Conference 2013 13th St.gallen International Breast Cancer Conference 2013, Zurich, Switzerland, 2013/3/12 ~ 3/16**

1. Komatsu H, Kashiwaba M, Inaba T, Ishida K, Kawagishi R, Matsui Y, Uesugi N, Ishida K, Sugai T, Wakabayashi G : Difference of Ki67 Labeling Index between preoperative sample and surgical specimen in breast cancer, Poster Presentation.

**IRCAD, Strasbourg, France, 2013/4/4 ~ 4/6**

1. Wakabayashi G : Fundamental liver techniques into fully laparoscopic, hybrid and hand-assisted hepatectomy, Invited Presentation.
  2. Wakabayashi G : Laparoscopic partial hepatectomy, Invited Presentation.
  3. Wakabayashi G : Hybrid surgical management of hilar hemangiocarcinoma, Invited Presentation.
- \* Wakabayashi G : THEORETICAL SESSION, Chairman.

**104th AACR(American Association for Cancer Research Annual Meeting 2013), Washington DC, USA, 2013/4/6 ~ 4/10**

1. Endo F, Nishizuka S, Ishida K, Kume K, Katagiri H, Ishida K, Iwaya T, Fujiwara H, Koeda K, Wakabayashi G : Analysis of NF- $\kappa$ B as a prediction marker of 5-FU based adjuvant chemotherapy for adenocarcinoma of the stomach, Poster Presentation.
2. Nishizuka S, Ishida K, Shimura T, Young L, Wakabayashi G : Differential Anticancer Drug Response by High-Dimensional Protein Monitoring, Poster Presentation.
3. Kume K, Nishizuka S, Ikeda M, Miura S, Wada Y, Fujikawa S, Maesawa C, Wakabayashi G : Analysis of cancer cell populations by isolated single colonies for the identification of drug-tolerance inducing factor, Poster Presentation.

**SAGES2013, Baltimore, USA, 2013/4/17 ~ 4/18**

1. Wakabayashi G : When to do it open when to do it laparoscopic, when hybrid?, 招待講演 .

**ASCO 2013, Chicago, USA, 2013/5/31 ~ 6/4**

1. Koeda K, Sugimoto N, Tanaka J, Tsuda M, Okamoto W, Okuda H, Imamura H, Matsuyama J, Shimokawa T, Sakai D, Fukushima N, Kurokawa Y, Komatsu Y, Tsujinaka T, Furukawa H : A phase II Study of new combination regimen with trastuzumab, S-1 and CDDP in HER2-positive advanced gastric cancer; OGS1101, HGCSG1102, T-Core1101 Intergroup study (HERBIS-1 trial), Poster Presentation.

**10th International Gastric Cancer Congress, Verona, Italy, 2013/6/19 ~ 6/22**

1. Koeda K, Fujiwara H, Chiba T, Nishinari Y, Watanabe Y, Wakabayashi G : Intracorporeal reconstruction after laparoscopic pylorus-preserving gastrectomy: The new technique and initial experience, Video Presentation.
2. Fujiwara H, Koeda K, Takahashi M, Chiba T, Wakabayashi G : Retrospective Study of Docetaxel and Cisplatin plus S-1 regimen as a Preoperative Neoadjuvant Chemotherapy for Advanced Gastric Cancer, Poster Presentation.

**21st International Congress of the EAES, Vienna, Austria, 2013/6/19 ~ 6/22**

1. Umemura A, Sasaki A, Nitta H, Obuchi T, Baba S, Wakabayashi G : EFFECTS OF LAPAROSCOPIC SLEEVE GASTRECTOMY ON TYPE 2 DIABETES IN JAPANESE POPULATION,

**7th International pediatric transplant association meeting, Warsaw, Poland, 2013/7/13 ~ 7/13**

1. Kobayashi M, Sakamoto S, Kanamori Y, Mizuno M, Wakabayashi G, Kasahara M : Effectiveness of Acoustic Radiation Force Impulse in children with biliary atresia, 一般口演 .

**HPB Conference, Korea, Seoul, 2013/8/20**

- \* Wakabayashi G : Laparoscopic liver resection, Chairman.

**ISW2013, Helsinki, Finland, 2013/8/25 ~ 8/29**

1. Wakabayashi G : Extended resection — hepato-pancreaticoduodenectomy — for bile duct cancer, Oral Presentation.

2. Baba S, Sasaki A, Nitta H, Obuchi T, Umemura A, Iwaya T, Kimura Y, Otsuka K, Koeda K, Mizuno M, Wakabayashi G : Effects of laparoscopic sleeve gastrectomy on type 2 diabetes and nonalcoholic fatty liver disease, Poster Presentation.
  3. Kimura Y, Ikeda K, Iwaya T, Koeda K, Noda Y, Mitomo S, Kimura T, Otsuka K, Nitta H, Kashiwaba M, Sasaki A, Wakabayashi G : Salvage esophagectomy after definitive chemoradiotherapy for esophageal squamous cell carcinoma, Poster presentation.
  4. Koeda K, Fujiwara H, wakabayashi G : Surgical procedures of laparoscopic vagus nerve preserving distal gastrectomy with D2 lymph node dissection, Poster presentation
  5. Kanno S, Nitta H, Hasegawa Y, Takahara T, Ito N, Wakabayashi G : Surgical treatment of intrahepatic cholangiocarcinoma: a single center experience : Poster presentation
  6. Kimura T, Otsuka K, Itabashi T, Kimura Y, Nitta H, Koeda K, Sasaki A, Wakabayashi G : Laparoscopic-assisted proctocolectomy using prolapsing technique for familial adenomatous polyposis : Poster presentation
- \* Wakabayashi G : ISDS Free Papers Hepatobiliary surgery Chairman
  - \* Koeda K : ISDS Free Papers Gastric Cancer Chairman

**International Conference on Systems Biology 2013, Copenhagen, Denmark, 2013/8/29 ~ 9/4**

1. Nishizuka S, Ishida K, Takemoto K, Wakabayashi G : A Systems-Level Approach to Differential Anticancer Drug Response by High-Dimensional Protein Dynamics Monitoring, Poster Presentation.
2. Kume K, Nishizuka S, Maesawa C, Wakabayashi G : Genotoxic drug-induced switch-like protein expression of nuclear p53 in human cancer cells, Poster Presentation.

**The 13th Congress of the Asian Society of Transplantation, Kyoto, 2013/9/2 ~ 9/6**

1. Takahara T, Nitta H, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno M, Itabashi H, Wakabayashi G : Novel treatment for HCV hepatitis recurrence post liver transplantation, using Mizoribine, Poster Presentation.
2. Wakabayashi G : Laparoscopic donor hepatectomy from hybrid pure, シンポジウム .
3. Wakabayashi G : Is Laparoscopic donor hepatectomy justified?, Invited Presentation.
4. Hasegawa Y : Pure laparoscopic living donor left hepatectomy, a case report.

**Clinical Congress 2013, American College of Surgeons, Washington DC, USA, 2013/10/6 ~ 10/10**

1. Ishibashi M, Shibata K, Takahashi Y, Sawada G, Kurashige J, Iwaya T, Sudo T, Mimori K, Wakabayashi G, Mori M : The Clinical magnitude of the expression of PICT1 in hepatocellular carcinoma with wild-type TP53, Poster Presentation.

**The 8th International Single Topic Symposium of the Korean Association of HBP Surgery, Korea, 2013/11/11 ~ 11/13**

1. Go Wakabayashi : Patient positioning and port site selection, Symposium.

**3rd Reverse-Phase Protein Array Global Workshop (RPPA2013), 神戸, 2013/11/12 ~ 11/13**

1. Nishizuka S, Endo F, Ishida K, Katagiri H, Sato K, Kume K, Ishida K, Iwaya T, Koeda K, Wakabayashi G : Cancer relapse prediction marker screening using RPPA technology, Invited Presentation.
  2. Ishida K, Nishizuka S, Kume K, Sato K, Endo F, Katagiri H, Koeda K, Wakabayashi G : Drug-tolerant gastric cancer cell subpopulation enriched by 5-Fluorouracil acquires malignant phenotype, Oral Presentation.
  3. Kume K, Nishizuka S, Ikeda M, Miura S, Endo F, Katagiri H, Ishida K, Sato K, Maesawa C, Wakabayashi G : Molecular characterization of drug-tolerant cancer cell subpopulations using colony lysate microarrays, Poster Presentation.
  4. Kume K, Nishizuka S, Takizawa H, Maesawa C, Wakabayashi G : WinP-scan, a user-friendly platform for RPPA image analysis, Poster Presentation.
- \* Nishizuka S : Origin and Future of RPPA Technology by Lance Liotta, Professor., Chairman.
  - \* Nishizuka S : Workshop co-chair

**3-2 国内学会**

**Breast Cancer Scientific Exchange Meeting in Kita-Tohoku, 盛岡, 2013/1/12**

- \* 柏葉匡寛 : 総合司会, 司会 .

**第78回大腸癌研究会, 東京, 2013/1/17 ~ 1/18**

1. 大塚 幸喜 : 困難症例に対する施設の工夫・男性狭骨盤患者・Rb 症例・肥満症例, イブニングセミナー .
- \* 大塚 幸喜 : 局所進行直腸癌の治療戦略, 座長 .

**第47回東北膵臓研究会, 仙台, 2013/2/8**

1. 長谷川 康 : 嚢胞性変化をきたした膵神経内分泌腫瘍の一例 .

**第12回肝移植フォーラム, 東京, 2013/2/23**

1. 長谷川 康 : 完全腹腔鏡下に肝左葉グラフト採取術を施行した一例, 一般口演 .

#### 第 85 回日本胃癌学会総会, 大阪, 2013/2/27 ~ 3/1

1. 梅邑 晃, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 高橋 正統, 若林 剛: 教室における切除不能再発胃癌に対する trastuzumab 療法, 一般示説.
2. 高橋 正統, 下沖 収, 皆川 幸洋, 藤社 勉, 佐々木 秀策, 吉田 宗平, 阿部 正: CDDP/ CPT-11 併用療法により根治切除可能となった胃内分泌細胞癌の 1 例, 一般示説.
3. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 西成 悠, 渡邊 陽太郎, 若林 剛: Linear Stapler と Barbed Suture Closure Device (V-Loc) を用いた完全腹腔鏡下胃切除再建法の工夫, ワークショップ.
4. 遠藤 史隆, 西塚 哲, 石田 和茂, 久米 浩平, 片桐 弘勝, 石田 馨, 岩谷 岳, 藤原 久貴, 肥田 圭介, 若林 剛: 胃癌術後補助化学療法における 5-FU 効果予測因子としての NF- $\kappa$ B の検討, 一般示説.
5. 藤原 久貴, 肥田 圭介, 高橋 正統, 千葉 丈広, 西成 悠, 渡邊 陽太郎, 若林 剛: 当科における腹腔鏡下手術の術中深達度診断についての検討, 一般示説.
6. 中村 聖華, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 高橋 正統, 千葉 丈広, 梅邑 晃, 渡邊 陽太郎, 若林 剛: イマチニブ耐性胃 GIST に対してスニチニブを選択し長期病勢コントロールを行った症例, 一般示説.
7. 千葉 丈広, 比企 直樹, 布部 創也, 小菅 敏幸, 橋本 佳和, 入野 誠之, 清川 貴志, 田中 友理, 本多 通孝, 谷村 慎哉, 佐野 武, 山口 俊晴: 当院における胃癌に対する腹腔鏡下胃切除後再発例の検討, 一般口演.  
\* 肥田 圭介: 腹腔鏡下噴門側胃切除, 座長.

#### 第 10 回日本乳癌学会東北地方会, 仙台, 2013/3/2

1. 川岸 涼子, 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 小松 英明, 石田 和茂, 松井 雄介, 上杉 憲幸, 菅井 有, 若林 剛: Bevacizumab/Paclitaxel 抵抗性の再発トリプルネガティブ乳癌に Eribulin が有効であった一例, 一般口演.
2. 小松 英明, 柏葉 匡寛, 石田 和茂, 川岸 涼子, 松井 雄介, 稲葉 亨, 上杉 憲幸, 石田 和之, 菅井 有, 若林 剛: 当科における乳癌晩期再発症例の検討, 一般口演.
3. 石田 和茂, 柏葉 匡寛, 松井 雄介, 川岸 涼子, 小松 英明, 若林 剛, 稲葉 亨: 当科における乳輪切開アプローチの検討, 一般口演.
4. 川岸 涼子, 柏葉 匡寛, 石田 和茂, 小松 英明, 松井 雄介, 稲葉 亨, 若林 剛: Bevacizumab/Paclitaxel 抵抗性の再発トリプルネガティブ乳癌症例に Eribulin が有効であった一例, 一般口演.
5. 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 小松 英明, 川岸 涼子, 松井 雄介, 若林 剛: 術前化学療法後のセンチネルリンパ節生検 (SNB) の忍容性の検討, 一般口演.  
\* 若林 剛: センチネルリンパ節生検の現状, 座長.  
\* 柏葉 匡寛: イブニングセミナー 1 第二部パネルディスカッション, 治療部門講師. 座長.  
\* 石田 和茂: 教育セミナー, パネリスト.

#### 第 49 回日本腹部救急医学会総会, 福岡, 2013/3/13 ~ 3/14

1. 箱崎 将規, 石川 徹, 菅原 俊道, 坂下 伸夫, 若林 剛: CT 検査にて術前診断し得た魚骨による小腸穿孔の 2 例, 一般口演.
2. 佐々木 秀策, 下沖 収, 吉田 宗平, 高橋 正統, 藤社 勉, 皆川 幸洋, 阿部 正: 外傷性肝嚢胞内出血の 1 例, 一般口演.
3. 松尾 鉄平, 川崎 雄一郎, 佐藤 直夫, 坂本 隆, 葛西 敏史: メッケル憩室の腸間膜への癒着が起因した絞扼性イレウスの一例, ワークショップ.  
\* 若林 剛: 腹部救急疾患に対する内視鏡外科手術, 司会.

#### 第 12 回日本再生医療学会総会, 横浜, 2013/3/21 ~ 3/23

1. 西塚 哲, 片桐 弘勝, 若林 剛: 肝切除後組織再生における間葉系組織由来 muse 細胞の関与, シンポジウム.
2. 西塚 哲: 肝切除後組織再生における間葉系組織由来 muse 細胞の関与, 一般口演.

#### 第 113 回日本外科学会定期学術集会, 福岡, 2013/4/11 ~ 4/13

1. 眞壁 健二, 新田 浩幸, 高原 武志, 伊藤 直子, 長谷川 康, 菅野 将史, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除における出血量軽減を目的とした肝動脈血流遮断および CO<sub>2</sub> ガス塞栓の危険性に関する基礎的検討, 一般口演.
2. 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 小松 英明, 川岸 涼子, 松井 雄介, 石田 和茂, 上杉 憲幸, 若林 剛: センチネルリンパ節内の Epithelial-Mesenchymal Transition と宿主免疫の応答, 一般示説.
3. 川岸 涼子, 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 小松 英明, 石田 和茂, 松井 雄介, 上杉 憲幸, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 菅井 有, 若林 剛: 原発巣における乳癌 Stemness と EMT (Epithelial mesenchymal transition) の転移機, 一般示説.
4. 石田 馨, 西塚 哲, 久米 浩平, 糠塚 守, 武知 貞士, 遠藤 史隆, 片桐 弘勝, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 半導体型次世代シーケンサーを用いた胃癌細胞株における癌関連遺伝子の解析, 一般示説.
5. 片桐 弘勝, 西塚 哲, 石田 馨, 遠藤 史隆, 長谷川 康, 高原 武志, 柏葉 匡寛, 大塚 幸喜, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: ヒト生体肝移植検体をを用いた肝外性組織修復細胞に関する検討, パネルディスカッション.
6. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 伊藤 直子, 菅野 将史, 眞壁 健二, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 大腸癌肝転移に対する腹腔鏡肝切除の中長期成績, 一般示説.
7. 大淵 徹, 龜山 哲章, 富田 真人, 三橋 宏章, 宮田 量平, 雨宮 隆介: 体格係数別の単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の検討, 一般示説.
8. 遠藤 史隆, 西塚 哲, 石田 和茂, 久米 浩平, 片桐 弘勝, 石田 馨, 岩谷 岳, 藤原 久貴, 肥田 圭介, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 胃癌術後補助化学療法における 5-FU 効果予測因子としての NF- $\kappa$ B の分子生物学的検討, 一般示説.
9. 小林 めぐみ, 水野 大, 有末 篤弘, 若林 剛: 超音波ドプラ法を用いた門脈血流測定による壊死性腸炎発症リスク因子評価, ワークショップ.
10. 遠藤 久仁, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 藤澤 健太郎, 秋山 有史, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 啓介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: パイポラ鉗子を用いた定型化した左結腸動脈存存 # 253 リンパ節郭清手技, ビデオシンポジウム.

11. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 遠藤 久仁, 伊藤 千絵, 加藤 久仁之, 箱崎 将規, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 進行直腸癌の対する安全な腹腔鏡下リンパ節郭清手技一支配血管挟み撃ち法一, ビデオシンポジウム.
12. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 伊藤 直子, 菅野 将史, 眞壁 健二, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 巨大肝硬変症例に対する Hanging maneuver を用いた分割肝全摘, ビデオシンポジウム.
13. 新田 浩幸, 佐々木 章, 藤田 倫寛, 眞壁 健二, 石橋 正久, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 長谷川 康, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 当科における腹腔鏡下肝切除の適応と手術手技, ビデオシンポジウム.
14. 秋山 有史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 鴻巣 正史, 藤原 久貴, 肥田 圭介, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 進行食道癌に対する DCF 療法による術前化学療法の検討, 一般示説.
15. 伊藤 千絵, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 遠藤 久仁, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 肥田 圭介, 柏葉 匡寛, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 西塚 哲, 佐々木 章, 若林 剛: 腹膜播種を伴う進行大腸癌の治療成績, 一般示説.
16. 小松 英明, 柏葉 匡寛, 石田 和茂, 川岸 涼子, 松井 雄介, 上杉 憲幸, 石田 和之, 菅井 有, 若林 剛: 当科における乳癌手術前後の Ki67 Labeling Index の変動についての検討, 一般示説.
17. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 大淵 徹, 梅田 晃, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 2 型糖尿病・非アルコール性脂肪性疾患に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果と可能性, パネルディスカッション.
18. 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除における ICG 蛍光内視鏡システムの可能性, ランチョンセミナー.
19. 藤原 久貴, 肥田 圭介, 高橋 正統, 千葉 丈広, 西成 悠, 渡邊 陽太郎, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 当科における高齢者 Stage IV 胃癌症例に対する化学療法の検討, 一般示説.
20. 藤井 仁志, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 遠藤 久仁, 伊藤 千絵, 八重樫 瑞典, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 脇本 将寛, 鈴木 健二, 若林 剛: 大腸癌に対する腹腔鏡手術の術後鎮痛法の検討, 一般示説.
21. 西塚 哲, 久米 浩平, 遠藤 史隆, 片桐 弘勝, 石田 馨, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 抗癌剤耐性コロニー由来細胞集団の分子生物学的プロファイル, 一般示説.
22. 岩谷 岳, 深川 剛生, 高橋 佑典, 澤田 元太, 石橋 正久, 藏重 淳二, 主藤 朝也, 遠藤 史隆, 片桐 弘勝, 石田 馨, 久米 浩平, 西塚 哲, 鴻巣 正史, 秋山 有史, 木村 祐輔, 飯沼 久恵, 若林 剛, 森 正樹, 笹子 三満留, 三森 功士: 胃癌患者骨髄/末梢血中遊離癌細胞: 宿主細胞における遺伝子発現解析, ワークショップ.
23. 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 食道癌根治術後における末梢静脈栄養療法の検討, 一般示説.
24. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 遠藤 久仁, 伊藤 千絵, 箱崎 将規, 加藤 久仁之, 藤澤 健太郎, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 超高齢者に対する腹腔鏡下大腸手術の検討, 一般口演.
25. 水野 大, 小林 めぐみ, 有末 篤弘, 佐々木 章, 肥田 圭介, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 若林 剛: 小児における Reduced port surgery の現状と今後, ビデオシンポジウム.
26. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 西成 悠, 渡邊 陽太郎, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 高度肥満例に対する腹腔鏡下幽門側胃切除術の工夫, ビデオフォーラム.
27. 千葉 丈広, 比企 直樹, 布部 創也, 小菅 敏幸, 橋本 佳和, 高橋 祐, 秋吉 高志, 峯 真司, 長山 聡, 有田 淳一, 小西 毅, 藤本 佳也, 山田 和彦, 福長 洋介, 上野 雅資, 齋浦 明夫, 佐野 武, 山口 俊晴: 腹腔鏡下胃切除術における十二指腸を先行離断しない左側アプローチについて~利点と欠点, ビデオシンポジウム.
28. 秋山 有史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 鴻巣 正史, 藤原 久貴, 肥田 圭介, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: Stage III 食道癌に対する術前 DCF 療法の治療成績, 一般示説.
  - \* 若林 剛: 「腹腔鏡下肝切除術の現状と適応拡大の試み」, 司会.
  - \* 佐々木 章: 「大腸癌 発癌・悪性度-1」, 司会.
  - \* 新田 浩幸: 「肝 鏡視下-1」, 司会.
  - \* 大塚 幸喜: 「大腸癌 手術適応-2」, 司会.
  - \* 肥田 圭介: 「胃 高齢者-1」, 司会.
  - \* 西塚 哲: 「新規治療法開発 浸潤・転移」, 司会.
  - \* 柏葉 匡寛: 「乳腺 新規薬剤」, 司会.

## 第 11 回日本ヘルニア学会学術集会, 仙台, 2013/5/10 ~ 5/11

1. 富澤 勇貴, 小笠原 聡, 日下 純男, 水野 大, 岩谷 岳, 小林 めぐみ, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 若年成人鼠経ヘルニアに対する単孔式腹腔鏡下経皮的腹膜外閉鎖法 (SILPEC) の経験, パネルディスカッション.
2. 川村 英伸, 杉村 好彦, 畠山 元, 中屋 勉, 吉田 雅一, 岩谷 岳, 富澤 勇貴, 中嶋 潤, 若林 剛: 再発を予防する Kugel 法の工夫, シンポジウム.
3. 吉田 雅一, 川村 英伸, 杉村 好彦, 畠山 元, 中屋 勉, 若林 剛: 若年女性の鼠経ヘルニアに対する Tension-free 法 vs Marcy 法, ワークショップ.
4. 富澤 勇貴, 小笠原 聡, 日下 純男, 岩谷 岳, 馬場 誠朗, 板橋 哲也, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡下ヘルニア修復術 (腹膜外到達法) 一膨潤 TEP 手術, 一般口演.
5. 水野 大: 食道裂孔ヘルニアの小児手術, 司会.

## 第 50 回日本小児外科学会学術集会, 東京, 2013/5/30 ~ 6/1

1. 小林 めぐみ, 水野 大, 有末 篤弘, 若林 剛: 単孔式腹腔鏡下噴門形成術に重症心身障がい者の側弯が及ぼす影響, 一般口演.

2. 有末 篤弘, 水野 大, 小林 めぐみ, 若林 剛: 当院における染色体異常に対する周産期治療, 一般示説.

\* 水野 大: 一般講演 2 消化管 1, 座長.

### 第 35 回日本癌局所療法研究会, 神戸, 2013/5/31

1. 伊藤 直子, 杉立 彰夫, 高橋 正浩, 眞壁 健二, 菅野 将史, 板橋 英教, 長谷川 康, 高原 武志, 藤田 倫寛, 星川 浩一, 新田 浩幸, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 西塚 哲, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 光力学的診断法による胆汁細胞診と術前化学療法への対策の試み, 一般口演.

### 第 38 回日本外科系連合学会学術集会, 東京, 2013/6/6 ~ 6/7

1. 大淵 徹, 龜山 哲章, 佐々木 章, 富田 真人, 三橋 宏章, 若林 剛: Parietex Composite を用いた単孔式腹腔鏡下ヘルニア修復術の検討, 要望演題.

\* 若林 剛: 外科系各科における鏡視下手術, 司会.

### 第 165 回東北外科集談会, 仙台, 2013/6/8

\* 佐々木 章: エナジーデバイスを使用した最新の腹腔鏡下手術, 座長.

### 第 67 回日本食道学会学術集会, 大阪, 2013/6/13 ~ 6/14

1. 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 藤原 久貴, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 右大動脈弓に合併した食道癌に対して胸腔鏡補助下食道切除術を施行した 1 例, 一般示説.

2. 秋山 有史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 鴻巣 正史, 藤原 久貴, 肥田 圭介, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 安全性と低侵襲を目標とした食道癌胃管再建法の手術手技と工夫, 一般示説.

3. 梅邑 晃: 食道癌肉腫と扁平上皮癌の 3 重田は次がんの 1 例, 一般口演.

4. 岩谷 岳, 澤田 元太, 高橋 佑典, 鴻巣 正史, 秋山 有史, 木村 祐輔, 佐々木 章, 森 正樹, 三森 功士, 若林 剛: 食道扁平上皮癌における NOTCH1 遺伝子異常の解析, 一般口演.

5. 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 鴻巣 正史, 藤原 久貴, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 進行食道癌に対する食道ステント治療成績, 一般示説.

\* 佐々木 章: 要望ポスター, 座長.

\* 佐々木 章: 食道機能評価, 座長.

\* 木村 祐輔: 腹腔鏡手術, 座長.

### 第 25 回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 宇都宮, 2013/6/12 ~ 6/14

1. 若林 剛: LALPPS の試み, ランチョンセミナー.

2. 菅野 将史, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 板橋 英教, 片桐 弘勝, 中村 聖華, 若林 剛: 当科における胆管細胞癌の治療成績~腹腔鏡手術の妥当性~, 一般示説.

3. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 菅野 将史, 板橋 英教, 眞壁 健二, 若林 剛: 脾を最後に切離して標本を摘出する幽門輪温存脾頭十二指腸切除, ビデオシンポジウム.

4. 新田 浩幸: 腹腔鏡下肝切除の要点と盲点, 一般口演.

5. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 伊藤 直子, 菅野 将史, 梅邑 晃, 眞壁 健二, 若林 剛: 若手外科医による腹腔鏡下肝切除一手術手技の検証, ビデオシンポジウム.

\* 若林 剛: 内視鏡手術支援ロボット (da Vinci Surgical System) による肝胆膵手術の経験, 司会.

### 第 27 回日本小児救急医学会, 沖縄, 2013/6/14 ~ 6/15

1. 小林 めぐみ, 水野 大, 有末 篤弘, 若林 剛: 菓子昆布による食餌性イレウスのため開腹手術を施行した 2 小児例, 一般口演.

### 第 18 回日本緩和医療学科学術大会, 横浜, 2013/6/21 ~ 6/22

1. 木村 祐輔: コミュニティ (相補的支援環境) の構築に向けて, シンポジウム.

2. 木村 祐輔, 菅野 綾子, 長澤 昌子, 佐藤 淳也, 佐賀 雄大, 岩戸 清香, 若林 剛, 藤岡 知昭: 岩手医科大学における相補的支援環境としての「がん患者・家族サロン」の役割, シンポジウム.

### 第 31 回日本肥満症治療学会学術集会, 東京, 2013/6/28 ~ 6/29

1. 佐々木 章, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 非アルコール性脂肪性肝疾患に対する肥満外科手術の効果, シンポジウム.

2. 佐々木 章, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 肥満外科治療の診療体制と治療費, シンポジウム.

3. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 新田 浩幸, 大淵 徹, 梅邑 晃, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 非アルコール性脂肪性肝疾患に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果, ポスターセッション.

\* 若林 剛: 肥満症の実態と問題一各診療科の現場から一, 座長.

### 第 21 回日本乳癌学会, 浜松市, 2013/6/27 ~ 6/29

1. 小松 英明, 柏葉 匡寛, 石田 和茂, 川岸 涼子, 松井 雄介, 上杉 憲幸, 石田 和之, 菅井 有, 若林 剛: 乳癌手術前後における KI67 Labeling Index の変動についての検討, ポスター討議.

2. 塩井 義裕, 川村 秀司, 中村 眞一, 嵩 眞佐子: 腋窩の副乳に発生した Nipple adenoma の 1 例, ポスター討議.

3. 三浦 一穂, 佐藤 千恵, 鈴木 有紀, 野村 彩香, 斎藤智恵子, 柏葉 匡寛, 小松 英明, 石田 和茂, 川岸涼子, 若林 剛: 外来電話相談対応マニュアルの整備と効果, 口演.
4. 玉澤 明美, 藤社 勉, 下沖 収, 柏葉 匡寛: 乳がんキャンサーボードによる効果と今後の課題, 口演.
5. 及川 美央, 柏葉 匡寛, 小松 英明, 石田 和茂, 川岸 涼子, 三浦 一穂, 山崎 郁子, 若林 剛: 当院におけるリンパ浮腫外来の立ち上げと現状, ポスター討議.
6. 石田 和茂, 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 小松 英明, 川岸 涼子, 松井 雄介, 若林 剛: 脳転移指向性乳癌細胞株を用いた脳転移予測マーカー探索, ポスター討議.
7. 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 小松 英明, 川岸 涼子, 松井 雄介, 上杉 憲幸, 菅井 有, 若林 剛: Triple negative 乳癌 (TNBC) に対する Modified-Vanderbilt 6 subtype の臨床的有用性の検証, ポスター討議.
8. 細谷 優子, 柏葉 匡寛, 若林 剛: テンプレートを用いた乳房インプラント選択法, ポスター掲示.
9. 川岸 涼子, 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 小松 英明, 石田 和茂, 松井 雄介, 上杉 憲幸, 菅井 有, 若林 剛: 術前化学療法施行後に両側腋窩・肺門部リンパ節にサルコイド反応を認めた 1 例, ポスター掲示.
10. 柏葉 匡寛, 岩本 充彦: 乳がん HER2 シグナルの多様性に対応した管理を目指して HER2 陽性乳がんの治療最適化を考える, ランチョンセミナー.
11. 柏葉 匡寛: 患者セミナー「学会レビュー」, 特別口演.
  - \* 柏葉 匡寛: Meet the Expert 8, 司会.
  - \* 柏葉 匡寛: 看護・症状ケア 2-4 「病理報告書の読み方」, 司会.
  - \* 柏葉 匡寛: 新規バイオマーカー ポスターディスカッション, 司会.

## 第 13 回日本抗加齢医学会総会, 横浜, 2013/6/28 ~ 6/30

1. 小笠原 聡, 富澤 勇貴, 若林 剛, 日下 純男: 甲状腺乳頭癌における SirT1 発現の意義, ポスター討議.

## 第 79 回大腸癌研究会, 大阪, 2013/7/5

1. 長谷川 康, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 高原 武志, 木村 聡元, 板橋 英教, 箱崎 菅野 将史, 片桐 弘勝, 佐々木 章, 若林 剛: 大腸癌肝転移に対する腹腔肝切除の成績, 一般口演.

## 第 195 回日本消化器病学会東北支部例会, 弘前, 2013/7/12

1. 水谷 久太, 及川 寛太, 及川 純子, 滝川 康裕, 高原 武志, 新田 浩幸, 佐々木 章, 須藤 隆之, 石田 和之: 診断に苦慮した脾 solitary fibrous tumor の 1 例, 一般口演.

## 第 68 回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 2013/7/17 ~ 7/19

1. 石橋 正久, 高野 裕樹, 高橋 佑典, 澤田 元太, 藏重 淳二, 江口 英利, 主藤 朝也, 杉町 圭史, 若林 剛, 三森 功士: 肝細胞癌における鉄代謝関連遺伝子 FBXL5 発現の臨床的意義, 要望演題.
2. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 西成 悠, 渡邊 陽太郎, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡 (補助) 下幽門保存胃切除術におけるリンパ節郭清の実際と工夫, 要望ビデオ.
3. 大淵 徹, 亀山 哲章, 富田 真人, 三橋 宏章, 宮田 量平, 雨宮 隆介, 佐々木 章, 若林 剛: 消化器癌終末期における客観的栄養評価と予後検討, 要望演題.
4. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 新田 浩幸, 梅邑 晃, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の脂肪量と肝容積に対する効果, 一般口演.
5. 中村 聖華, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 放射線性腸炎に対し外科的治療を選択した 9 例, 一般示説.
6. 岩谷 岳, 高橋 佑典, 澤田 元太, 石橋 正久, 片桐 弘勝, 遠藤 史隆, 西塚 哲, 森 正樹, 三森 功士, 若林 剛: 大腸癌の予後に関わる long non-coding RNA の解析, 一般口演.
7. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 直腸癌に対する腹腔鏡下手術の標準化を目指して -Pitfall から学び、それを伝承する教育-, ビデオシンポジウム.
8. 新田 浩幸, 佐々木 章, 藤田 倫寛, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 長谷川 康, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 若林 剛: 安全性と面の肝離脱を意識した腹腔鏡下肝葉切除術 - 腹腔鏡下肝葉切除術の標準化に向けて -, ビデオシンポジウム.
9. 藤原 久貴, 肥田 圭介, 高橋 正統, 千葉 丈広, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 80 歳以上の Stage IV 胃癌症例に対する化学療法の効果に関する検討, 一般口演.
10. 千葉 丈広, 比企 直樹, 布部 創也, 福長 洋介, 峯 真司, 山田 和彦, 上野 雅資, 齋浦 明夫, 佐野 武, 山口 俊晴: 当院における胃 GIST における手術指導, 一般口演.
11. 菅野 将史, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 板橋 英教, 片桐 弘勝, 中村 聖華, 若林 剛: 当科における IPMN の切除成績と治療方針, 一般口演.
12. 藤井 仁志, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: ERAS における周術期鎮痛法の検討, シンポジウム.
13. 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 藤原 久貴, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 食道癌術後早期栄養管理における至適アミノ酸投与量の検討, 一般口演.
14. 遠藤 史隆, 西塚 哲, 石田 和茂, 片桐 弘勝, 石田 馨, 岩谷 岳, 藤原 久貴, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 胃癌細胞株を用いた 5-FU 刺激に対する NF- $\kappa$ B と p53 タンパクの協調作用に関する基礎的検討, 一般示説.

15. 長谷川 康, 新田 浩幸, 佐々木 章, 高原 武志, 肥田 圭介, 大塚 幸喜, 木村 祐輔, 西塚 哲, 水野 大, 若林 剛: 大腸癌肝転移に対する腹腔鏡肝切除の役割 - 開腹手術と比較した短期成績と長期成績, 一般口演.
16. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 外館 幸敏, 八重樫 瑞典, 板橋 哲也, 佐々木 章, 若林 剛: 結腸癌に対する腹腔鏡手術をもう一度基本から学んでみませんか!, ランチョンセミナー.
17. 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 鴻巣 正史, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 75 歳以上の高齢者食道癌における手術成績の検討, 企画関連口演.
18. 木村 祐輔: がん治療と平行して行う緩和ケア, ランチョンセミナー.
19. 佐々木 章, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 胃 GIST に対する腹腔鏡下胃局所切除術: single-port versus multiport, 要望演題.
20. 岩谷 岳, 高橋 佑典, 澤田 元太, 石橋 正久, 片桐 弘勝, 遠藤 史隆, 西塚 哲, 森 正樹, 三森 功士, 若林 剛: 大腸癌の予後に関わる long non-coding RNA の解析, 一般口演.
21. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 遠藤 久仁, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 当科における横行結腸癌に対する腹腔鏡下手術の手技: 要望演題.
22. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 菅野 将史, 眞壁 健二, 若林 剛: 臍を最後に切離する胆管癌に対する幽門輪温存臍頭十二指腸切除, 一般口演.
23. 秋山 有史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 鴻巣 正史, 藤原 久貴, 肥田 圭介, 大塚 幸喜, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 局所進行食道癌に対する集学的治療戦略と手術施行症例の治療成績, 企画関連口演.

#### 第 44 回日本脾臓学会大会, 仙台, 2013/7/25 ~ 7/26

1. 若林 剛: エナジーデバイスを用いた臍頭十二指腸切除術~開腹編・ラパロ編~, ランチョンセミナー.

#### International Symposium Anatomical Science for advance in health and clinical therapy, 仙台, 2013/08/27 ~ 08/27

1. Nishizuka S, Katagiri H, Dezawa M, Wakabayashi G: IDENTIFICATION OF DISTINCT TYPE OF BONE MARROW MESENCHYMAL STEM CELLS CONTRIBUTING TO HEPATIC TISSUE RESTORATION, Symposium.

#### 第 49 回日本移植学会総会, 京都, 2013/9/5 ~ 9/7

1. 若林 剛: 生体肝移植提供者に対する手術侵襲軽減の工夫, ワークショップ.
2. 高原 武志: 生体肝移植ドナーに対する低侵襲手術, ワークショップ.

#### 第 53 回日本婦人科内視鏡学会, 名古屋, 2013/9/6

1. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 外館 幸敏, 若林 剛: 大腸外科医から見た骨盤臨床解剖, スポンサーシンポジウム.

#### 第 166 回東北外科集談会, 青森, 2013/9/14

- \* 大塚 幸喜: 大腸 2, 座長.

#### 第 81 回日本小児外科学会東北地方会, 青森, 2013/9/14

1. 佐々木 秀策, 水野 大, 小林 めぐみ, 有末 篤弘, 若林 剛: 小児肝未分化胎児肉腫の 1 例, 一般口演.
2. 小林 めぐみ, 水野 大, 吉田 宗平, 佐々木 秀策, 有末 篤弘, 若林 剛: 先天性心疾患を伴う尿路合併児に対する治療戦略, 一般口演.

#### 第 20 回日本門脈圧亢進症学会総会, 名古屋, 2013/9/19 ~ 9/20

1. 佐々木 章: 門脈圧亢進症に対する腹腔鏡下手術, イブニングセミナー.

#### 第 49 回日本胆道学会学術集会, 千葉, 2013/9/19 ~ 9/20

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 板橋 英教, 若林 剛: 腹腔鏡補助下肝門部胆管癌手術, 一般口演
- \* 若林 剛: 術後合併症, 座長.
- \* 若林 剛: 胆道癌の集学的治療-GC 療法を使いこなす-, 司会.

#### 第 72 回日本癌学会学術総会, 横浜, 2013/10/3 ~ 10/5

1. Kume K, Nishizuka S, Endo F, Katagiri H, Ishida K, Maesawa C, Wakabayashi G: Analysis of drug-tolerant phenotype by molecular profiling of single colonies, Poster Presentation.
2. 杉立 彰夫, 久米 浩平, 石田 馨, 遠藤 史隆, 片桐 弘勝, 伊藤 直子, 板橋 哲也, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 若林 剛: 光力学を利用した細胞診, 一般口演.
3. 久米 浩平, 西塚 哲, 遠藤 史隆, 片桐 弘勝, 石田 馨, 前沢 千早, 若林 剛: シングルコロニー解析によるヒト癌薬剤耐性因子同定の試み, Poster Presentation.
4. Takeshi Iwaya, Takeo Fukagawa, Yutaka Suzuki, Yusuke Takahashi, Genta Sawada, Kohei Kume, Satoshi Nishizuka, Hisae Inuma, Go Wakabayashi, Masaki Mori, Mitsuru Sasako, Koshi Mimori: Gene expression analysis of bone marrow cells in gastric, Oral Presentation.
5. 村岡 賢, 久米 秀明, 西塚 哲, 若林 剛, 星野 敢, 松原 久裕, 朝長 毅: 自己抗体ファージライブラリを用いたスキルス胃癌の診断バイオマー, 一般口演.
6. Nishizuka S, Ishida K, Takemoto K, Wakabayashi G: Systems-Level Analysis for Differential Anticancer Drug Response, Poster Presentation.

## 第 17 回東北緩和医療研究会, 盛岡, 2013/10/5

\* 木村 祐輔: 大会長, 当番世話人.

## 10th Asian Pacific Chitin Chitosan Sympjium, 米子, 2013/10/4 ~ 10/8

1. Sugitachi A, Kume K, Nishizuka S, Wakabayashi G, Takamori M, Fukuda M, Takamatsu M, Nakashima H, Sato Y, Sakamoto M and Umezawa E: Photodynamic diagnosis and photodynamic therapy with chitosan and aminolevulinic acid, 一般口演.

## 第 55 回日本消化器病学会大会, 東京, 2013/10/9 ~ 10/12

1. 新田 浩幸, 高原 武志, 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除を最も行っている施設から, 基調講演.  
2. 新田 浩幸: 腹腔鏡・肝生検の現状と再評価一次世代への継承とその問題点, コメンテーター.

## 第 21 回日本消化器関連学会週間, 東京, 2013/10/9 ~ 10/12

1. 新田 浩幸: 腹腔鏡・肝生検の現状と再評価一次世代への継承とその問題点, パネリスト.  
2. 高原 武志, 新田 浩幸, 若林 剛: High-volume center における腹腔鏡下肝切除の trend, シンポジウム.  
\* 若林 剛: 肝胆膵外科領域におけるロボット・腹腔鏡下手術の現状と課題, 司会.

## 第 11 回日本消化器外科学会大会, 東京, 2013/10/11 ~ 10/12

1. 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 鴻巣 正史, 遠藤 史隆, 藤原 久貴, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 食道切除後再建術における工夫と短期治療成績, 一般示説.  
2. 高原 武志: High-volume center における腹腔鏡下肝切除の trend, シンポジウム.  
\* 若林 剛: 肝胆膵外科領域におけるロボット・腹腔鏡下手術の現状と課題, 司会.

## 第 51 回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2013/10/24 ~ 10/26

- 大塚 幸喜: 大腸がん治療の現状, Meet in PAL 講演.
- 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 進行食道癌における食道ステント挿入術の検討, 一般示説.
- 柏葉 匡寛: 再発乳癌における抗腫瘍効果と癌性疼痛の定量的評価, スポンサーシンポジウム.
- 木村 祐輔, 長澤 昌子, 岩谷 岳, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 藤岡 知昭, 若林 剛: 遠隔テレビ会議システムを用いた「緩和ケアテレビカンファレンス」の有用性, 一般口演.
- 小松 英明, 柏葉 匡寛, 石田 和茂, 川岸 涼子, 松井 雄介, 石田 和之, 上杉 憲幸, 菅井 有, 若林 剛: 当科における Fulvestrant の使用経験, 一般示説.
- 柏葉 匡寛, 小松 英明, 石田 和茂, 川岸 涼子, 松井 雄介, 上杉 憲幸, 菅井 有, 若林 剛: 進行再発乳癌に対するエリプリンの使用経験, 一般示説.
- 柏葉 匡寛: 乳腺 バイオマーカー, 一般口演.
- 肥田 圭介, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 西成 悠, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 胃癌骨転移例に関する臨床病理学的特徴と集学的治療, 一般口演.
- 柏葉 匡寛: 基礎と臨床からみた これからの HER2 陽性乳癌, スポンサーシンポジウム.
- 新田 浩幸, 佐々木 章, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 眞壁 健二, 石橋 正久, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 長谷川 康, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 若林 剛: 肝細胞癌に対する腹腔鏡(補助)下肝切除の手術手技と長期成績, シンポジウム.
- 秋山 有史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 鴻巣 正史, 藤原 久貴, 肥田 圭介, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 当科における胸部食道癌の周術期リハビリテーションの現状, 一般示説.
- 高橋 正統, 下沖 収, 皆川 幸洋, 藤社 勉, 吉田 宗平, 阿部 正: 胆嚢管原発線内分泌細胞癌の多発肝転移に化学療法が奏功した 1 例, 一般示説.
- 土井原 博義, 柏葉 匡寛, 高尾 信太郎, 伊藤 良則, 雷 哲明, 松原 麻理, 金谷 和充, 増田 慎三: HER2 陽性転移性乳癌患者を対象としたトラスツズマブエムタンシンの安全性の検討, 一般示説.  
\* 若林 剛: 肝がん治療の最前線, 司会.

## 第 6 回東北ヘルニア研究会, 仙台, 2013/11/9

- 有末 篤弘, 水野 大, 佐々木 秀策, 小林 めぐみ, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 極低出生体重児の鼠径ヘルニアに対する治療方針, シンポジウム.
- 飯島 信, 川村 英伸, 杉村 好彦, 畠山 元, 中屋 勉, 石田 和茂, 若林 剛: 当院における腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術の手術手技と成績, 一般口演.
- 富澤 勇貴, 水野 大, 岩谷 岳, 伊藤 直子, 藤井 仁志, 小笠原 聡, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 若年成人鼠径ヘルニアに対する単孔式腹腔鏡下経皮的腹膜外閉鎖法 (SILPEC 法) 13 病変の検討, 一般口演.
- 川村 英伸, 杉村 好彦, 畠山 元, 中屋 勉, 飯島 信, 石田 和茂, 若林 剛: 膨潤麻酔を併用した腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術 (TAPP) の経験, 一般口演.

## 第 40 回日本臓器保存生物医学学会学術集会, 東京, 2013/11/9 ~ 11/10

- 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 板橋 英教, 眞壁 健二, 若林 剛: 岩手県第 1 例目の脳死肝移植, 一般口演.  
\* 若林 剛: 移植医療の近未来, 座長.

### 第5回 Acute Care Surgery 学会学術集会, 東京, 2013/11/10

1. 佐藤 寿穂, 遠藤 史隆, 野田 宏伸, 小鹿 雅博, 若林 剛, 遠藤 重厚: 当院における Open Abdominal Management の検討, 一般口演.
  2. 齋藤 匠, 今津 正史, 及川 公樹, 小原 眞, 遠野 千尋, 遠藤 秀彦, 若林 剛: 地域中核病院における外傷救急の現状と展望, 一般口演.
- \* 若林 剛: 優秀演題, 座長.

### 第68回日本大腸肛門病学会, 東京, 2013/11/15 ~ 11/16

1. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 外館 幸敏, 若林 剛: 脾彎曲部進行結腸癌に対する腹腔鏡下手術手技, ビデオシンポジウム.
2. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 外館 幸敏, 若林 剛: 右側進行結腸癌に対する腹腔鏡下手術手技 一術者にもやさしい新しいデバイス, ランチョンセミナー.
3. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 加藤 久仁之, 藤澤 健太郎, 板橋 哲也, 若林 剛: 当教室における腹腔鏡下大腸癌手術の教育システム: ビデオパネルディスカッション.

### 日本消化器病学会東北支部 第15回教育講演会, 仙台, 2013/11/17

- \* 若林 剛: Metabolic Surgery, 司会.

### 第75回日本臨床外科学会総会, 名古屋, 2013/11/21 ~ 11/23

1. 佐々木 章: ICG 蛍光システムがもたらす腹腔鏡下手術の新たな展開, ランチョンセミナー.
  2. 片桐 弘勝, 西塚 哲, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 秋山 有史, 高原 武志, 大塚 幸喜, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 消化管のみを原発とする同時性5重複癌の一例, 一般口演.
  3. 若林 剛: 開腹を経ない内視鏡外科手術教育はありうるが適正の見極めが必要, パネルディスカッション.
  4. 藤原 久貴, 肥田 圭介, 高橋 正統, 千葉 文広, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 切除不能進行胃癌に対する conversion surgery の治療成績, パネルディスカッション.
  5. 大淵 徹, 佐々木 章, 梅邑 晃, 馬場 誠朗, 大山 健一, 阿部 薫, 須藤 隆之, 坂下 伸夫, 吉田 徹, 伊藤 達朗, 遠藤 秀彦, 坂本 隆, 阿部 正, 若林 剛: ビデオ会議システムを利用した遠隔医療会議と手術指導, 特別企画.
  6. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 板橋 英教, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡肝切除における Trocar 配置のコツ, ワークショップ.
  7. 若林 剛: 肝臓外科のイノベーション, 特別講演.
  8. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 千葉 文広, 西成 悠, 渡邊 陽太郎, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡下幽門保存胃切除における鏡視下再建術の工夫, ビデオシンポジウム.
  9. 秋山 有史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 鴻巣 正史, 藤原 久貴, 千葉 文広, 肥田 圭介, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 胸部食道癌手術のチームによる周術期呼吸リハビリテーションの取り組み, 一般口演.
  10. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 眞壁 健二, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 板橋 英教, 若林 剛: 若手県初の脳死肝移植, 一般口演.
  11. 大淵 徹, 向橋 知江, 山上 良, 小野 正人, 緒方 晴樹, 畑山 純, 雨宮 厚: ビデオ会議システムを利用した遠隔医療会議と手術指導, 一般口演.
  12. 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 眞壁 健二, 石橋 正久, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 高橋 正浩, 佐々木 章, 若林 剛: 完全腹腔鏡下肝切除における肝実質切離の工夫, ビデオシンポジウム.
  13. 藤井 仁志, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 外館 幸敏, 佐々木 秀策, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 大腸癌腹腔鏡手術周術期における静脈内持続投与法の有用性, ワークショップ.
  14. 梅邑 晃, 須藤 隆之, 佐々木 章, 青木 毅一, 眞壁 健二, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 西塚 哲, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡下腹壁癒着ヘルニア手術のバリエーション-ヘルニア門の位置に着目したポート配置とメッシュ選択・固定術-, 一般口演.
  15. 箱崎 将規, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 外館 幸敏, 藤井 仁志, 佐々木 秀策, 板橋 哲也, 藤澤 健太郎, 加藤 久仁之, 肥田 圭介, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 佐々木 章, 若林 剛: Crohn 病に対する腹腔鏡下手術の治療成績, ワークショップ.
  16. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 加藤 久仁之, 藤澤 健太郎, 板橋 哲也, 外館 幸敏, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡下横行結腸切除術に対する手術手技の工夫, ワークショップ.
  17. 菅野 将史, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 板橋 英教, 片桐 弘勝, 中村 聖華, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除での水出しモノポーラ型電気メス使用のコツと工夫, ワークショップ.
  18. 有末 篤弘, 水野 大, 小林 めぐみ, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡補助下に全摘した小児小網嚢腫の1例, 一般口演.
- \* 大塚 幸喜: 内視鏡下大腸切除術の手術手技, 座長.
- \* 肥田 圭介: 胃: 悪性疾患 7, 座長.

### 第5回膵臓内視鏡外科研究会, 福岡, 2013/11/27

1. 長谷川 康, 佐々木 章, 新田 浩幸, 高原 武志, 大淵 徹, 板橋 英教, 馬場 誠朗, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 若林 剛: 病的肥満を合併した膵神経内分泌腫瘍に対して, 腹腔鏡下スリープ状胃切除術後に幽門輪温存膵頭十二指腸切除術を施行した一例, 一般口演.

### 第26回日本外科感染症学会総会学術集会, 神戸, 2013/11/25 ~ 11/26

1. 佐藤 寿穂, 野田 宏伸, 遠藤 史隆, 小鹿 雅博, 高橋 学, 鈴木 泰, 井上 義博, 若林 剛, 遠藤 重厚: 敗血症と endotoxin 中和能, 一般口演.
2. 下沖 収, 吉田 宗平, 瀬川 武紀, 高橋 正統, 藤杜 勉, 皆川 幸洋, 阿部 正, 遠野 千尋: Critical illness polyneuropathy を発症した下顎腫瘍の1例, パネルディスカッション.

3. 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 当科における食道癌術前化学療法と術後感染症との関連性の検討, 一般口演.

\* 若林 剛: 創閉鎖と腹腔内ドレーン使用の標準化, 司会.

## 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2013/11/28 ~ 11/30

1. 佐々木 章, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 秋山 有史, 藤原 貴久, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: Metabolic surgery としての腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の可能性, パネルディスカッション.
2. 大淵 徹, 佐々木 章, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 秋山 有史, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術: 手技の工夫とピットフォール, ワークショップ.
3. 小林 めぐみ, 水野 大, 有末 篤弘, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 小児胆道拡張症に対する腹腔鏡補助下分流通手術の展望, 一般口演.
4. 新田 浩幸, 佐々木 章, 藤田 倫寛, 眞壁 健二, 石橋 正久, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 長谷川 康, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 若林 剛: さらなる普及を目指した安全かつ無理のない腹腔鏡下肝切除術の手術手技, シンポジウム.
5. 武田 大樹, 船渡 治, 大槻 花恵, 安藤 太郎, 川岸 涼子, 菅野 将史, 板橋 英教, 板橋 哲也, 中嶋 潤, 小川 雅彰, 早川 善郎, 小林 慎, 高金 明典: 単項式腹腔鏡下虫垂切除術の治療戦略~吊り上げ法からの展開~, パネルディスカッション.
6. 中嶋 潤, 板橋 哲也, 武田 大樹, 川岸 涼子, 安藤 太郎, 船渡 治, 小川 雅彰, 早川 善郎, 小林 慎, 高金 明典: 腹腔内留置型メッシュを用いた腹腔鏡下腹壁ヘルニア修復術の手技と工夫, ワークショップ.
7. 馬場 誠朗, 亀山 哲章, 佐々木 章, 富田 真人, 三橋 宏章, 宮田 量平, 今井 俊一, 若林 剛: 腹壁ヘルニアに対する単項式腹腔鏡下手術~主義の工夫~, ワークショップ.
8. 新田 浩幸: 肝臓外科のトラブルシューティング, ワークショップ.
9. 外館 幸敏, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 佐々木 秀策, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 寺西 寧, 若林 剛: SD カードを記録媒体とした Hi-Vision system の有用性, 一般口演.
10. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 若林 剛: 腹腔鏡補助下 (ハイブリット) 肝門部胆管癌手術, 一般口演.
11. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 中村 聖華, 菅野 将史, 板橋 英教, 長谷川 康, 高原 武志, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 当科における肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除術と開腹肝切除術の成績の解析, 一般口演.
12. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 板橋 英教, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除一当院における最近の工夫, パネルディスカッション.
13. 松尾 鉄平, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 外館 幸敏, 藤井 仁志, 佐々木 秀策, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 85 歳以上超高齢者に対する腹腔鏡下大腸手術の検討, 一般口演.
14. 藤井 仁志, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 外館 幸敏, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 大腸癌腹腔鏡手術における標準鎮痛法の検討~腹腔鏡下大腸癌手術に硬膜外麻酔は必要か?-, 一般口演.
15. 若林 剛: 内視鏡外科診療ガイドライン公聴会, 特別企画.
16. 若林 剛: 肝臓外科の手術法の工夫, パネルディスカッション.
17. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 板橋 英教, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除一当院における最近の工夫, パネルディスカッション.
18. 川村 英伸: 当院における腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術の手術手技と成績, 一般口演.
19. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 西成 悠, 渡邊 陽太郎, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡下胃切除術の地域における普及と教育~胃がん治療の地域均てん化を目指して~, 一般口演.
20. 秋山 有史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 鴻巣 正史, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 肥田 圭介, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 腹臥位胸腔鏡下食道切除術の定型化と治療成績, 一般口演.
21. 大塚 幸喜: 今、注目される新しい縫合器による、安全で的確な腸管吻合, ランチョンセミナー.
22. 佐々木 章, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 秋山 有史, 藤原 貴久, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 食道アカラシアに対する reduced port surgery, ワークショップ.
23. 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除を標準術式にするには何が必要か?, 特別企画.
24. 水野 大, 小林 めぐみ, 有末 篤弘, 佐々木 章, 肥田 圭介, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 木村 祐輔: 小児における Reduced port surgery の手技と位置付け, シンポジウム.
25. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 佐々木 秀策, 外館 幸敏, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 左側横行結腸癌 / 下行結腸癌に対する腹腔鏡下手術手技, パネルディスカッション.
26. 梅邑 晃, 佐々木 章, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 秋山 有史, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡下脾臓摘出術: 単孔式およびポート減少手術における手技の工夫, ワークショップ.
27. 菅野 将史, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 板橋 英教, 片桐 弘勝, 中村 聖華, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 当科における腹腔鏡下肝切除での Pringle 法の工夫, 一般口演.
28. 箱崎 将規, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 外館 幸敏, 板橋 哲也, 藤澤 健太郎, 遠藤 久仁, 加藤 久仁之, 藤井 仁志, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 超音波凝固切開装置を用いた肥満患者に対する腹腔鏡下大腸切除術の有用性, 一般口演.
29. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡補助下大腸癌手術における臍縦切開と SSI の検討, 一般口演.

30. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 高橋 正統, 西成 悠, 渡邊 陽太郎, 西塚 哲, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 当科における腹腔鏡下胃切除術の開腹移行例に関する検討, 一般口演.
31. 板橋 哲也, 小川 雅彰, 武田 大樹, 川岸 涼子, 中嶋 潤, 船渡 治, 早川 善郎, 小林 慎, 高金 明紀: 当院における単孔式腹腔鏡下大腸切除術の検討, 一般口演.
32. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 加藤 久仁之, 藤澤 健太郎, 板橋 哲也, 外館 幸敏, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 当教室における腹腔鏡下大腸癌手術の教育システム: ワークショップ.
- \* 若林 剛: 外科手術はストーリー~ Narrative Model を使用して技術認定医へ~, 司会.
  - \* 若林 剛: Mission statement: Lift up the Organ Noninvasively!, 司会.
  - \* 佐々木 章: ワークショップ6 肥満手術の工夫とピットフォール, 座長.
  - \* 佐々木 章: 肥満手術の工夫とピットフォール, 司会.
  - \* 板橋 哲也: 大腸領域における困難症例対策や合併症軽減の工夫 2, 司会.
  - \* 高原 武志: 胆嚢 適応・その他, 司会.
  - \* 秋山 有史: 食道 再建, 司会.
  - \* 大塚 幸喜: 大腸・肛門悪性 その他: 胃・直腸癌, 司会.
  - \* 木村 聡元: その他 CE, 司会.
  - \* 木村 祐輔: 食道 鏡視下成績, 司会.
  - \* 長谷川 康: 脾臓 症例, 司会.
  - \* 岩谷 岳: 食道良性・腫瘍, 司会.
  - \* 菅野 将史: 症例 小腸・他 (5), 司会.
  - \* 藤原 久貴: 胃・十二指腸良性 症例 (2), 司会.

#### 第 55 回日本小児血液・がん学会学術集会, 福岡, 2013/11/29 ~ 12/1

1. 小林 めぐみ, 水野 大, 有末 篤弘, 若林 剛, 渡辺 悠太, 松下翔子, 遠藤 幹也, 中澤 温子: 術後の治療方針に苦慮している小児肝未分化胎児性肉腫の一幼児例, 一般口演.

#### 第 26 回日本バイオセラピー学会学術集会総会, 盛岡, 2013/12/5 ~ 12/6

- \* 若林 剛: 興味ある症例, 座長.

### 3-3 研究会・セミナー等

#### 腫瘍センター 化学療法セミナー, 盛岡市, 2013/1/9

1. 藤原 久貴: 胃癌と化学療法, 一般口演.

#### 第 78 回大腸癌研究会, 東京, 2013/1/17

1. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 遠藤 久仁, 若林 剛: 縫合不全に対する当教室の考え方, イブニングセミナー.
- \* 大塚 幸喜: 局所進行直腸癌の治療戦略, 座長.

#### 第 4 回先進医療フォーラム, 新宿, 2013/1/19

1. 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除—先進医療から保険収載まで, ランチョンセミナー.
2. 新田 浩幸, 佐々木 章, 藤田 倫寛, 眞壁 健二, 武田 大樹, 石橋 正久, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 長谷川 康, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 若林 剛: 高度医療としての腹腔鏡補助下肝切除術, シンポジウム.

#### 第 14 回肝移植術後管理検討会, 京都, 2013/1/26

1. 高原 武志: レシピエント手術における巨大 shunt の処理について, 一般口演.

#### 東北膵臓研究会, 仙台市, 2013/2/8

1. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 伊藤 直子, 菅野 将史, 佐々木 章, 若林 剛: 嚢胞性変化をきたした膵神経内分泌腫瘍の一例, 一般口演.

#### 第 32 回岩手県乳腺疾患研究会, 盛岡市, 2013/2/16

1. 小松 英明, 柏葉 匡寛, 石田 和茂, 川岸 涼子, 松井 雄介, 上杉 憲幸, 若林 剛: ホルモン療法が奏効中の de novo Stage IV 乳癌の 1 例, 一般口演.

#### 第 8 回 Needlescopic Surgery Meeting, 仙台, 2013/2/16

1. 大淵 徹, 亀山 哲章, 富山 真人, 三橋 宏章, 宮田 量平, 雨宮 隆介: 成人女性に対する単孔式腹腔鏡下経皮的腹膜外ヘルニア閉鎖法, 一般口演.
2. 千葉 丈広, 比企 直樹, 平澤 俊明, 布部 創也, 小菅 敏幸, 橋本 佳和, 清川 貴志, 本多 通孝, 入野 誠之, 田中 友理, 石山 晃世志, 藤崎 順子, 山本 頼正, 谷村 慎哉, 佐野 武, 山口 俊晴: 当院における Reduced Port Surgery の現状, 一般口演.

#### 肝移植医療フォーラム, 東京, 2013/2/23

1. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 伊藤 直子, 菅野 将史, 眞壁 健二, 若林 剛: 完全腹腔鏡下に肝左葉グラフト採取術を施行した一例, 一般口演.
- \* 若林 剛: セッション 1: 長期管理における諸問題, 座長.

## 第 46 回制癌剤適応研究会, 長野, 2013/3/8

1. 西塚 哲, 久米 浩平, 遠藤 史隆, 片桐 弘勝, 石田 馨, 若林 剛: 抗癌剤耐性コロニー の分子生物学的プロファイル, 一般口演.
2. 遠藤 史隆, 西塚 哲, 石田 和茂, 久米 浩平, 片桐 弘勝, 石田 馨, 岩谷 岳, 藤原 久貴, 肥田 圭介, 若林 剛: 5-FU 刺激に対応した NF- $\kappa$ B-p53 協調作用の基礎的研究, 一般口演.

## Winter Seminar 2013 in KIRORO, 北海道, 2013/3/8 ~ 3/10

1. 若林 剛: 腹腔鏡下肝部分切除の技術認定評価基準, 招待講演.

## 肝臓内視鏡外科研究会ハンズオンセミナー, 郡山, 2013/3/16 ~ 3/17

1. 若林 剛: 肝臓内視鏡外科手術総論, コースディレクター.
2. 若林 剛: LAB 実習, コースディレクター.
3. 新田 浩幸: LAB 実習, 講師.
4. 高原 武志: LAB 実習, 講師.

## SPRING KANPO FORUM in 岩手, 盛岡, 2013/3/23

1. 八重樫 瑞典: 腹腔鏡下大腸癌手術周術期における大建中湯の臨床学的効果, 一般口演.

## 第 29 回岩手ストーマ研究会, 盛岡, 2013/3/23

1. 板橋 哲也, 大塚 幸喜, 熊谷 妃小江, 木村 聡元, 遠藤 久仁, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 山田 麻紀子, 佐藤 雅恵, 石川 真佑美, 若林 剛: 再発大腸癌に対する緩和的人工肛門造設術 医師からの視点、看護師からの視点、～医師編～, 一般口演.
2. 熊谷 妃小江, 山田 麻紀子, 佐藤 雅恵, 石川 真佑美, 板橋 哲也, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 遠藤 久仁, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 若林 剛: 再発大腸癌に対する緩和的人工肛門造設術 医師からの視点、看護師からの視点、～看護師編～, 一般口演.

## 第 27 回 Research in Oncology Seminar, 盛岡, 2013/4/22

- \* 若林 剛: iPad と 3D プリンタによるロボット手術ナビゲーション, 開会の辞.
- \* 新田 浩幸: iPad と 3D プリンタによるロボット手術ナビゲーション, 司会.

## 第 28 回 Research in Oncology Seminar, 盛岡, 2013/4/24

- \* 若林 剛: EBM と診療ガイドラインの今・これから「エビデンス」と「コンセンサス」, 開会の辞.
- \* 新田 浩幸: EBM と診療ガイドラインの今・これから「エビデンス」と「コンセンサス」, 司会.

## 第 7 回北東北 LAC 情報交換会, 盛岡, 2013/4/27

1. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 佐々木 秀策, 若林 剛: 横行結腸をどう攻めるか!, 基調講演.
2. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 加藤 久仁之, 板橋 哲也, 若林 剛: 岩手医大式腹腔鏡下 S 状結腸切除術 ~技術認定医ができるまで~

## 第 16 回岩手内視鏡外科研究会, 盛岡市, 2013/5/11

1. 小林 めぐみ, 水野 大, 有末 篤弘, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 若林 剛: 単孔式腹腔鏡補助下左半結腸切除術を施行した 1 乳児例, 一般口演.
  2. 梅邑 晃, 佐々木 章, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 長谷川 康, 高原 武志, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡下胆嚢摘出術における ICG 蛍光内視鏡システムの有用性, 一般口演.
  3. 遠藤 千尋, 小原 眞, 肥田 圭介, 伊藤 潤, 齊藤 匠, 今津 正史, 遠藤 秀彦: 当院における LADG の現況, 一般口演.
- \* 若林 剛: 胸腔鏡下食道癌根治術—最新技術—, 座長.
  - \* 佐々木 章: 一般演題, 座長.

## 医療のしくみ, 盛岡, 2013/5/13

- \* 若林 剛: 卒後 10 年の外科医が行政官になって…医系技官の 1 年, 開会の辞.
- \* 新田 浩幸: 卒後 10 年の外科医が行政官になって…医系技官の 1 年, 司会.
- \* 肥田 圭介: 大学勤務の外科医が開業医になって…第二の医者人生は?, 司会.

## 2013 年 IWATE Wound Closure Seminar EARLY EXPOSURE SESSION, 盛岡, 2013/5/14

- \* 若林 剛: 総司会, 司会.

## 第 27 回日本小児ストーマ・排泄管理研究会, 神戸市, 2013/5/18

1. 有末 篤弘, 水野 大, 小林 めぐみ, 千葉 励子, 松本 敦, 若林 剛: 多部門連携により治癒し得た超低出生体重児腹壁壊死・欠損の一例, 一般口演.

## 第 24 回内視鏡外科フォーラム東北 in 青森, 八戸, 2013/5/18

1. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 渡邊 陽太郎, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡下幽門保存胃切除術 (LPPG) における幽門下動脈温存 No.6 リンパ節郭清の工夫, 一般口演.
2. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 板橋 英教, 菅野将史, 片桐弘勝, 真壁健二, 佐々木 章, 若林 剛: 若手外科医による腹腔鏡下肝外側区域切除—手技の定型化と手術成績—, 一般口演.
3. 松尾 鉄平, 川崎 雄一郎, 佐藤 直夫, 坂本 隆, 葛西 敏史, 若林 剛: 術前 MRCP にて胆嚢管合流以上を診断し、腹腔鏡下胆嚢摘出術を安全に施行しえた胆嚢結石症の 1 例, 一般口演.

4. 新田 浩幸, 佐々木 章, 藤田 倫寛, 眞壁 健二, 石橋 正久, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 長谷川 康, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 若林 剛: 標準化に向けた腹腔鏡下肝葉切除術の手技手法, 一般口演.

#### 第 67 回手術手技研究会, 札幌, 2013/5/18

1. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 佐々木 秀策, 若林 剛: 腹腔鏡下直腸癌手術の安全な切離・吻合手技 - 縫合不全を回避する工夫 -, モーニングセミナー.

#### 第 29 回 Research in Oncology seminar, 盛岡, 2013/5/22

- \* 若林 剛: 医療機器の研究開発と日本での実例 Research & Development of Medical Device, and Case Study in Japan, 開会の辞.  
\* 柏葉 匡寛: 医療機器の研究開発と日本での実例 Research & Development of Medical Device, and Case Study in Japan, 司会.

#### 第 35 回日本癌局所療法研究会, 神戸, 2013/5/31 ~ 5/31

1. 伊藤 直子, 杉立 彰夫, 高橋 正浩, 眞壁 健二, 菅野 将史, 板橋 英教, 長谷川 康, 高原 武志, 藤田 倫寛, 星川 浩一, 新田 浩幸, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 西塚 哲, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 光学的診断法による胆汁細胞診と術前化学療法への対策の試み, 一般口演.

#### 第 5 回岩手肥満症治療セミナー, 盛岡, 2013/6/3

- \* 佐々木 章: 一般演題, 座長.  
\* 佐々木 章: 肥満症の外来治療, 座長.

#### 第 13 回岐阜肝臓外科研究会, 岐阜市, 2013/6/20

1. 若林 剛: 肝切除は腹腔鏡下がいい!!, 特別講演.

#### 第 45 回小石川消化器病フォーラムのご案内, 東京, 2013/6/27

1. 若林 剛: 肝臓外科医から見た肝癌治療, 特別講演.

#### 第 9 回広島肝臓プロジェクト研究センターシンポジウム, 広島市, 2013/6/29

1. 片桐 弘勝, 西塚 哲, 串田 良祐, 高原 武志, 新田 浩幸, 滝川 康裕, 出澤 真理, 若林 剛: ヒト骨髄間葉系幹細胞由来 Muse 細胞による損傷肝修復に関する研究, 一般口演.

#### 第 2 回 SUMMER SEMINOR in 沖縄, 沖縄, 2013/6/28 ~ 6/30

1. 菅野 将史, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 板橋 英教, 片桐 弘勝, 中村 聖華, 若林 剛: どうしてですか? Pringle ~ 当科における腹腔鏡下肝切除での Pringle 法の工夫~, 一般口演.

#### 2013 GE Life Science Day, 横浜, 2013/7/3

1. 久米 浩平, 西塚 哲, 前沢 千早, 若林 剛: 癌細胞の抗癌剤反応における細胞間不均一性の解析, 一般示説.

#### 第 31 回日本肝移植研究会, 熊本, 2013/7/4 ~ 7/5

1. 菅野 将史, 石田 和之, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 板橋 英教, 片桐 弘勝, 中村 聖華, 若林 剛: B 型肝炎変に対する生体肝移植後に肝機能障害を繰り返した一例, 一般口演.  
2. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 若林 剛: Hanging maneuver を用いた分割肝全摘, Video Presentation

#### 第 79 回大腸癌研究会, 大阪, 2013/7/5

1. 長谷川 康, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 高原 武志, 木村 聡元, 板橋 英教, 箱崎 将規, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 佐々木 章, 若林 剛: 大腸癌肝転移に対する腹腔鏡下切除の成績, 一般口演.

#### 第 10 回岩手 GIST 研究会, 盛岡, 2013/7/6

1. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 渡邊 陽太郎, 鴻巣 正史, 秋山 有史, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 若林 剛: 当科におけるグリベックを投与した GIST 症例の検討, 講演.

#### 第 14 回近畿内視鏡下大腸手術研究会, 大阪, 2013/7/27

1. 若林 剛: 最先端の腹腔鏡下肝切除~肝転移はもうこわくない~, 特別講演.

#### 2nd Reduced port surgery forum, 盛岡市, 2013/8/2 ~ 8/3

1. 大淵 徹, 佐々木 章, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 藤原 久貴, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 胃 GIST に対する単孔式腹腔鏡下胃局所切除術: 16 例の経験と多孔式腹腔鏡下胃局所切除術との比較, ワークショップ.  
2. 大淵 徹, 佐々木 章, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 藤原 久貴, 秋山 有史, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 食道アカラシアに対する reduced port surgery, ワークショップ.  
3. 小林 めぐみ, 水野 大, 有末 篤弘, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 若林 剛: 乳児に対する単孔式腹腔鏡補助下左結腸切除術の経験, 一般口演.  
4. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 新田 浩幸, 大淵 徹, 梅邑 晃, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡下脾臓摘出術: single-port と reduced port surgery の適応と成績, ワークショップ.  
5. 馬場 誠朗, 亀山 哲章, 富田 磨人, 三橋 宏章, 宮田 量平, 今井 俊一: 単孔式腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術の治療成績, シンポジウム.  
6. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 外館 幸敏, 八重樫 瑞典, 板橋 哲也, 佐々木 章, 若林 剛: 腹横行結腸・下行結腸癌に対する 5 ポート腹腔鏡手術, スポンサーシンポジウム.

7. 水野 大, 小林 めぐみ, 有末 篤弘, 佐々木 章, 肥田 圭介, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 若林 剛: 当科における小児 Reduced port surgery の現状と今後, パネルディスカッション.

\* 佐々木 章: 特別企画 2 Reduled port surgery: メディカルスタッフの役割とチーム医療, 座長.

\* 水野 大: パネルディスカッション 3 Prosand Cons of Reduced Port Surgery 小児科疾患, 座長.

## バージェタ Small meeting in 三陸, 久慈市, 2013/8/21

1. 柏葉 匡寛: CLEOPATRA 試験から学ぶ Pertuzumab の特性, 特別講演.

## International Surgical Week 2013, Helsinki, 2013/8/25 ~ 8/29

1. Yusuke Kimura, Takeshi Iwaya, Go Wakabayashi, Yuji Akiyama, Masashi Konosu: A clinical study of the salvage surgery for esophageal carcinoma after definitive chemoradiation therapy, 一般口演.

## 次世代シークエンサー現場の会 第三回研究会, 神戸, 2013/9/4 ~ 9/5

1. 西塚 哲: がんの定義とがん遺伝子診断, 招待講演.

## 日本超音波医学東北地方会, 盛岡, 2013/9/8

1. 小林 めぐみ, 水野 大, 有末 篤弘, 若林 剛: 壊死性腸炎の早期診断を目的とした新生児の門脈血流測定, 一般口演.

## 第 39 回東北小児外科研究会, 青森市, 2013/9/13

1. 小林 めぐみ, 水野 大, 吉田 宗平, 佐々木 秀策, 有末 篤弘, 若林 剛: 先天性心疾患を伴う尿路疾患合併児に対する治療戦略, 一般口演.

## 第 40 回東北大腸疾患研究会, 青森, 2013/9/14

1. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡下大腸癌手術における臍縦切開と SSI の検討, 一般口演.

## 第 4 回いわて胃癌治療カンファランス, 盛岡, 2013/9/27

1. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 渡邊 陽太郎, 若林 剛: 当科における胃癌に対するアブラキサンの使用経験, 講演.

## 第 8 回肝癌治療シミュレーション, 東京, 2013/9/28

1. 板橋 英教, 高原 武志, 新田 浩幸, 眞壁 健二, 武田 大樹, 石橋 正久, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 藤田 倫寛, 長谷川 康, 大塚 幸喜, 西塚 哲, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 肝切除シミュレーション未経験者での SYNAPSE VINCENT の有用性, 一般口演.

## 10th Asia-Pacific Chitin-Chitosan Symposium, 米子, 2013/10/4

1. Akio Sugitachi, Kohei Kume, Satoshi Nishizuka, Go Wakabayashi, Yoshimori Takamori, Minoru Fukuda, Masayuki Takamatsu, Hiroko Nakashima, Yoshiko Sato, Megumi Sakamoto, Eiko Umezawa: Photodynamic diagnosis and therapy with chitosan and aminolevulinic acid, Oral Presentation.

## IMRA 2013 CONFERENCE, Taiwan, 2013/10/6 ~ 10/7

1. Takahara Takeshi, Go Wakabayashi: Our experiences of laparoscopic hepatectomy in living donors from hybrid to pure, Oral Presentation.

## CLINICAL CONGRESS 2013, WASHINGTON D.C., 2013/10/6

1. Go Wakabayashi: Pure Laparoscopic Living Donor Left Hepatectomy with a Hanging Maneuver, Video Presentation.

## The 8th International Single Topic Symposium of the Korean Association of HBP Surgery, Korea, 2013/10/11 ~ 10/13

1. Go Wakabayashi: Minimally invasive donor hepatectomy from hybrid to pure, Symposium.

## 第 3 回腹腔鏡下スリーブ状胃切除術セミナー, 東京, 2013/10/12

1. 佐々木 章: 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の適応と治療成績, 招待講演.

2. 佐々木 章: 腹腔鏡下スリーブ状胃切除の適応と治療成績, 一般口演.

## 第 26 回東北膵・胆道癌研究会, 仙台, 2013/10/19

1. 片桐 弘勝, 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 板橋 英教, 菅野 将史, 石橋 正久, 若林 剛: 肝動脈系に IVR 後肝腫形成に関する検討, 一般口演.

## 第 2 回 Tykerd Expert Meeting, 京都, 2013/10/23

1. 柏葉 匡寛: KEE によるエビデンス、ガイドラインに準じた Tykerd の明確なポジショニングを確立する, 招待講演.

## 第 8 回 岩手骨盤外科研究会, 盛岡, 2013/11/1

1. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 外館 幸敏, 若林 剛: 局所進行直腸癌に対する腹腔鏡下側方郭清の現状, 一般口演.

## 第 16 回東北移植研究会, 仙台, 2013/11/2

1. 石橋 正久, 高原 武志, 新田 浩幸, 眞壁 健二, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 長谷川 康, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 巨大な過形成性結節による門脈圧亢進症に対し生体肝移植を施行した一例, 一般口演.

## 2013 International Conference on Diabetes and Metabolism, Korea, 2013/11/6 ~ 11/9

1. Go Wakabayashi: Current status of bariatric surgery in Asia, Oral Presentation.

#### 第6回いわて外科侵襲フォーラム, 盛岡, 2013/11/8

\* 若林 剛: 食道癌集学的治療の動向と周術期管理, 座長.

#### 第6回日本ヘルニア学会北海道支部総会, 札幌, 2013/11/9

1. 中嶋 潤, 水野 大, 武田 大樹, 板橋 哲也, 船渡 治, 小川 雅彰, 早川 善郎, 小林 慎, 高金 明典: 若年者鼠径ヘルニアに対するLPEC法の適応と限界, 一般口演.

\* 中嶋 潤: 一般演題2, 座長.

#### 第31回 Research in Oncology Seminar, 盛岡, 2013/11/13

\* 木村 祐輔: 外科医に臨床試験は必要か? - 外科臨床試験のデザインと進め方, 司会.

#### 第7回肝臓内視鏡外科研究会, 名古屋, 2013/11/20

1. 板橋 英教, 高原 武志, 長谷川 康, 石橋 正久, 眞壁 健二, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 藤田 倫貴, 新田 浩幸, 若林 剛: 当科における完全腹腔鏡下肝前区域切除の経験, 一般口演.

2. 新田 浩幸, 長谷川 康, 高原 武志, 藤田 倫貴, 板橋 英教, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 武田 大樹, 石橋 正久, 眞壁 健二, 伊藤 直子, 高橋 正浩, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 当科における大腸癌肝転移に対する腹腔鏡下肝切除の成績~開腹手術との比較~, スポンサーシンポジウム.

\* 若林 剛: Laparoscopic Liver Surgery - lessons learnt over 16 years., 司会.

#### The 21st Czech-Japan Surgical Symposium, Tokyo, 2013/11/24

\* Go Wakabayashi: Session 5, Chairman.

#### 第5回膵臓内視鏡外科研究会, 福岡, 2013/11/27

1. 長谷川 康, 佐々木 章, 新田 浩幸, 高原 武志, 大淵 徹, 板橋 英教, 馬場 誠朗, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 若林 剛: 病的肥満を合併した膵神経内分泌腫瘍に対して、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後に幽門輪温存膵頭十二指腸切除術を施行した一例, 一般口演.

#### 外科漢方研究会学術集会, 東京, 2013/11/30

\* 若林 剛: ワークショップ1 座長, 司会.

#### 第1回 Tykerb Expert Seminar, Texas, 2013/12/11

1. 柏葉 匡寛: 第2回 Tykerb Expert Meeting で話し合われた内容の SABCS 参加日本人医師に対するシェア, パネリスト.

#### 第20回外科侵襲とサイトカイン研究会, 渋川, 2013/12/14

1. 片桐 弘勝, 西塚 哲, 申田 良祐, 久米 浩平, 遠藤 史隆, 石田 馨, 佐藤 慧, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 板橋 英教, 菅野 将史, 塩井 義裕, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 出澤 真理, 若林 剛: 損傷肝修復に貢献するヒト骨髄間葉系幹細胞中の特定の細胞, Muse 細胞に関する研究, 一般口演.

\* 若林 剛: 肝1, 座長.

#### 第4回 次世代の内視鏡消化管内手術セミナー, 東京, 2013/12/14

1. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 外館 幸敏, 若林 剛: 進行右側結腸癌の鏡視下手術手技 - 中結腸血管周囲の郭清手技を中心に -, 招待講演.

## 4. 講演会

#### 次世代の内視鏡下消化管手術セミナー, 沖縄, 2013/1/26

1. 肥田 圭介: 困難例に対する腹腔鏡下胃がん手術, 講演.

#### 第8回カシオペア懇話会, 二戸, 2013/2/1

1. 大塚 幸喜: 大腸癌に対する腹腔鏡手術の標準化を目指して, 特別講演.

#### 函館市外科医学会学術講演会, 函館市, 2013/2/8

1. 若林 剛: 岩手医科大学における肝移植 - 最近の話題 -, 特別講演.

#### 金ケ崎町医療セミナー, 金ケ崎町, 2013/3/5

1. 木村 祐輔: 食道癌のこと, 特別講演.

#### 岩手県立千厩病院 緩和ケアセミナー, 一関市, 2013/3/15

1. 木村 祐輔: がん治療と平行して行う緩和ケア, 特別講演.

#### 第1回秋田市北部地区緩和ケア講演会 臨床のための緩和ケアセミナー, 秋田市, 2013/3/19

1. 木村 祐輔: がん治療と平行して行う緩和ケア, 特別講演.

## 腹腔鏡下胃切除講習会, 須賀川市, 2013/3/23

1. 肥田 圭介: 実習動物の解剖について, 講師.

## 日本外科学会, shanghai, China, 2013/3/28

1. Wakabayashi Go: Evolution of liver resection and how to use TachoSil, Invited Presentation.

## Nagoya Surgical-Oncology Forum, 名古屋, 2013/5/10

1. 大塚 幸喜: 大腸癌に対する腹腔鏡手術の標準化とさらなる適応拡大へ, 特別講演.

## 栃木県緩和ケアスプリングセミナー, 宇都宮市, 2013/5/17

1. 木村 祐輔: がん治療と平行して行う緩和ケア, 特別講演.

## 1st OITA SURG CLUB, 大分, 2013/5/25

1. 大塚 幸喜: S状結腸癌に対する腹腔鏡下手術手技 - 内視鏡外科技術認定医合格に向けて -, 特別講演.

## 第6回炎症性腸疾患市民公開講座, 盛岡, 2013/5/26

1. 大塚 幸喜: 炎症性腸疾患に対する外科治療 - 潰瘍性大腸炎 -, 基調講演.

## 第1回由利本荘緩和医療セミナー, 本荘市, 2013/7/26

1. 木村 祐輔: がん治療と平行して行う緩和ケア, 特別講演.

## 第3回Laparoscopic Surgery 中四国セミナー, 須賀川, 2013/7/27

1. 大塚 幸喜: S状結腸癌に対する腹腔鏡下手術手技, 特別講演.

## E-Lap the 2nd Seminar, 須賀川, 2013/8/24

1. 大塚 幸喜: 大腸癌に対する腹腔鏡下手術手技, 特別講演.

## ビデオカンファランス in 秋田, 秋田, 2013/9/21

1. 大塚 幸喜: S状結腸癌に対する腹腔鏡下手術手技, 特別講演.

## 京滋奈和 若手大腸外科医の会, 京都, 2013/9/24

1. 大塚 幸喜: S状結腸癌に対する腹腔鏡下手術手技, 特別講演.

## がんを知る月間 2013 市民公開シンポジウム, 盛岡, 2013/9/29

1. 若林 剛: 受けなきゃ損! がん検診, シンポジウム.

## 第5回内視鏡外科手術室チーム勉強会 SOW セミナー, 大阪, 2013/10/5

1. 大塚 幸喜: 腹腔鏡下大腸癌手術の標準化のためには - チーム医療の重要性 -, 特別講演.

## 第1回千駄木内視鏡セミナー, 東京, 2013/10/11

1. 大塚 幸喜: S状結腸癌に対する腹腔鏡下手術手技 - 内視鏡外科技術認定医合格に向けて -, 特別講演.

## 北東北がんコンソーシアム がん緩和ケアにおける地域連携の構築, 盛岡, 2013/10/12

1. 木村 祐輔: ~切れ目のない緩和ケアを目指して~ 岩手県における緩和ケアの地域連携, 特別講演.

## 在宅緩和ケア研修会, 盛岡, 2013/10/18

1. 木村 祐輔: がん治療と痛みの治療, 特別講演.

## いわて感染症講演会, 盛岡市, 2013/10/18

1. 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 若林 剛: 食道がん治療におけるカスプファンギンの使用経験, 一般口演.

## 第3回広島先端医療低侵襲外科フォーラム, 広島, 2013/10/25

1. 大塚 幸喜: 腹腔鏡下大腸癌手術困難症例におけるコツとピットフォール, 特別講演.

## 大曲高校出前講義, 大曲, 2013/10/30

1. 大塚 幸喜: 大腸外科医から見た外科医とは - 私が歩んでいるラパロスコピックサージェリー -, 講義.

## 第9回岩手県北 NST 学術講演会, 二戸市, 2013/11/6

1. 木村 祐輔: 重症患者における栄養管理 最新の知見 食道癌手術周術期管理を中心として, 特別講演.

## 第2回がん治療と緩和ケア講演会, 新潟, 2013/11/7

1. 木村 祐輔: がん治療と平行して行う緩和ケア, 特別講演.

## 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 第1回緩和ケア部会, 東京, 2013/12/9

1. 木村 祐輔: 緩和ケア研修会 岩手県の取り組み, 特別講演.

## 第2回ラパコロン技術セミナー茨城, 茨城, 2013/12/21

1. 大塚 幸喜: 超音波凝固切開装置を駆使した大腸癌に対する腹腔鏡手術, 特別講演.

## 高大連携インターセッション, 盛岡, 2013/10/30

1. 大塚 幸喜: 進行大腸がんに対する腹腔鏡手術 - がんには厳しく、体にはやさしい手術 -, 講義.

The 27th Annual Meeting of the Japan Society for Endoscopic Surgery  
**第27回日本内視鏡外科学会総会**  
*“Improving Quality of Endoscopic Surgery”*  
 動作制限を克服して、拡大視効果を楽しむ

会期: 2014年10月2日(木)~4日(土)  
 会場: マリオス(盛岡地域交流センター)  
 アイーナ(いわて県民情報交流センター)  
 ホテルメトロポリタン盛岡 本館  
 ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING  
 会長: 若林 剛(岩手医科大学外科学講座)

<http://www2.convention.co.jp/jses27/>

第27回日本内視鏡外科学会総会  
 事務局  
 事務局長: 佐々木 章  
 岩手医科大学外科学講座  
 〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19-1  
 Tel: 019-651-5111 (内線 3627)  
 Fax: 019-651-7166

第27回日本内視鏡外科学会総会  
 運営準備室  
 日本コンベンションサービス株式会社  
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2  
 大同生命館が関ビル8階  
 Tel: 03-3508-1214  
 Fax: 03-3508-1302  
 E-mail: jses27@convention.co.jp



第2回  
**腹腔鏡下肝切除術  
 国際コンセンサス会議**

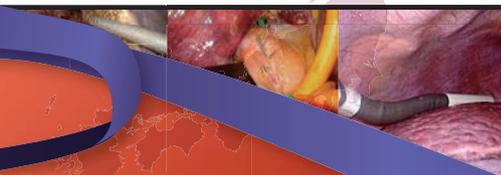
The 2nd International Consensus Conference on  
 Laparoscopic Liver Resection

2014年  
**10月4日(土)~6日(月)**

会場 盛岡グランドホテル 〒020-8501 岩手県盛岡市愛宕下 1-10

議長 Go Wakabayashi (岩手医科大学医学部 外科学講座 教授)

テーマ Improving Quality of Laparoscopic Liver Resection



INVITED PANELS (2014年4月18日時点)		
Mohammad Abu Hilal	Ho-Seong Han	Olivier Scatton
Horacio Asbun	William Jarnagin	Olivier Soubrane
Jeffrey Barkun	Hironori Kaneko	Steven Strasberg
Giulio Belli	Ki-Hun Kim	Russell Strong
Joseph Buelc	Alan J. Koffron	Atsushi Sugitaka
Xinjun Cai	Norihiro Kokudo	Minoru Tanabe
Daniel Cherqui	Choon Hyuck David Kwon	Chung-Nygal Tang
Gi Hong Choi	Sung-Gyu Lee	Roberto Troisi
Pierre-Alain Clavien	Chung-Mau Lo	Allan Tsung
Ibrahim Dagher	Marcel Aufran Machado	Ronald Van Dam
Ejona Edlwin	Nicholas O'Rourke	Masakazu Yamamoto
Drice Gayet	Juan Pekolj	
David Geller	Patrick Pessaux	

学術協賛 岩手医科大学 医学部 外科学講座  
 〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19-1 URL: <http://surgery.iwate-med.ac.jp/>

運営協賛 日本コンベンションサービス株式会社

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命館が関ビル8階  
 TEL: 03-3508-1214 FAX: 03-3508-1302 E-mail: [iclls2014@convention.co.jp](mailto:iclls2014@convention.co.jp)

<http://www2.convention.co.jp/ICLLS2014>

## 編集後記

「教室年報」になって今回で8回目の発行になります。ヤマダプランニングの八重畑さん、そして教室秘書達のおかげでこの8年間なんとかやってこれましたが、今年4月から医局長を拝命したこともあり、来年から年報編集を後輩に譲りたいと思います。八重畑さん、教室秘書のみなさん、本当にありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

最後に、ご執筆いただきました関連病院の先生方、編集に協力していただいた教室員、年写真撮影や画像を提供してくださっている画像情報センターの大村直樹さんに深謝を申し上げるとともに、巖刀会の先生方、ご寄稿いただいた先生方の益々のご健勝を心からお祈り申し上げます。

平成26年6月

大塚 幸喜





#### 表紙説明

撮影：2014.5.11

写真は、林檎の花に囲まれた岩手山です。

私の散歩道である盛岡の北山散策路は、愛宕山～北山～高松の池を結ぶ約4キロメートル、1時間ほどのコースで、自然観察などを楽しめます。果樹園など明るくのどかな散策路の周辺は、季節の野鳥や植物等の観察に適していて、岩手山や駒ヶ岳、姫神山の眺望にも恵まれています。ゴールデンウィークにこの散策路で林檎の花が満開でしたので、岩手山とともに撮影しました。盛岡市在中 佐々木 章(岩手医科大学外科学講座)

**巖刀会** (がんとうかい: 岩手山別称(巖鷲山)から1字とり、岩手の外科医の象徴の意)